

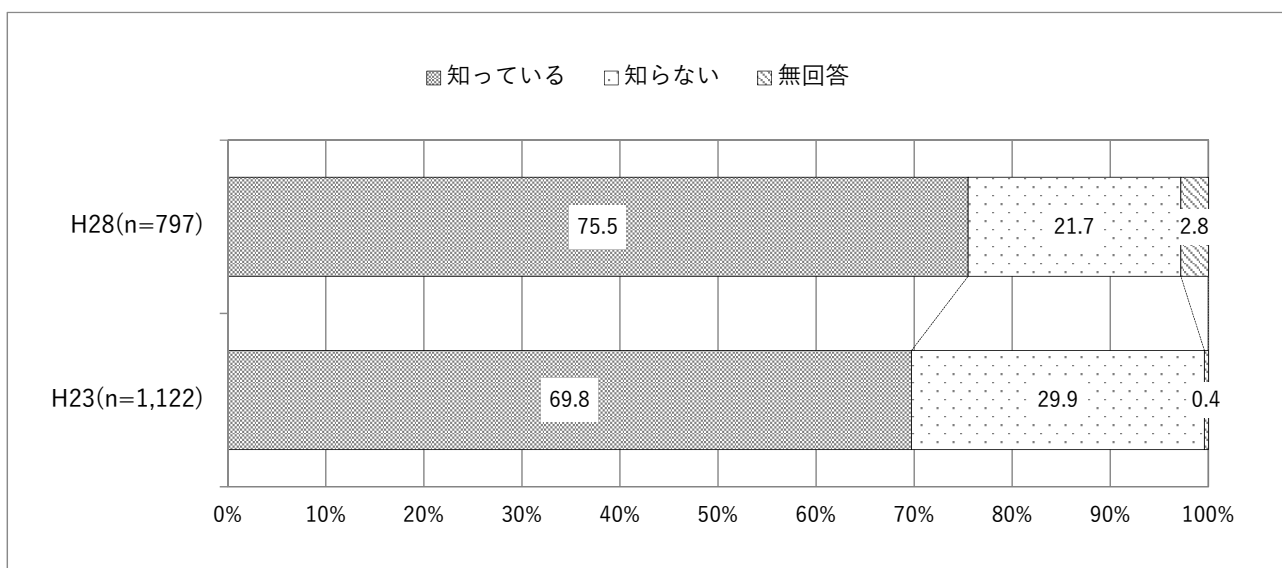
IV 調査結果の概要

1 男女共同参画社会について

問2 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。

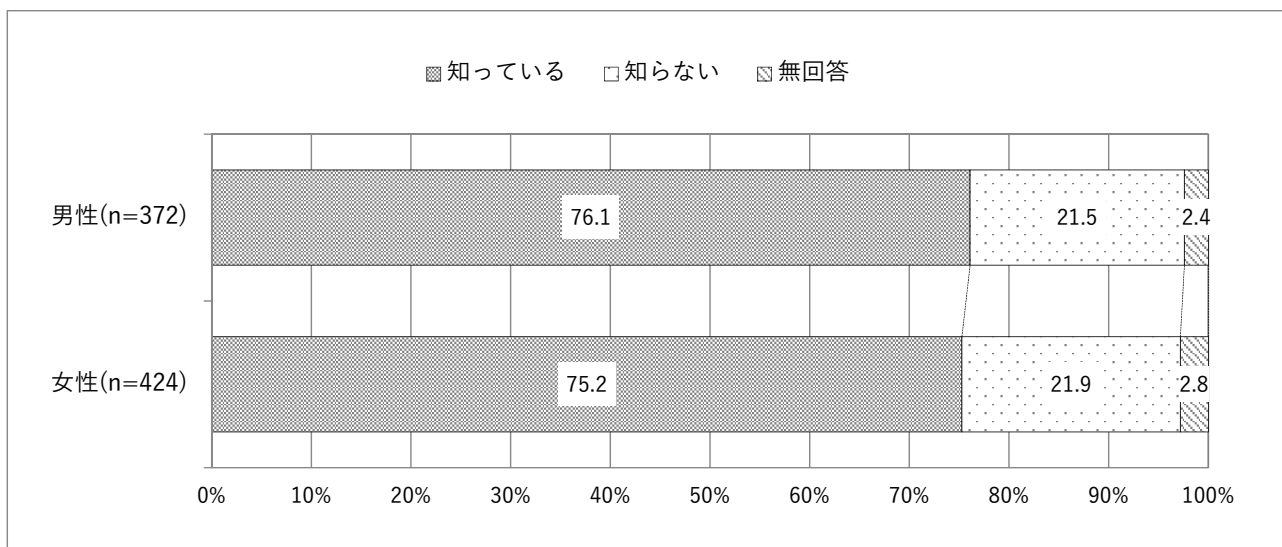
【経年比較】

全体では、「知っている」602人（75.5%）、「知らない」173人（21.7%）となっている。
前回調査と比較してみると、「知っている」の割合が5.7ポイント増加している。



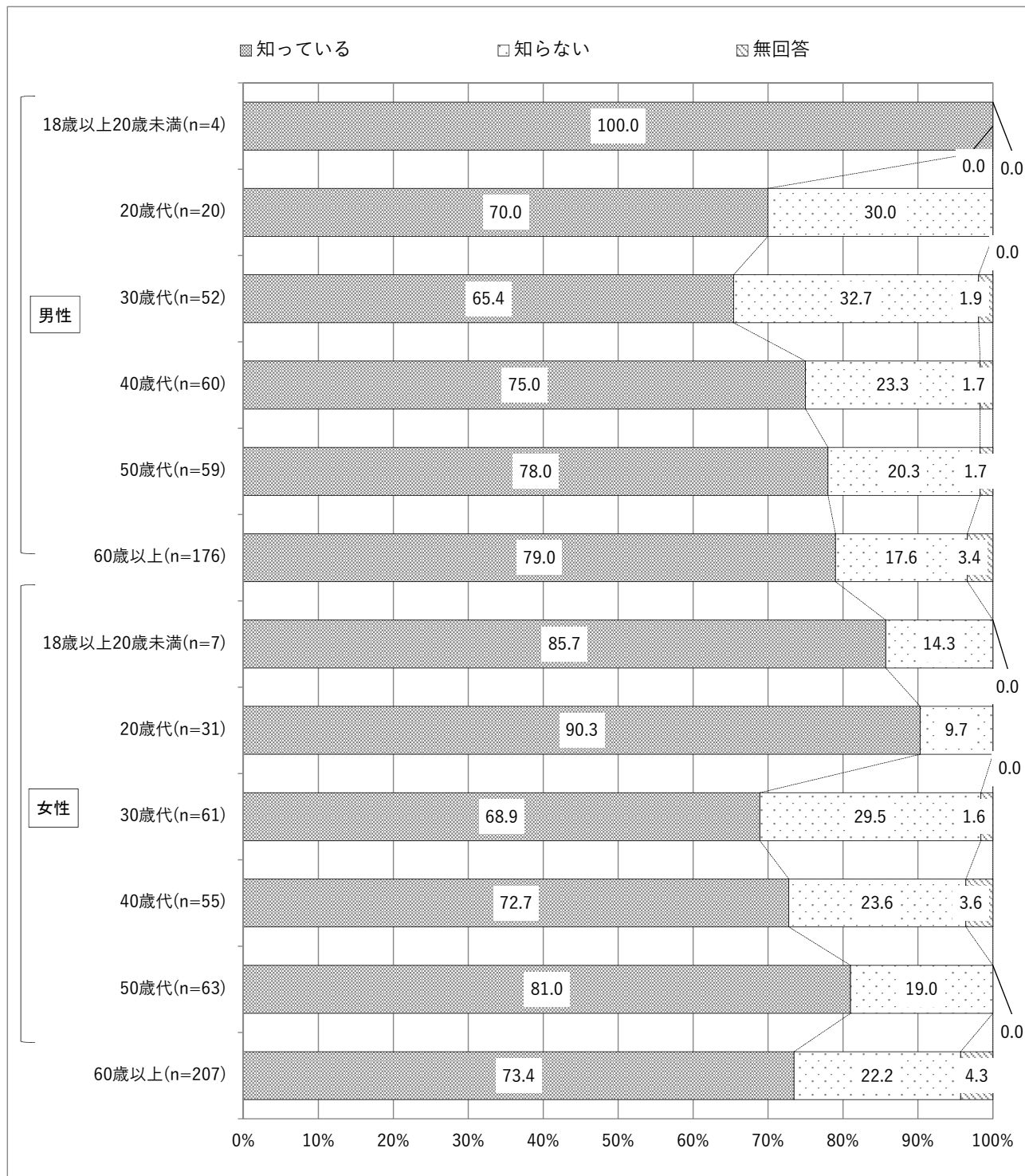
【男女比較】

性別でみると、男性では「知っている」283人（76.1%）、「知らない」80人（21.5%）、女性では「知っている」319人（75.2%）、「知らない」93人（21.9%）であり、男女で認知度に差はほとんどない。



【年代比較】

年代別では、男性では18歳以上20歳未満での認知度が100.0%で最も高い。女性では、18歳以上20歳未満が85.7%、20歳代が90.3%で認知度が高く、若年層の方が認知されている。



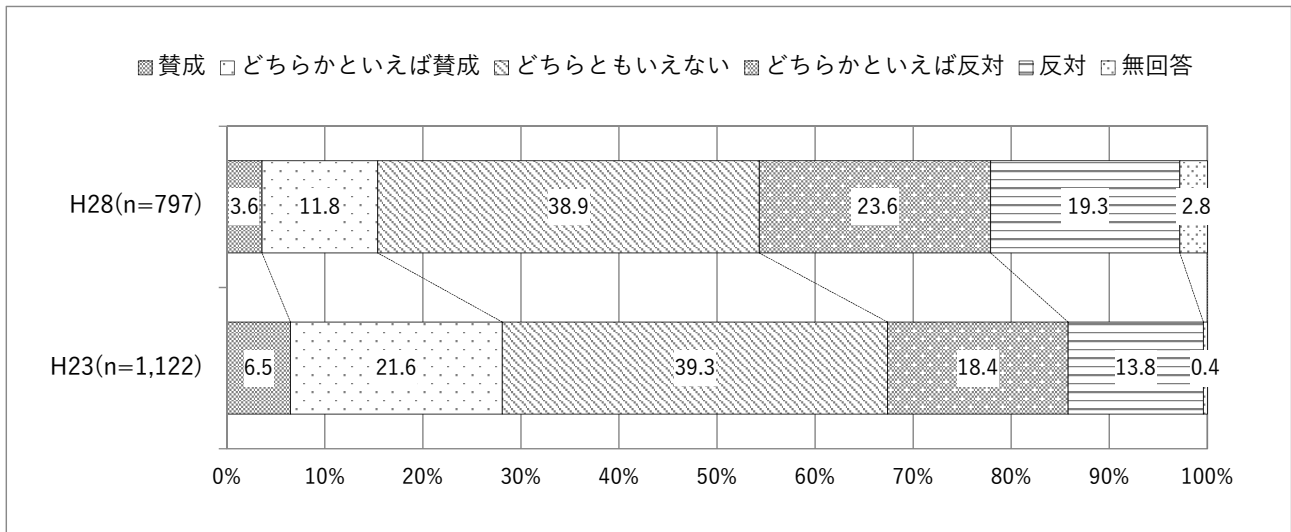
2 ジェンダー意識・男女の地位について

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこのような考え方についてどう思いますか。

【経年比較】

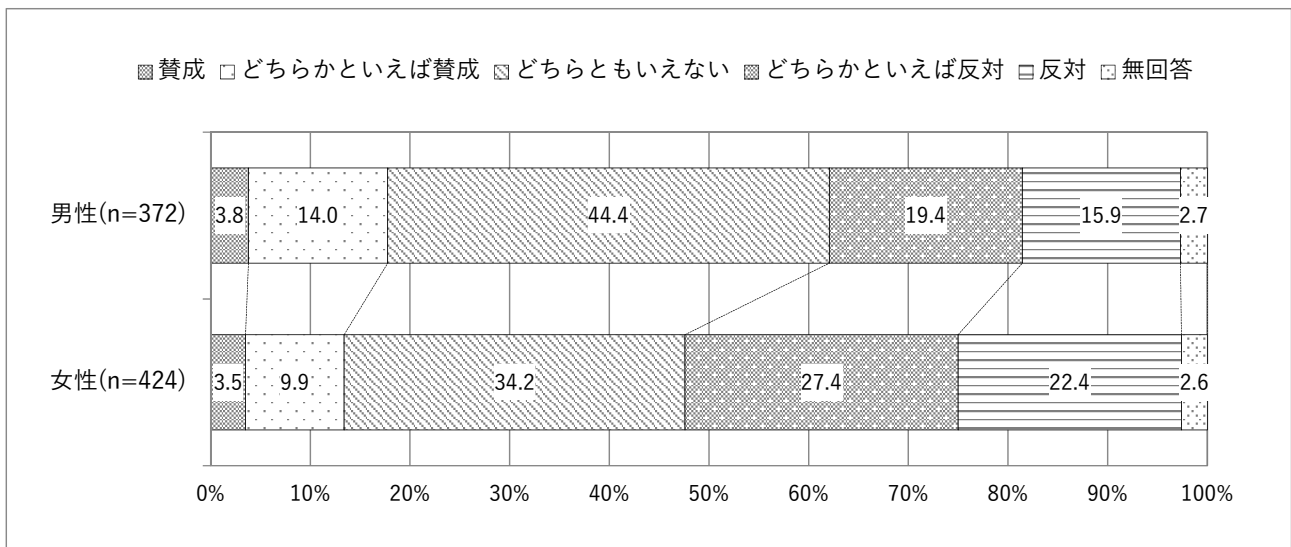
全体では、「どちらともいえない」が310人（38.9%）と最も多く、次に「どちらかといえば反対」が188人（23.6%）、「反対」が154人（19.3%）となっている。

前回調査と比較すると、「賛成」「どちらかといえば賛成」の割合が減少し、「反対」「どちらかといえば反対」の割合が増加している。



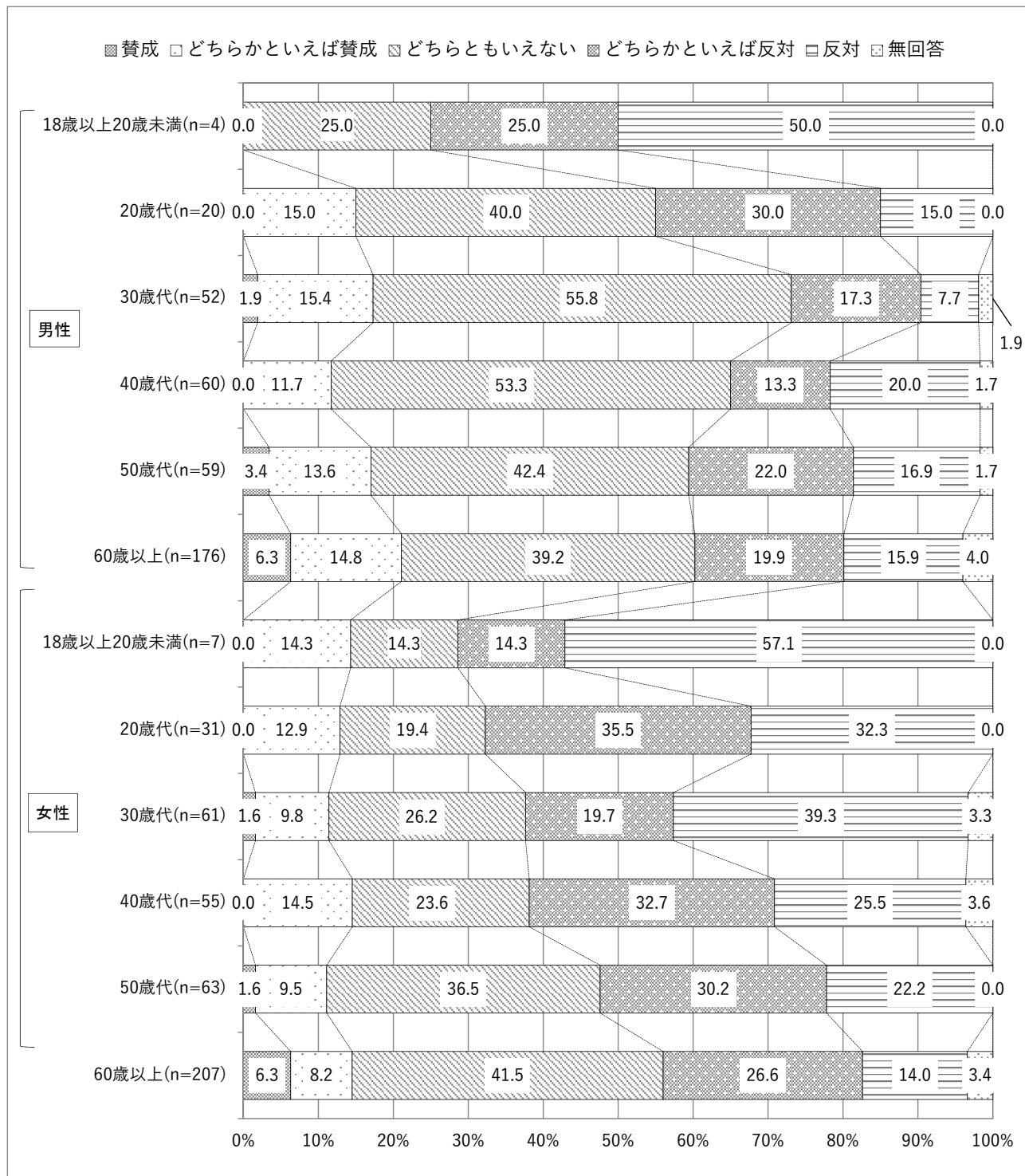
【男女比較】

性別で見ると、男性では「どちらかといえば反対」19.4%、「反対」15.9%に対して、女性では「どちらかといえば反対」27.4%、「反対」22.4%であり、女性の方がこの考え方に反対という意見が多く、半数を占めている。



【年代比較】

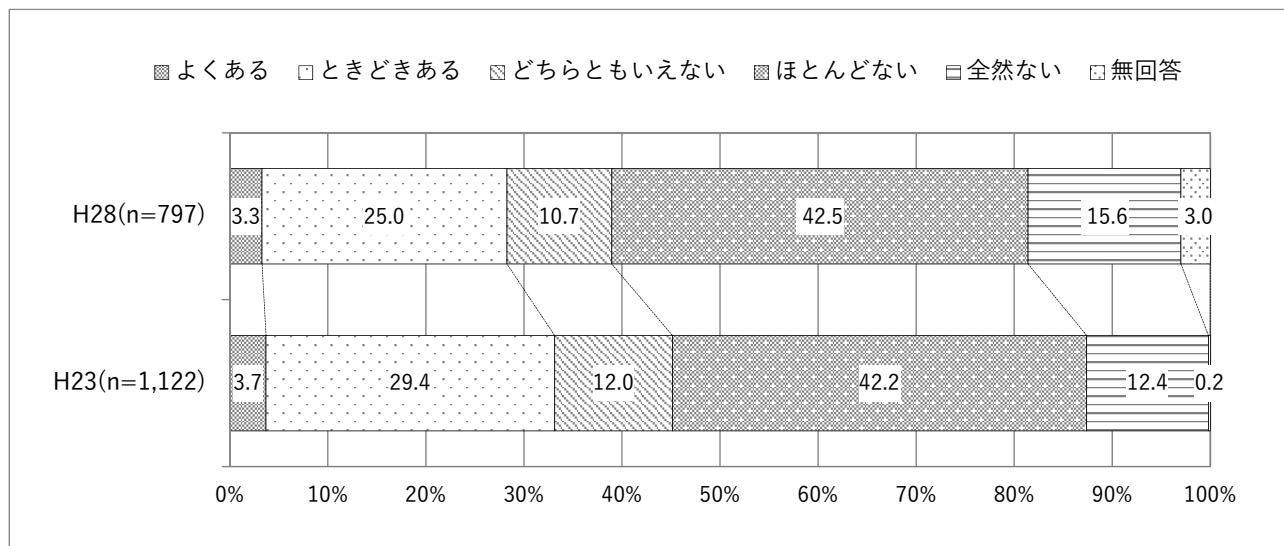
年代別では、18歳以上20歳未満で男女ともに「反対」と回答した人が半数となっている。女性では、若い世代ほど、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した割合が高くなっている。



問4 あなたは、男性または女性であるという理由で不快な思いをしたり、不満を感じたりすることはありますか。

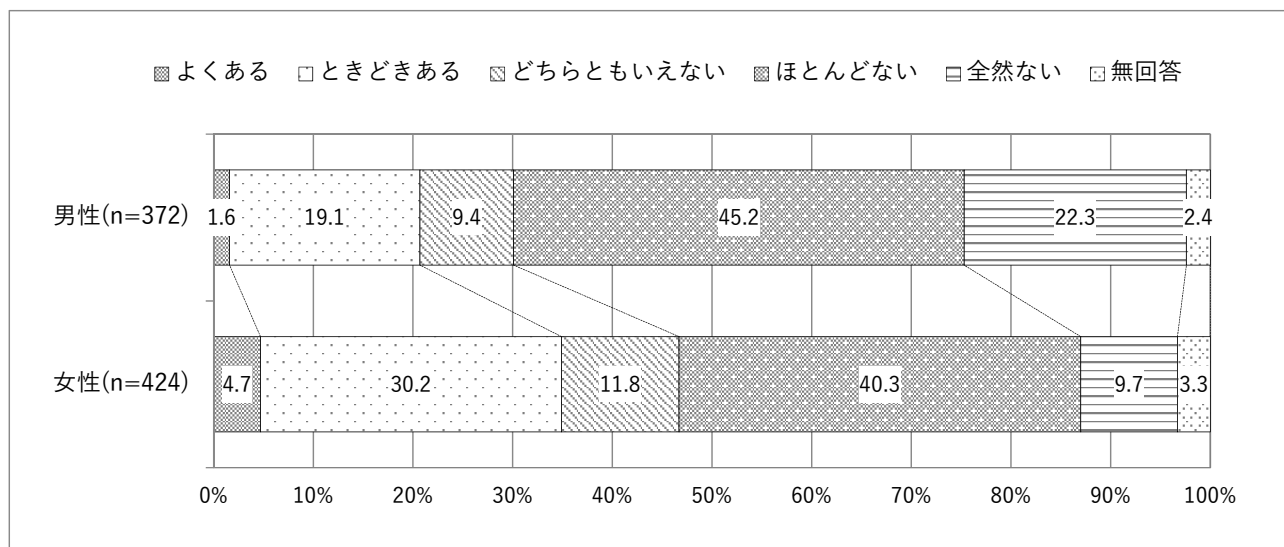
【経年比較】

全体では、「よくある」「ときどきある」が28.3%、「ほとんどない」「全然ない」が58.1%である。前回調査と比較してみると、「全然ない」の割合が3.2ポイント増加している。



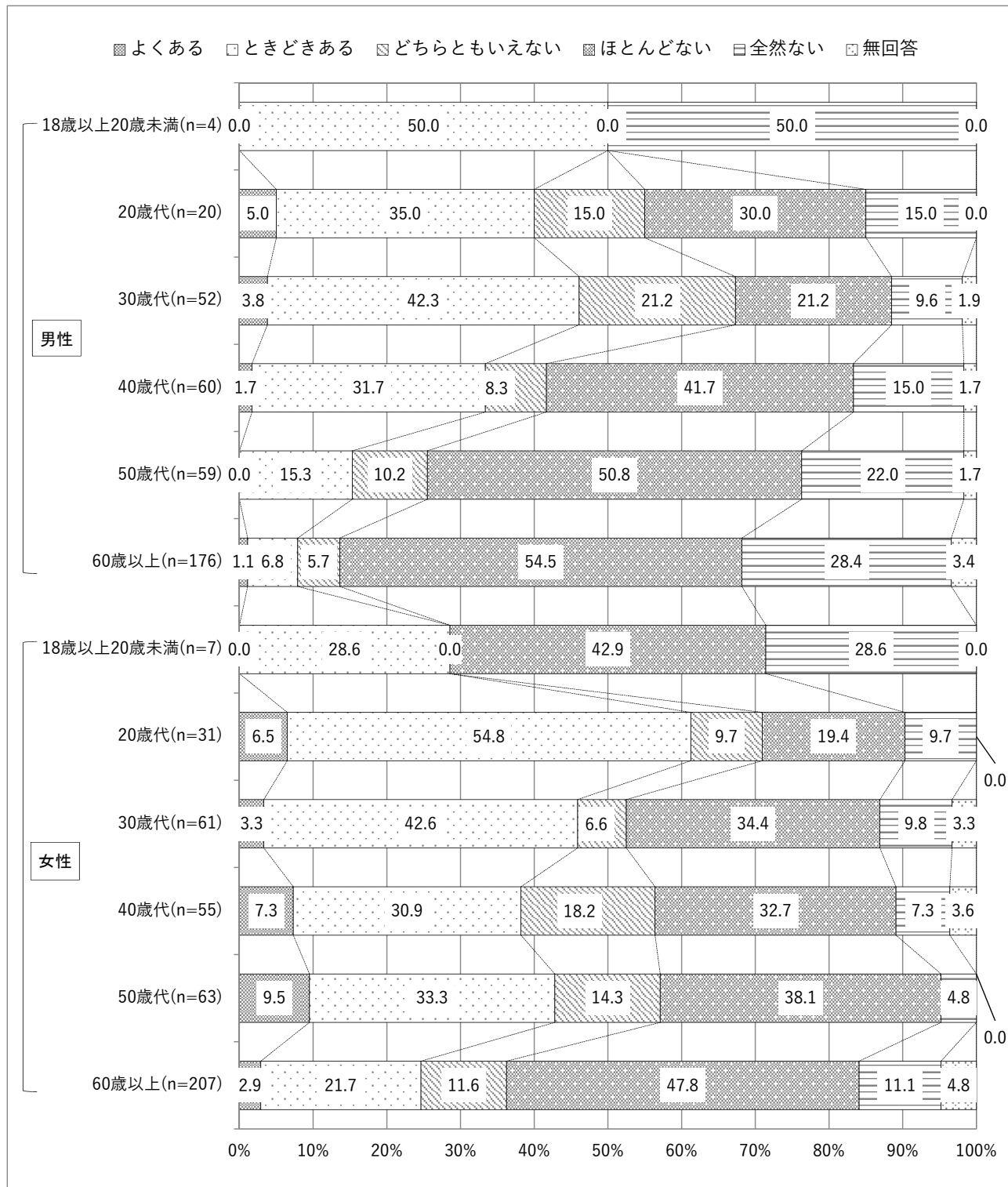
【男女比較】

性別でみると、男性では「よくある」1.6%、「ときどきある」19.1%と約2割だが、女性では「よくある」4.7%、「ときどきある」30.2%と3割以上となっており、女性の方が不快な思いや不満を感じている人が多い。



【年代比較】

年代別では、男性では高齢になるほど「ほとんどない」「全然ない」と回答した人の割合が高い。女性では、20歳代で「よくある」「ときどきある」と回答した人が61.3%と多い。

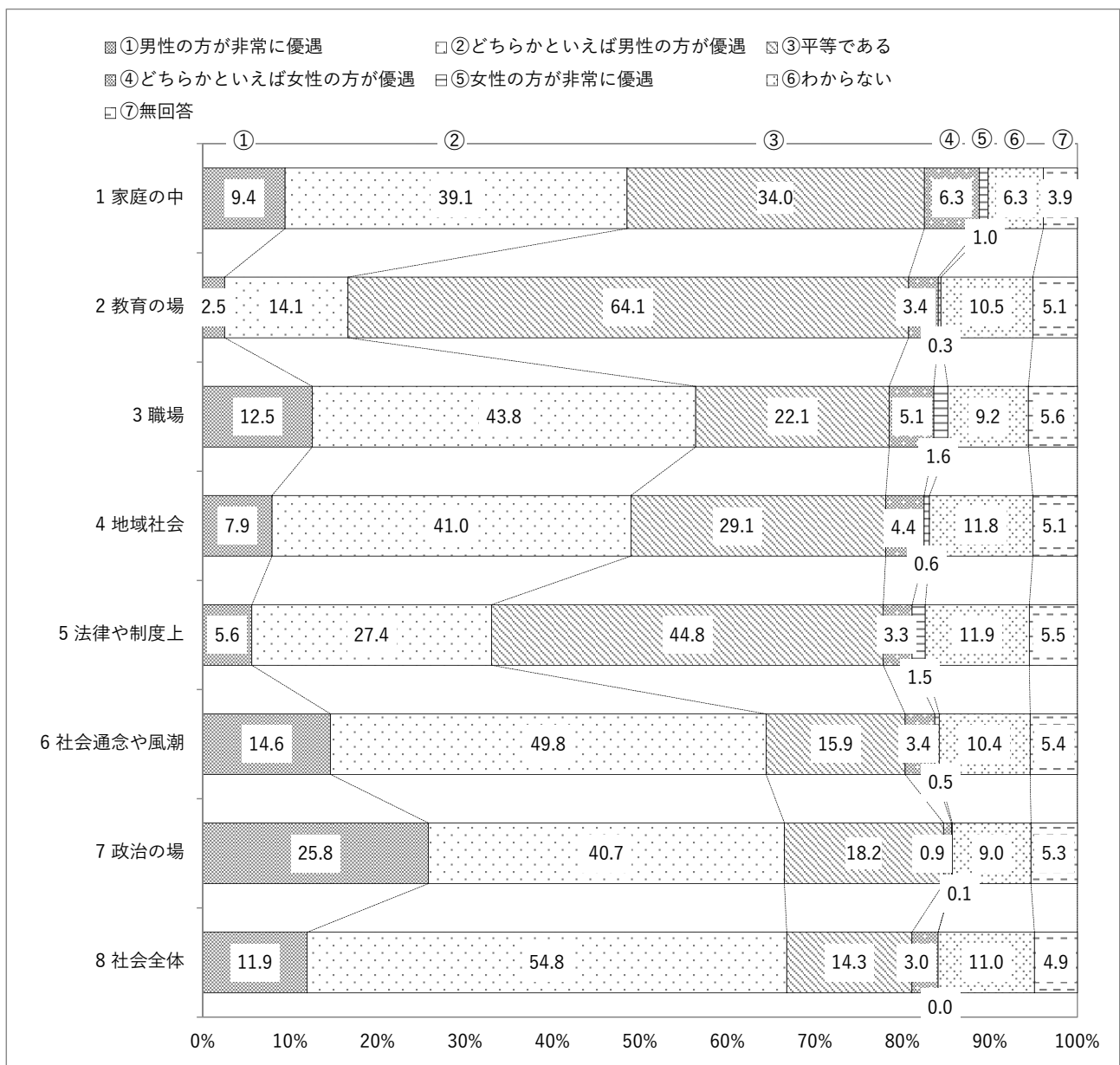


問5 あなたは次の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。

- 1 家庭の中では
- 2 教育の場では
- 3 職場では
- 4 地域社会では
- 5 法律や制度上では
- 6 社会通念や風潮では
- 7 政治の場では
- 8 社会全体では

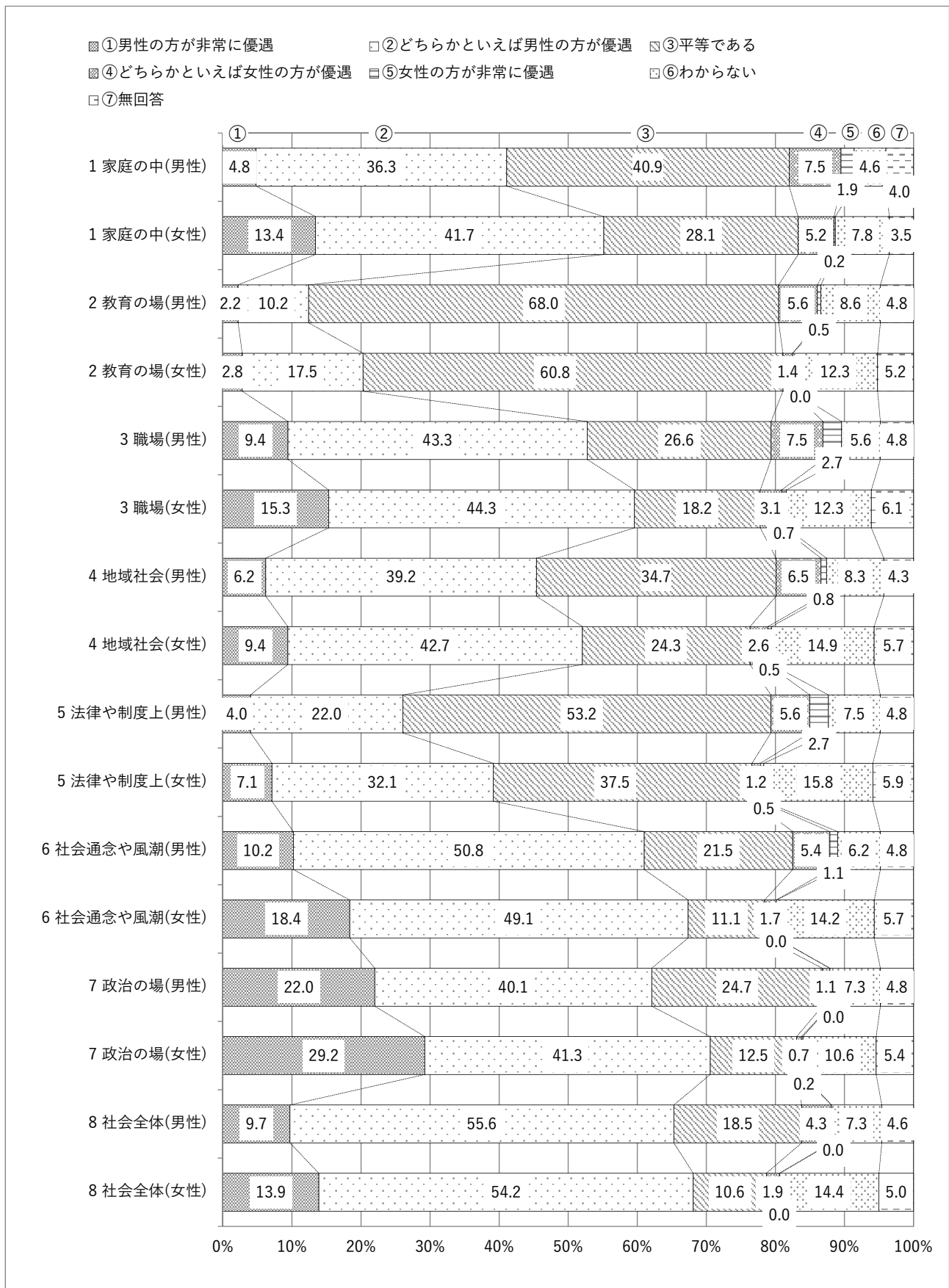
【全体 (n=797)】

「平等である」と答えた割合が最も高いのは、「2 教育の場」で64.1%だった。次に「5 法律や制度上」が44.8%と高い。「平等である」と答えた割合が最も低いのは、「8 社会全体」で14.3%、次に「6 社会通念や風潮」15.9%、「7 政治の場」18.2%である。



【男女比較（男性 n=372、女性 n=424）】

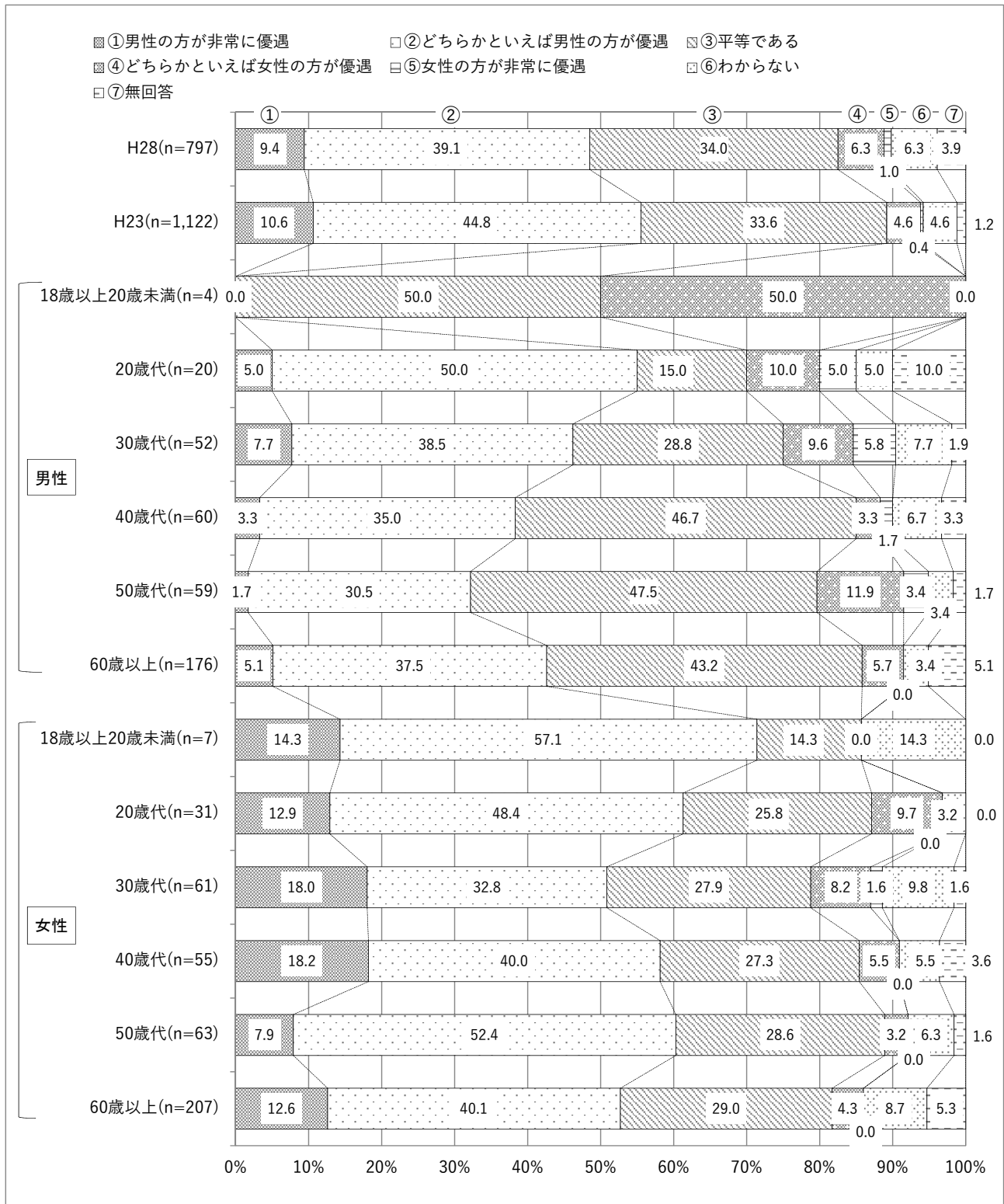
全ての項目で、「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」を合わせた割合が、男性より女性の方が高くなっている。



【経年・年代比較（問 5-1 家庭の中では）】

「家庭の中」において、男性では、20 歳代、30 歳代が男性の方が優遇されていると感じている割合が高い。女性では、18 歳以上～20 歳未満、20 歳代、40 歳代、50 歳代が男性の方が優遇されていると感じている割合が高い。

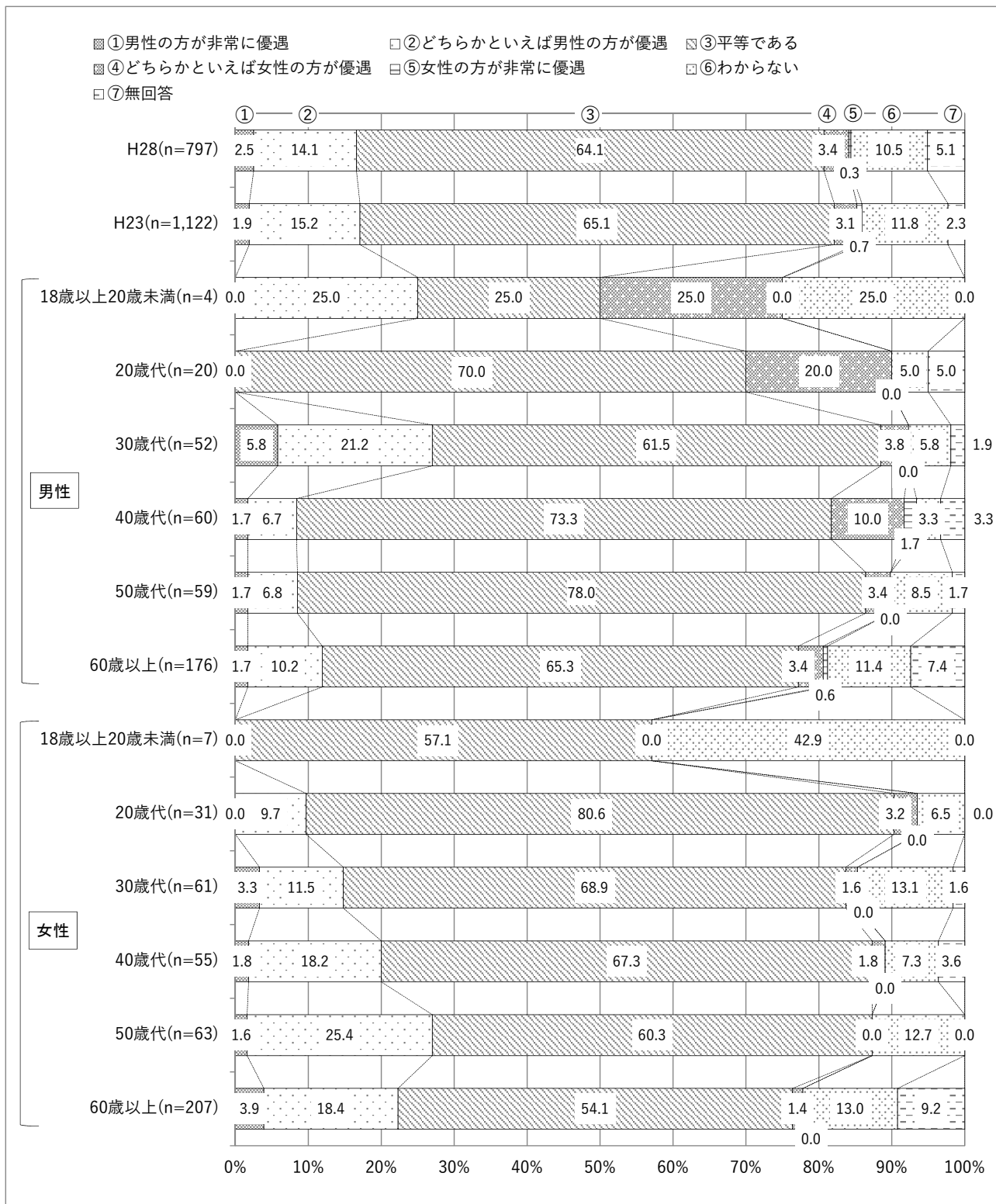
前回調査と比較してみると、「男性の方が非常に優遇」「どちらかといえば男性の方が優遇」と感じている割合が、6.9 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 5-2 教育の場では）】

「教育の場」において、男性では、20 歳代、40 歳代、50 歳代が平等であると感じている割合が高い。
女性では、20 歳代が平等であると感じている割合が高い。

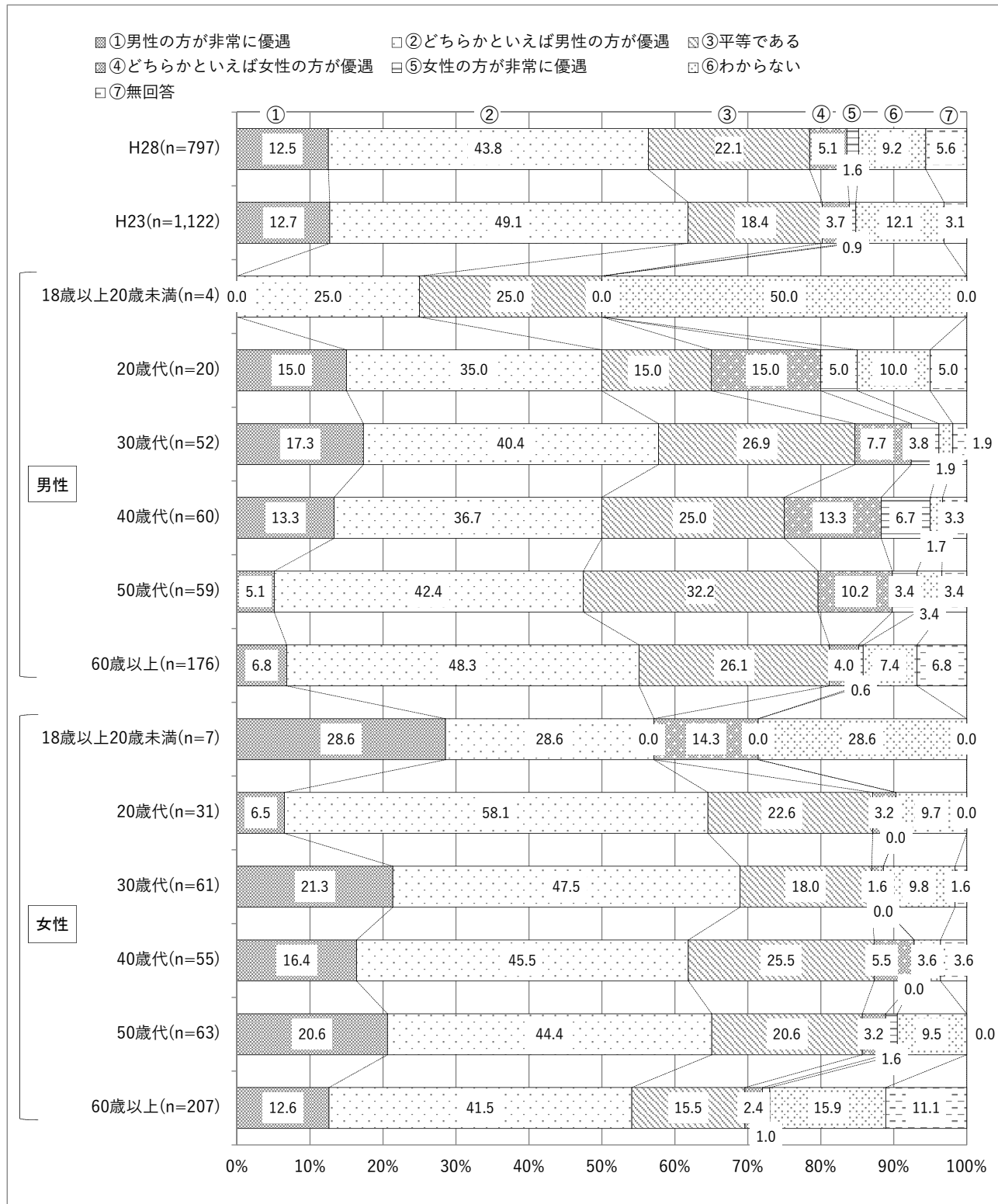
前回調査と比較してみると、大きな違いはない。



【経年・年代比較（問 5-3 職場では）】

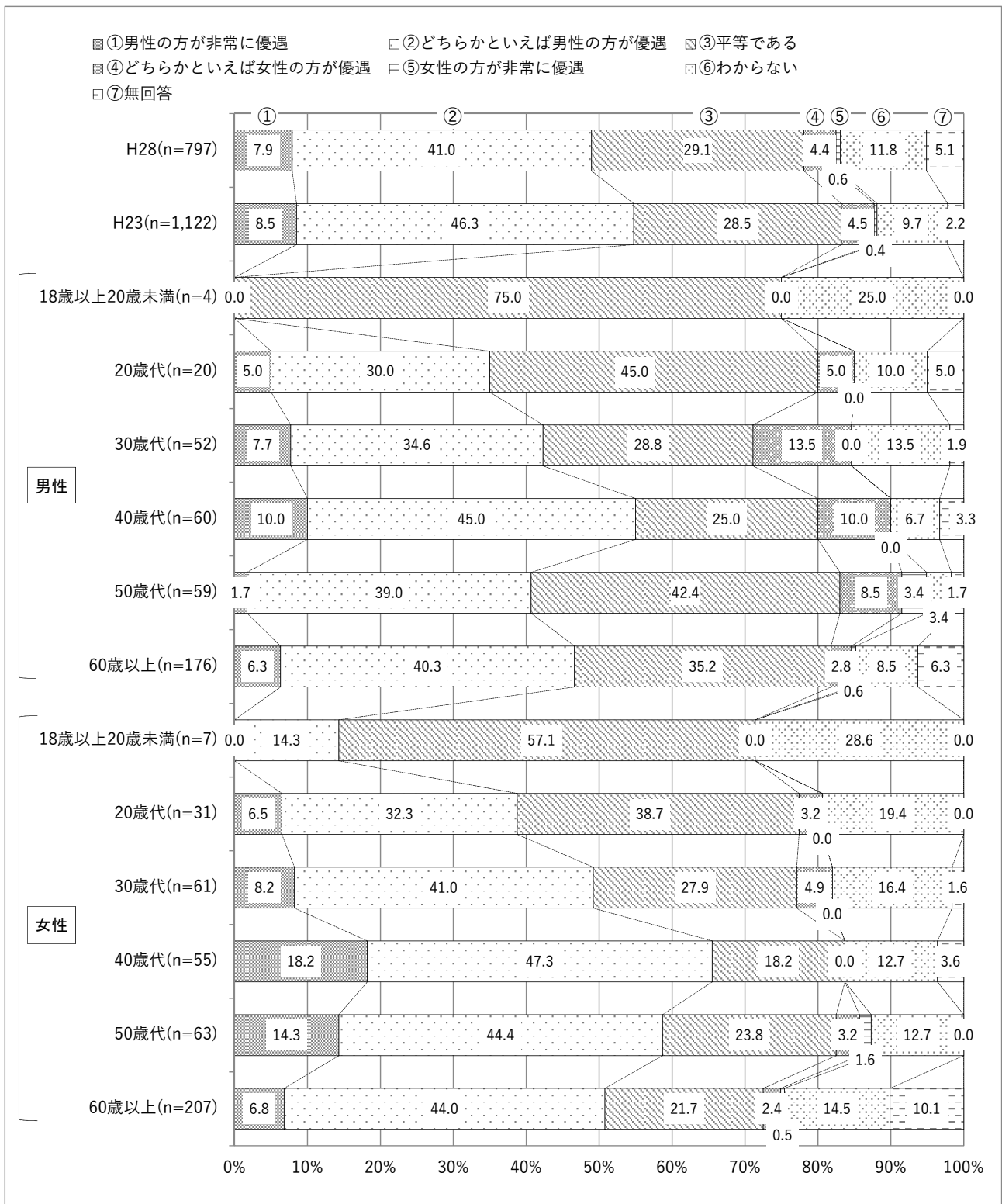
「職場」において、男性ではどの年代も約 5 割が男性に優遇、女性では約 6 割以上が男性に優遇と答えている。

前回調査と比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇」と答えている割合が 5.3 ポイント減少し、「平等である」が 3.7 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 5-4 地域社会では）】

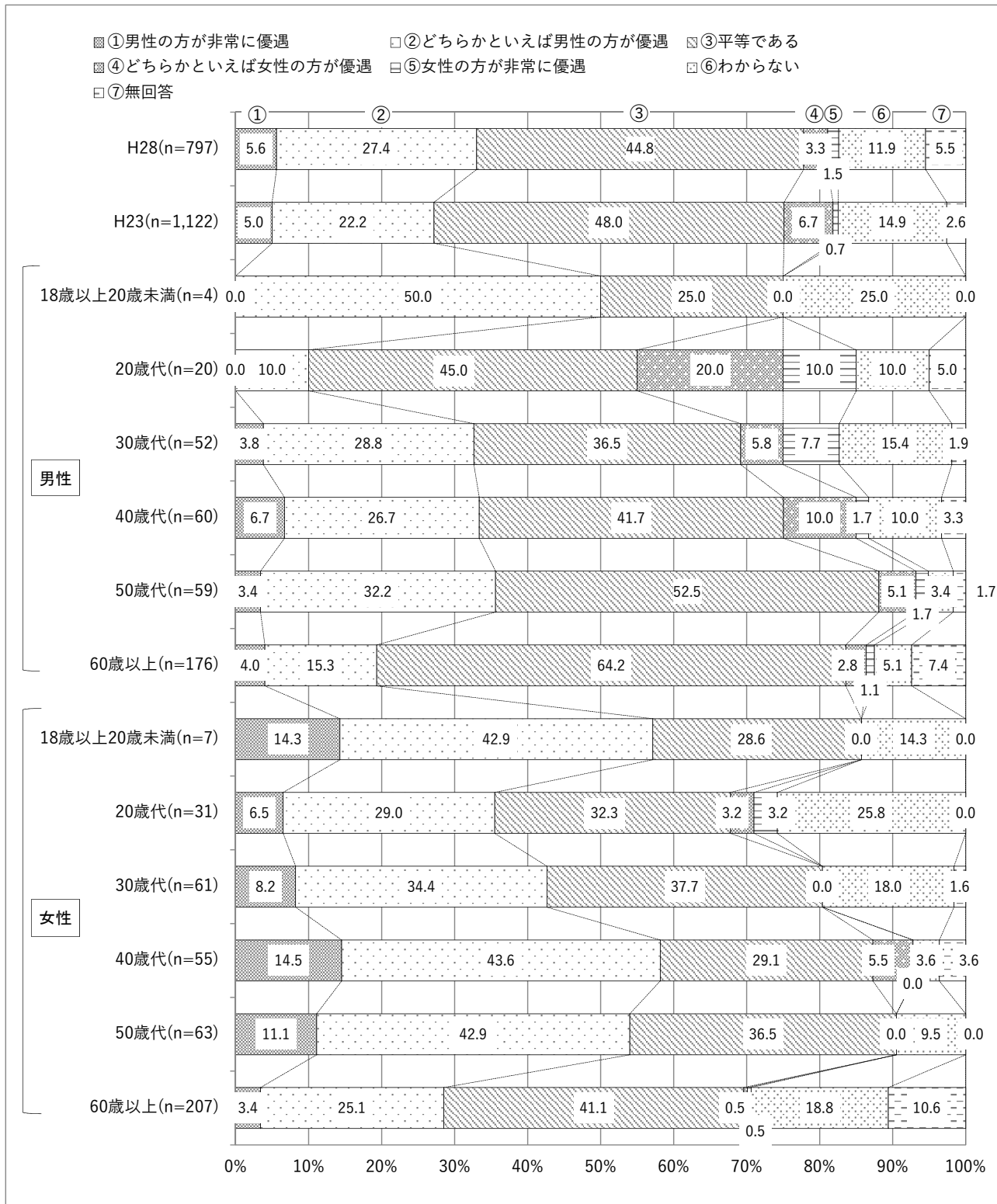
「地域社会」において、男女ともに 40 歳代が、男性に優遇と答えた割合が、他の世代と比べて高い。前回調査と比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇」と答えた割合が 5.3 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 5-5 法律や制度上では）】

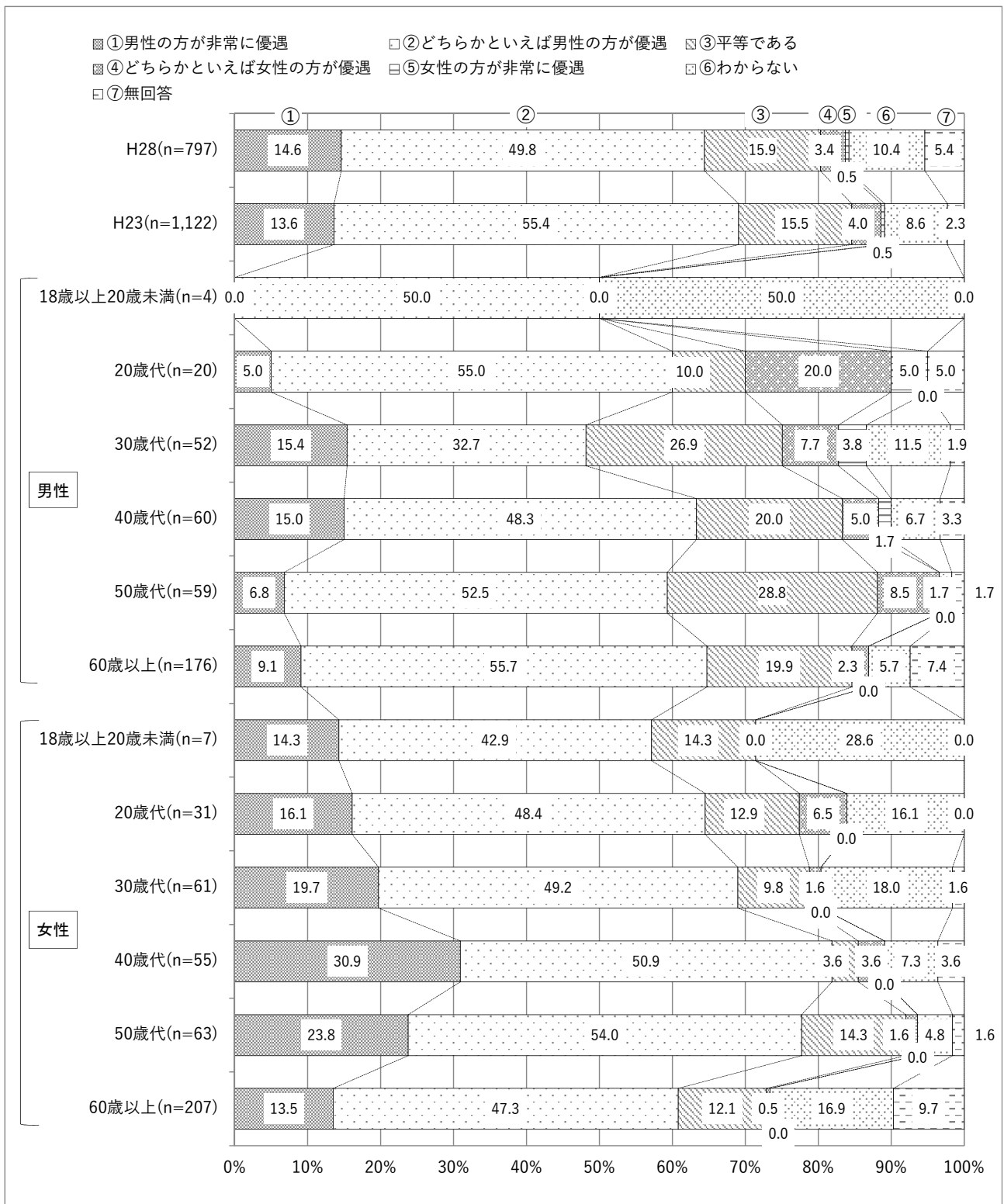
「法律や制度上」において、男女ともに 60 歳以上では「平等である」と答えた割合が各年代の中で最も高い。男性の 20 歳代では、女性に優遇と答えた割合が高い。

前回調査と比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇」と答えた割合が 5.2 ポイント増加している。「平等である」と答えた割合は 3.2 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 5-6 社会通念や風潮では）】

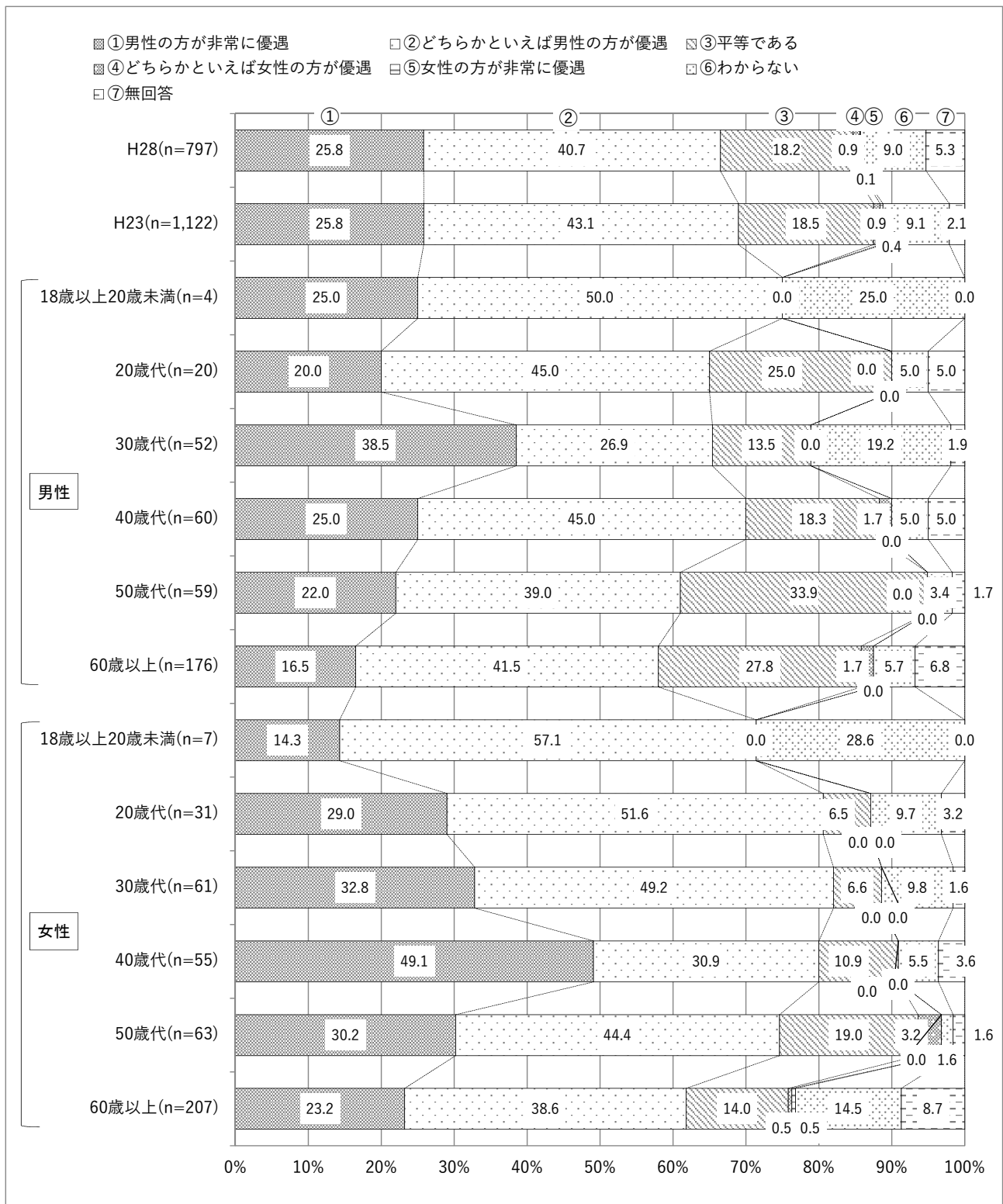
「社会通念や風潮」において、女性では、男性が優遇と答えた割合が40歳代で約8割と最も高い。前回調査と比較してみると、「どちらかといえば男性の方が優遇」と答えた割合が5.6ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 5-7 政治の場では）】

「政治の場」において、40歳代女性の約5割が「男性が非常に優遇」と答えている。30歳代男性の約4割も同様に「男性が非常に優遇」と答えており、男女ともに男性が優遇という認識がある。

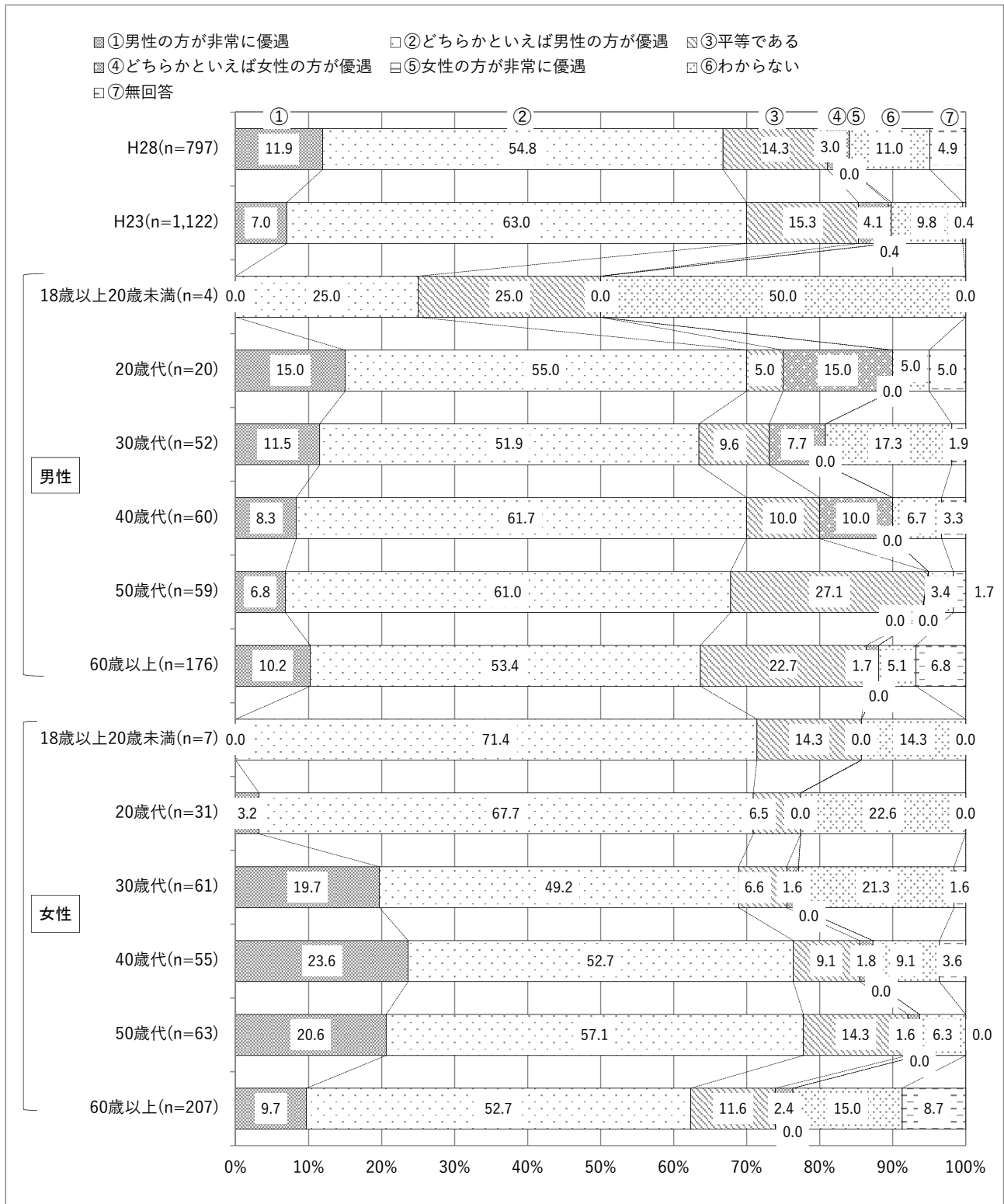
前回調査と比較してみると、大きな違いはない。



【経年・年代比較（問 5-8 社会全体では）】

「社会全体」において、男女ともに、男性に優遇と回答した割合が高く、女性の 40 歳代において「男性の方が非常に優遇」と回答した割合が高い。

前回調査と比較してみると、男性が優遇と答えた割合が 3.3 ポイント減少している。

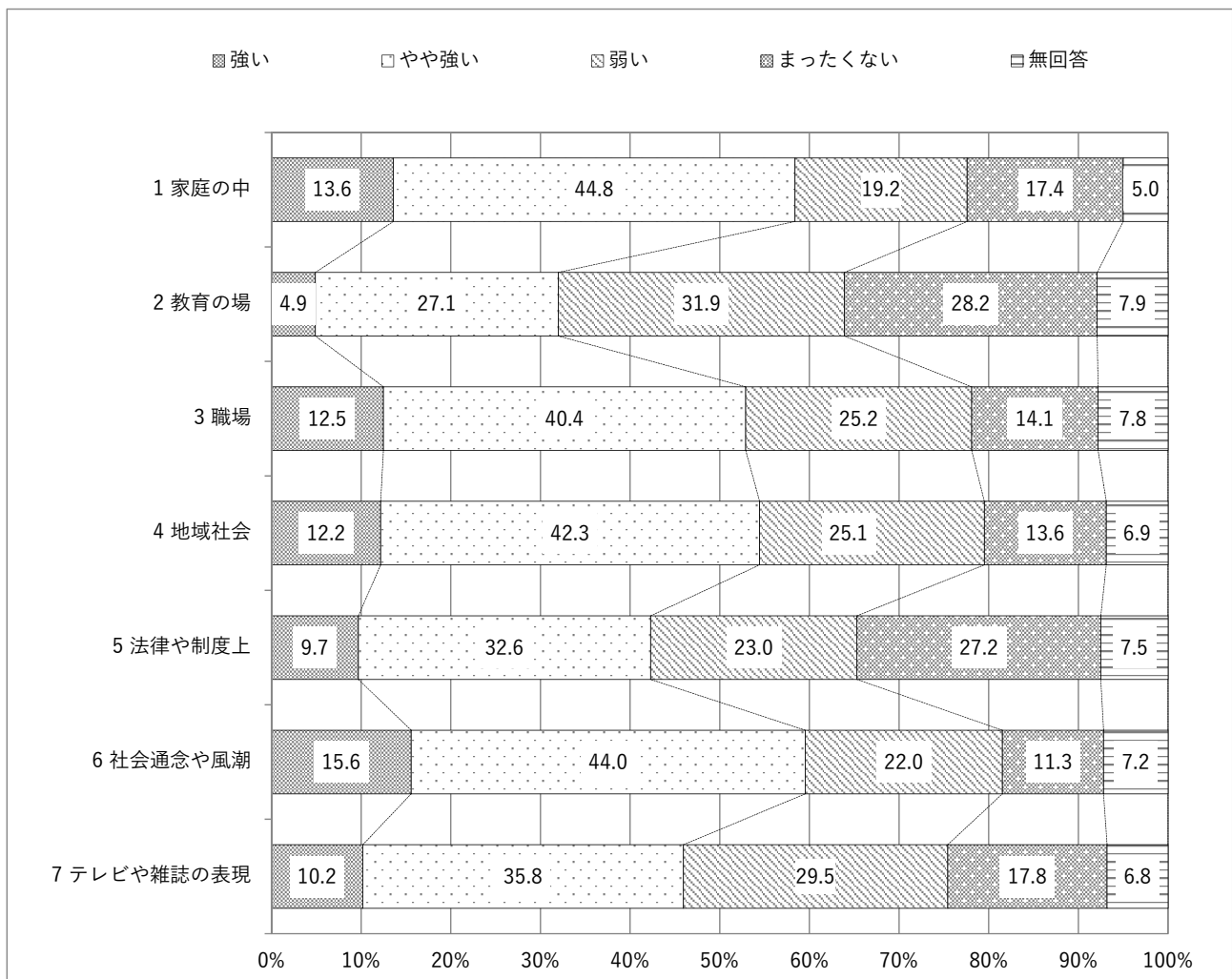


問6 次の分野の中で、「男はこうすべき、女はこうすべき」というように個人の能力や資質に関係なく、性別によって役割や特性を固定的にとらえる傾向があると思いますか。

- 1 家庭の中では
- 2 教育の場では
- 3 職場では
- 4 地域社会では
- 5 法律や制度上では
- 6 社会通念や風潮では
- 7 テレビや雑誌などの表現では

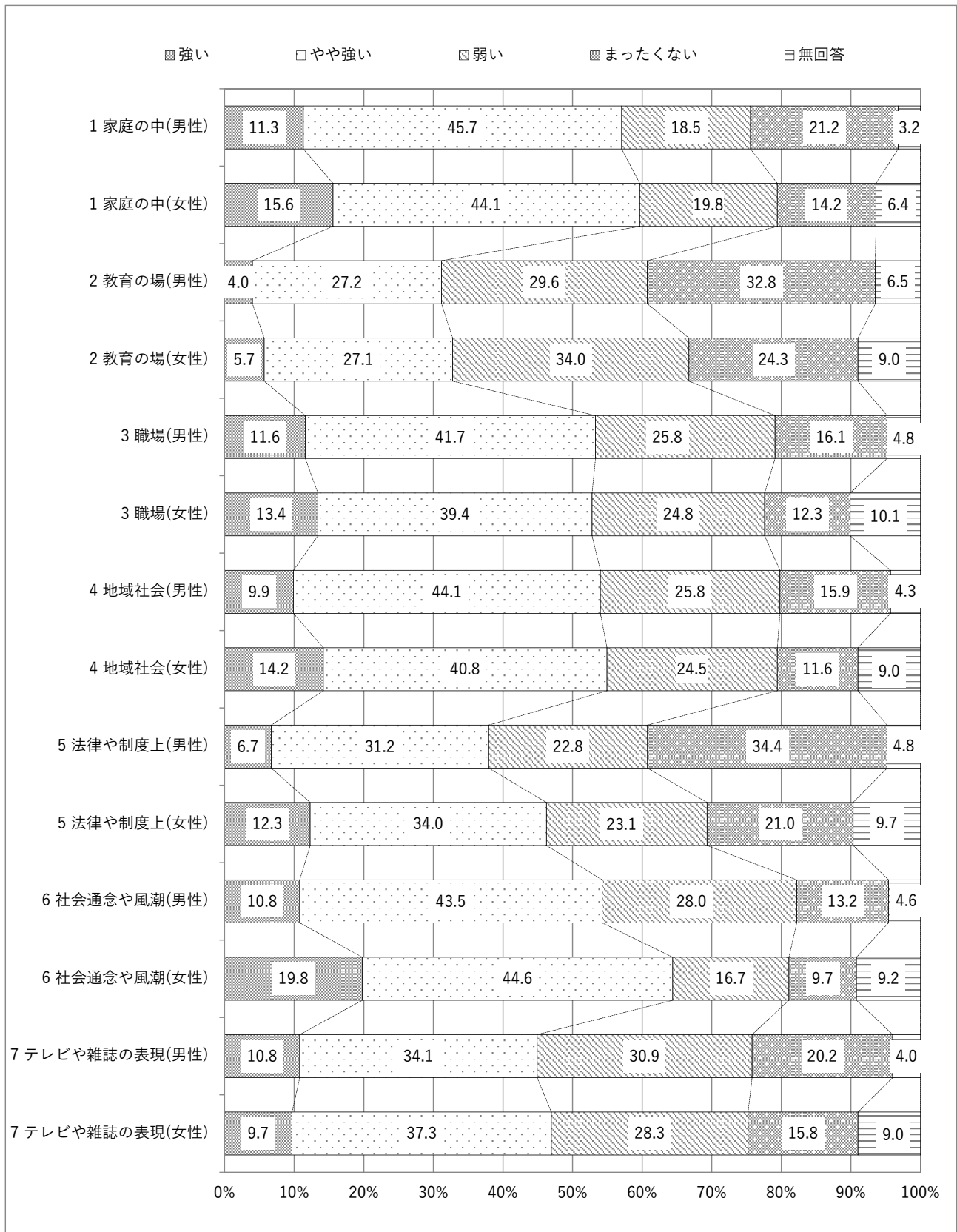
【全体 (n=797)】

「強い」「やや強い」と答えた人の割合は、「6 社会通念や風潮」が 59.6%と最も高く、次に「1 家庭の中」58.4%、「4 地域社会」54.5%、「3 職場」52.9%、「7 テレビや雑誌の表現」46.0%、「5 法律や制度上」42.3%と続き、「2 教育の場」が 32.0%と最も低くなっている。



【男女比較（男性 n=372、女性 n=424）】

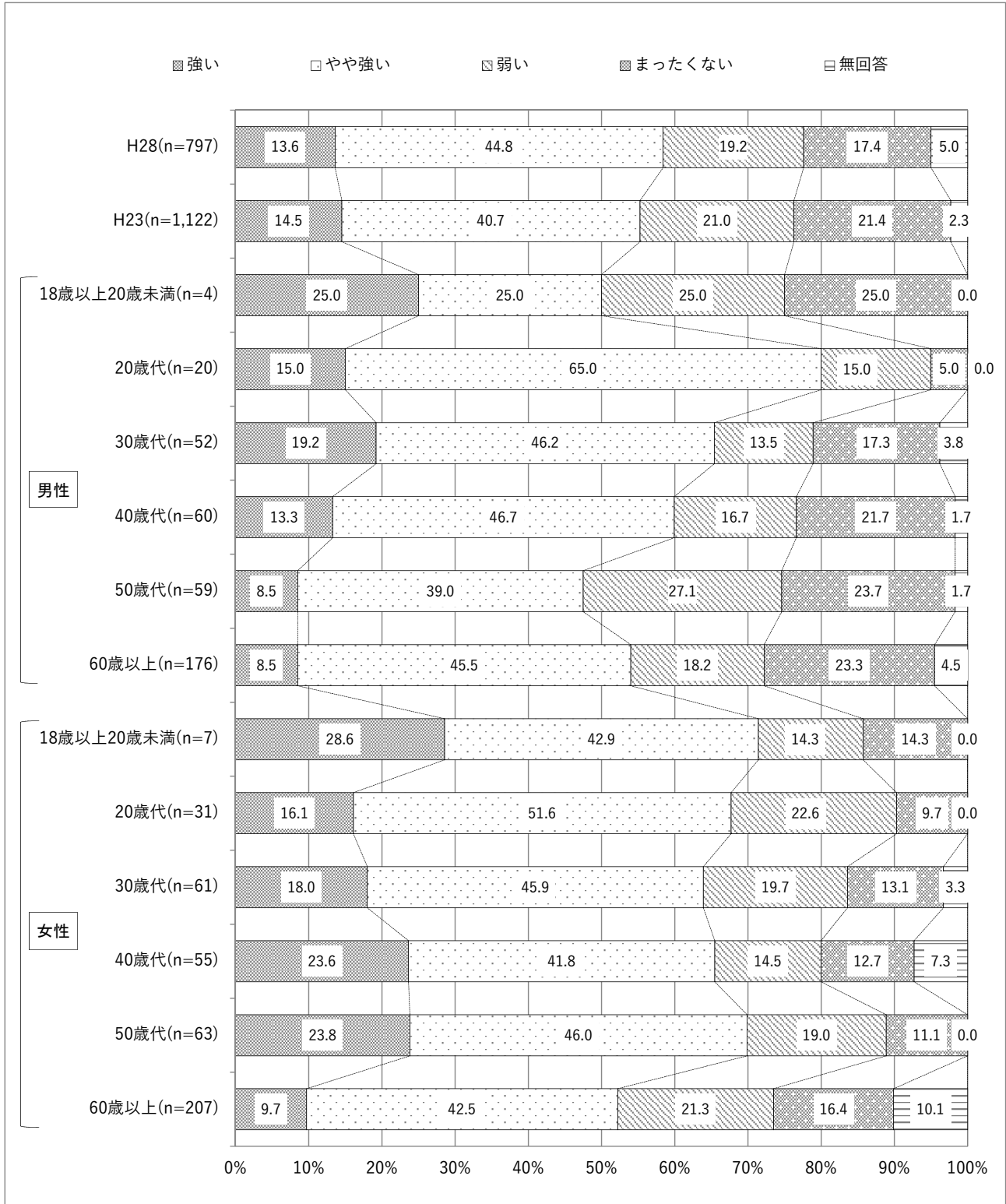
性別でみると、「6 社会通念や風潮」では、「強い」「やや強い」を合わせた割合が、男性 54.3%、女性 64.4%で差が 10.1 ポイントと大きい。「5 法律や制度上」では、「まったくない」と答えた割合が、男性 34.4%、女性 21.0%と差が 13.4 ポイントと大きい。



【経年・年代比較（問 6-1 家庭の中では）】

「家庭の中」において、男性では 50 歳代で「強い」「やや強い」と答えた割合が約 5 割で他の年代より低い。女性では 18 歳以上 20 歳未満、40 歳代、50 歳代で「強い」と回答した割合が高くなっている。

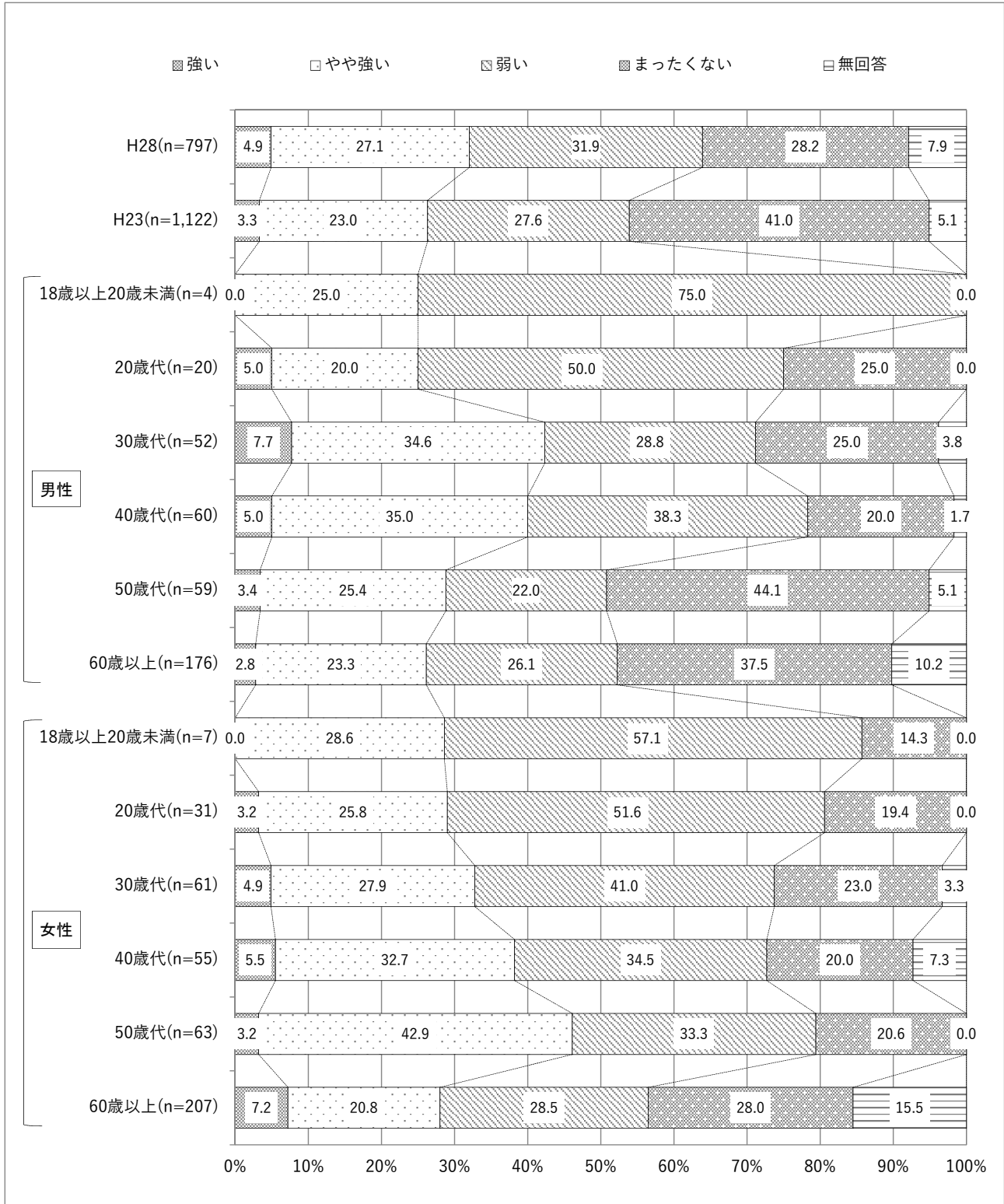
前回調査と比較してみると、「やや強い」と答えた割合が 4.1 ポイント増加している。「まったくない」と答えた割合は 4 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 6-2 教育の場では）】

「教育の場」において、男性では 50 歳代、60 歳代以上で「まったくない」と回答した割合が約 4 割と高い。女性では、50 歳代で「強い」「やや強い」と回答した割合が約 5 割と最も高く、年代が上がるにつれて、概ね割合が高くなっている。

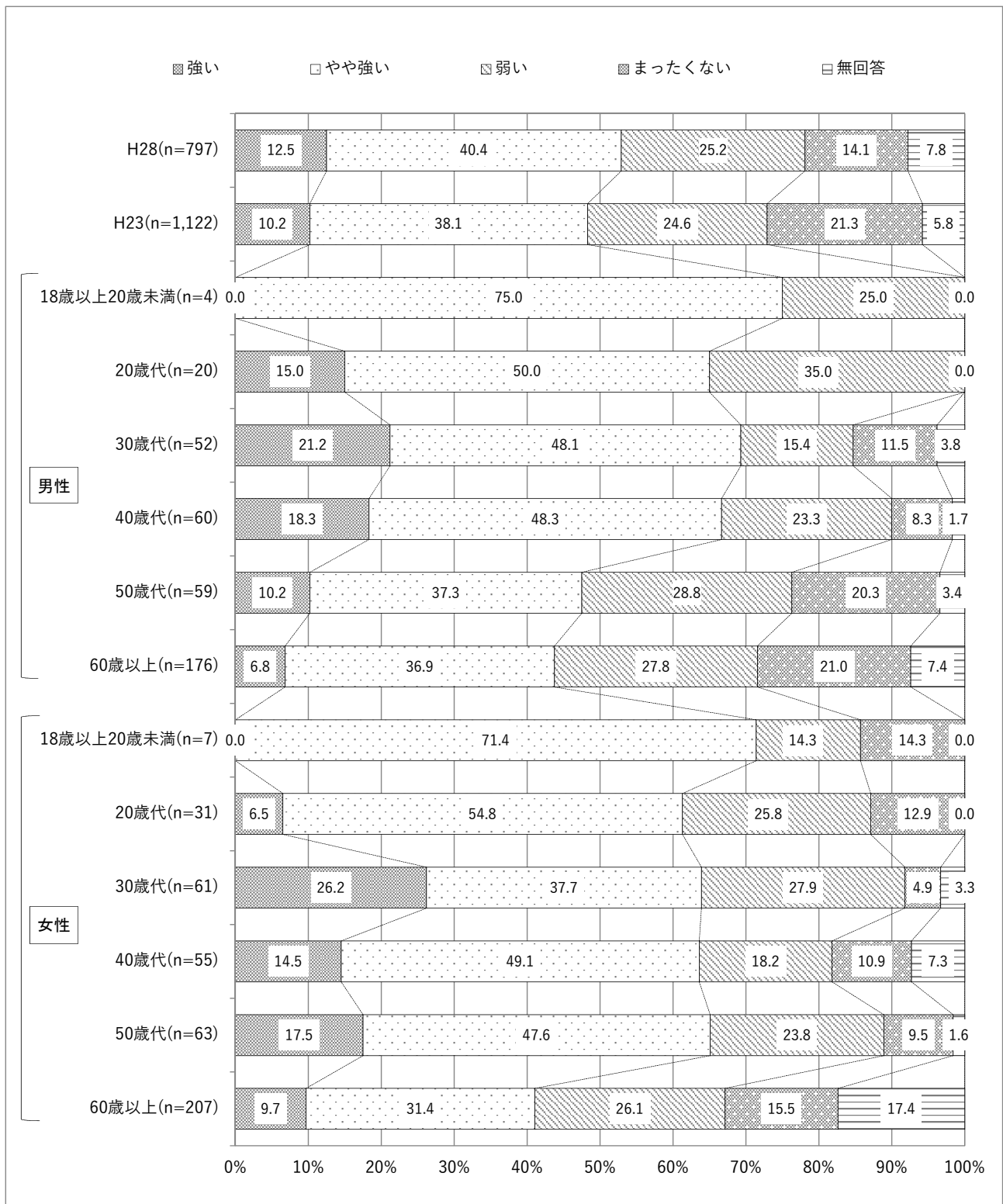
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が 5.7 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 6-3 職場では）】

「職場」において、男性では 30 歳代で「強い」「やや強い」と回答した割合が約 7 割と高い。女性では、30 歳代で「強い」と答えた割合が 26.2%と最も高い。

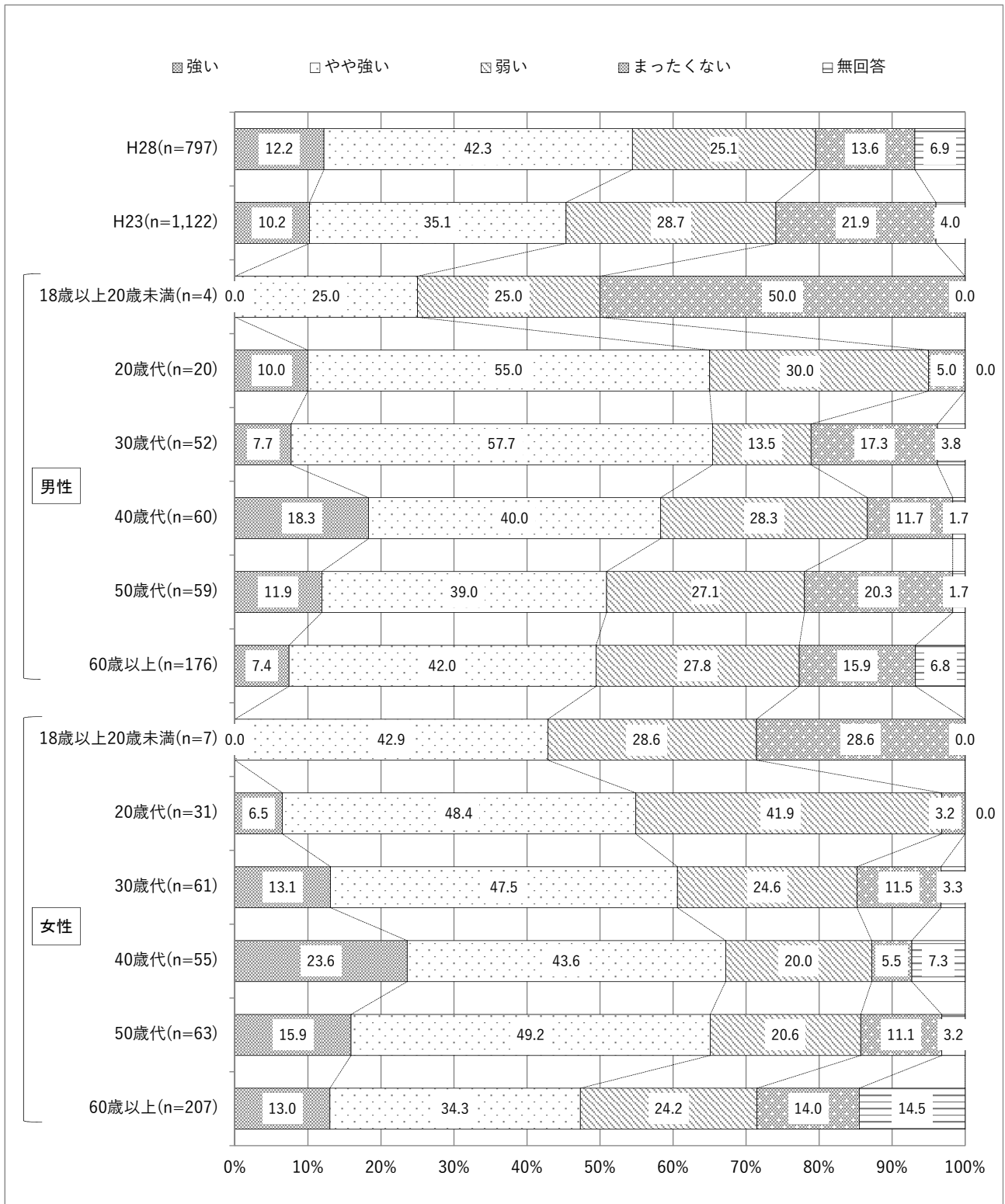
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が 4.6 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 6-4 地域社会では）】

「地域社会」において、男性では 20 歳代、30 歳代で「強い」「やや強い」と回答した割合が 7 割弱、女性では、40 歳代、50 歳代で約 7 割と他の世代に比べて高い。

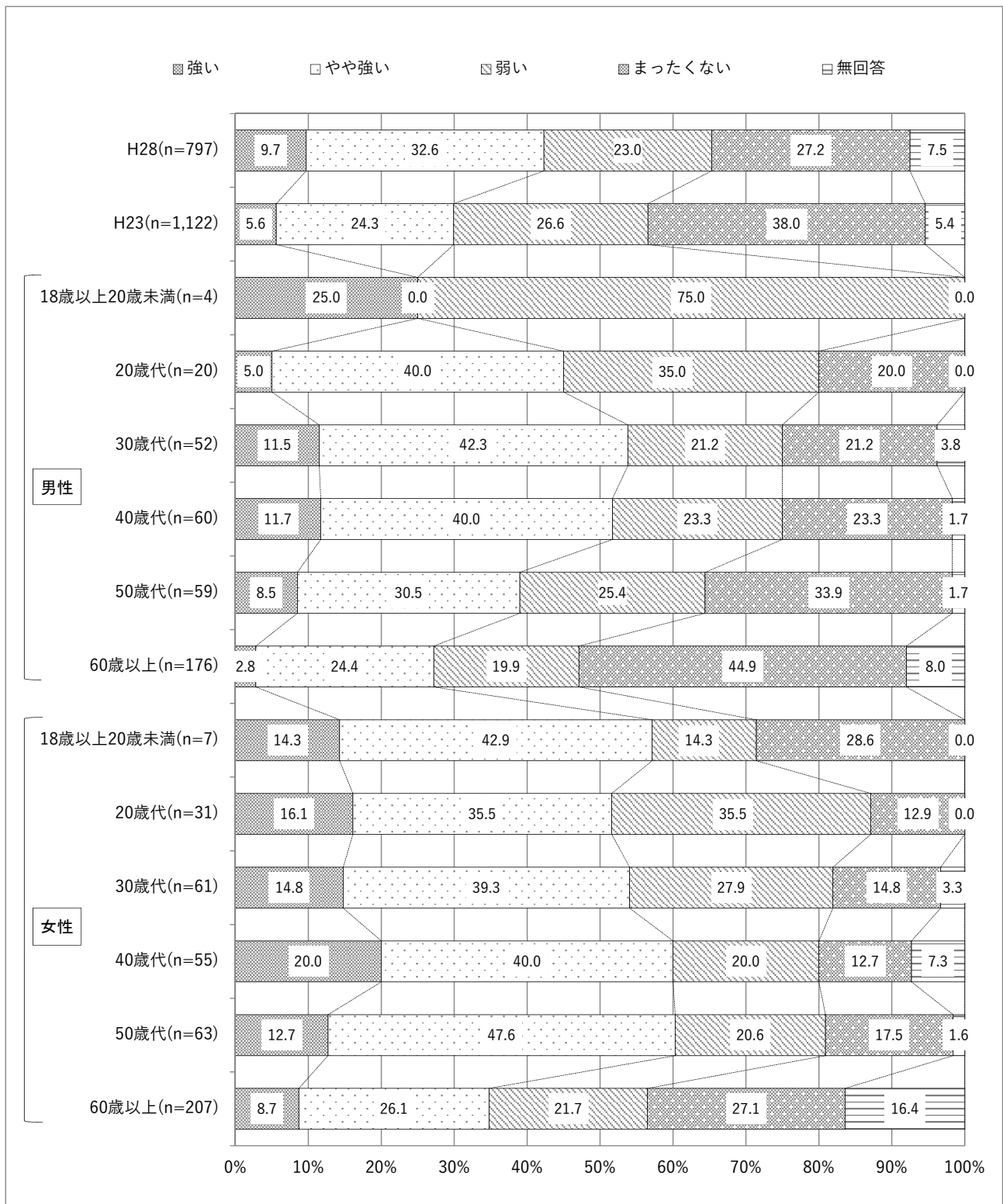
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が 9.2 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 6-5 法律や制度上では）】

「法律や制度上」において、「強い」「やや強い」と回答した割合は、男性では 30 歳代、40 歳代で約 5 割、女性では 40 歳代、50 歳代が約 6 割と、他の世代より高くなっている。

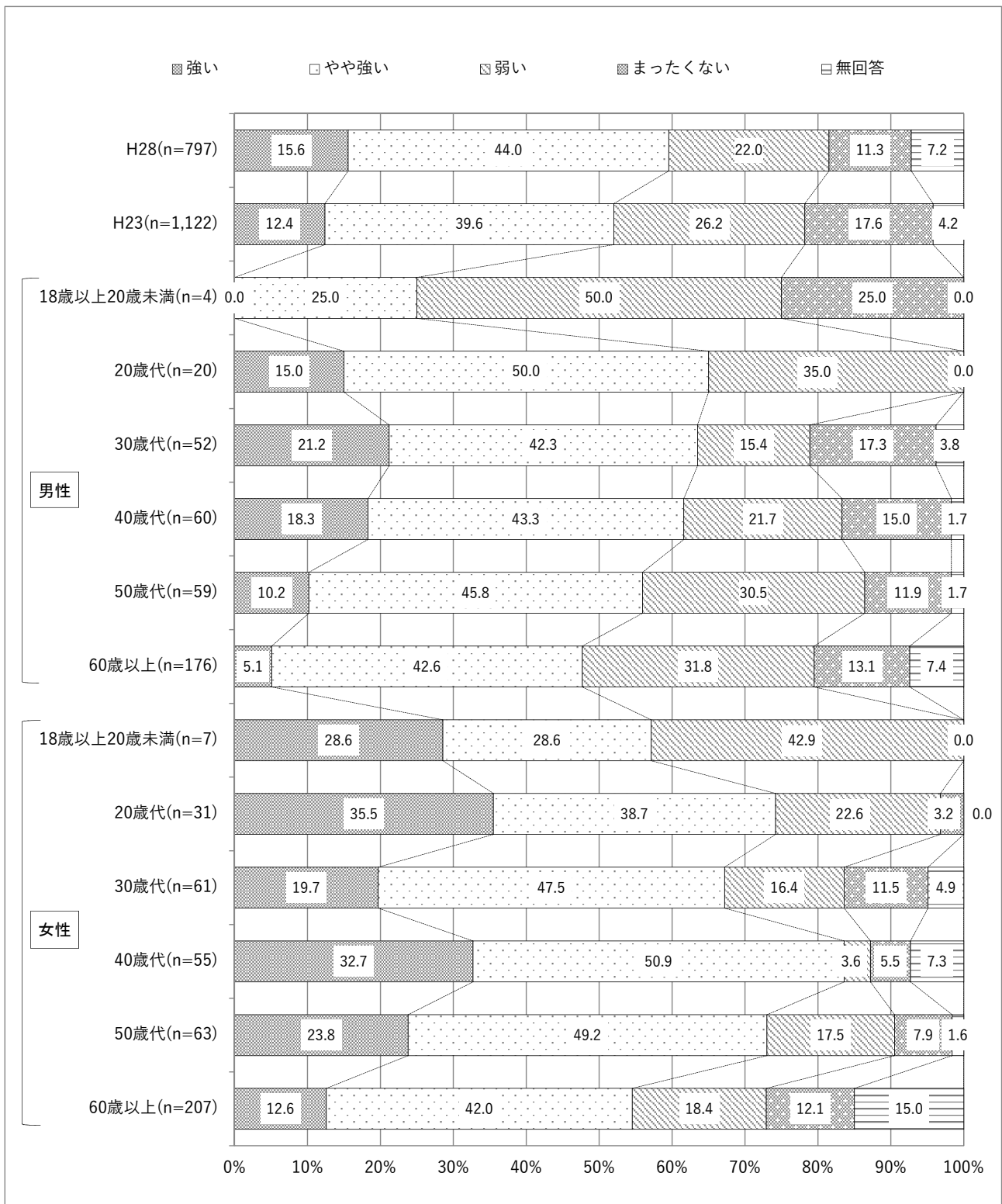
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が 12.4 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 6-6 社会通念や風潮では）】

「社会通念や風潮」において、「強い」「やや強い」と回答した割合は、男性では 20 歳代で約 6 割、女性では 40 歳代で約 8 割と、他の年代より高くなっている。

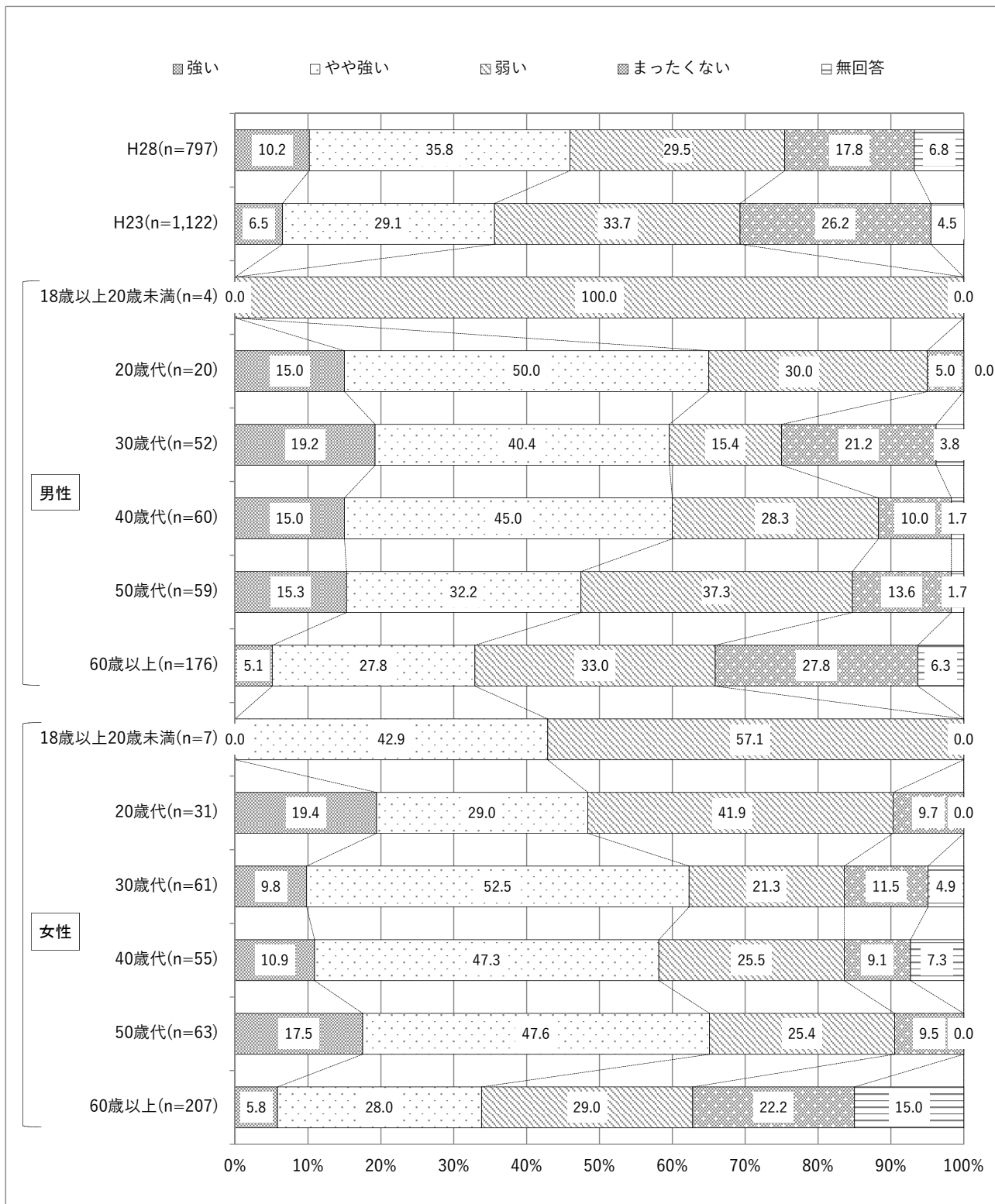
前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が 7.6 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 6-7 テレビや雑誌などの表現では）】

「テレビや雑誌などの表現」において、「強い」「やや強い」と回答した割合は、男性では 20 歳代～40 歳代、女性では 30 歳代～50 歳代で約 6 割以上と、他の年代より高くなっている。

前回調査と比較してみると、「強い」「やや強い」と回答した割合が 10.4 ポイント増加している。



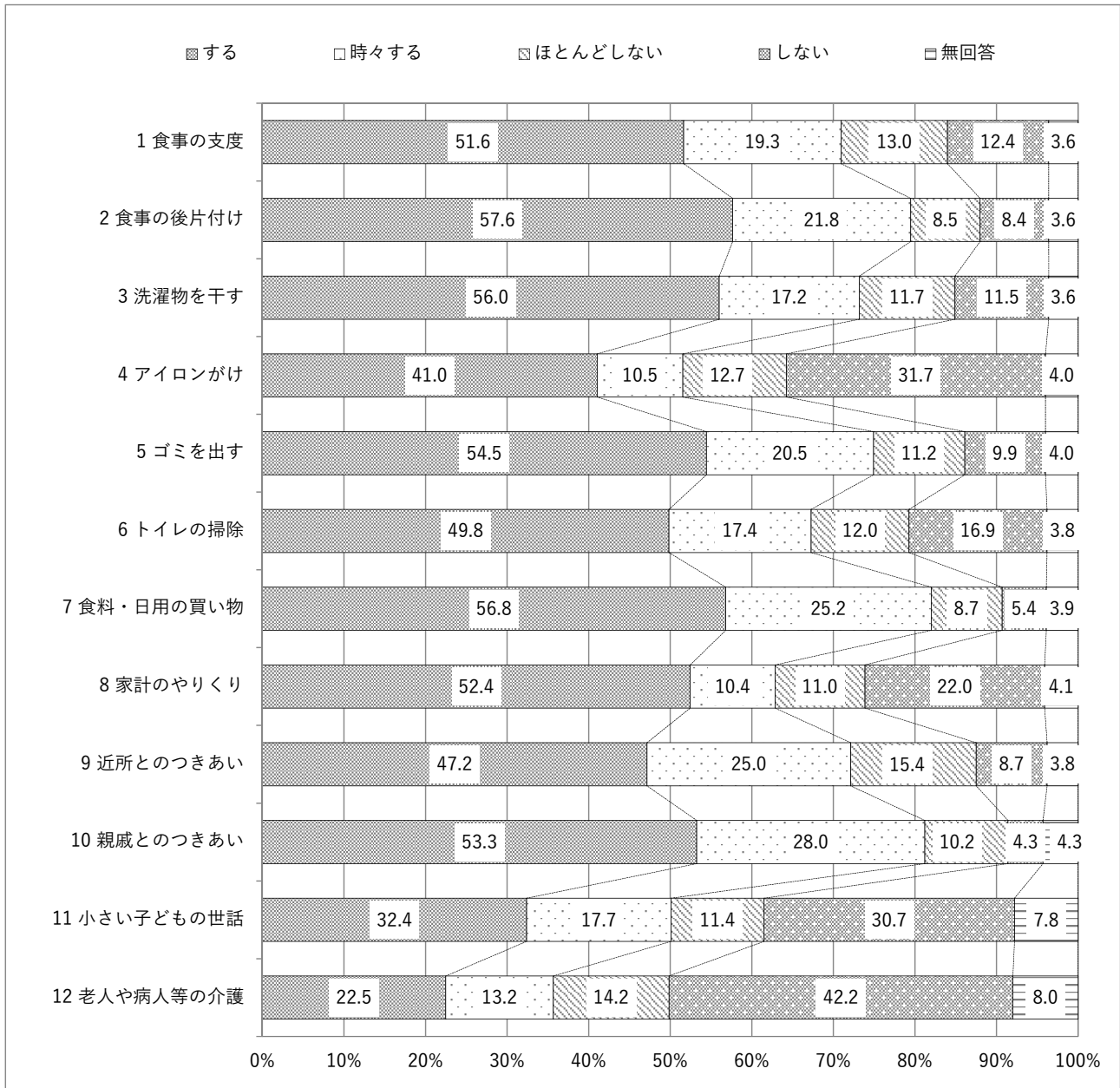
3 家庭・地域における男女共同参画について

問7 あなたは家庭において次のことをどの程度行っていますか。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 食事の支度 | 7 食料・日用の買い物 |
| 2 食事の後片付け | 8 家計のやりくり |
| 3 洗濯物を干す | 9 近所とのつきあい |
| 4 アイロンがけ | 10 親戚とのつきあい |
| 5 ごみを出す | 11 小さい子どもの世話 |
| 6 トイレの掃除 | 12 老人や病人等の介護 |

【全体 (n=797)】

「する」と回答した割合が高いのは、「2 食事の後片付け」57.6%、「7 食料・日用の買い物」56.8%、「3 洗濯物を干す」56.0%である。「しない」と回答した割合が高いのは、「12 老人や病人等の介護」42.2%、「4 アイロンがけ」31.7%、「11 小さい子どもの世話」30.7%である。

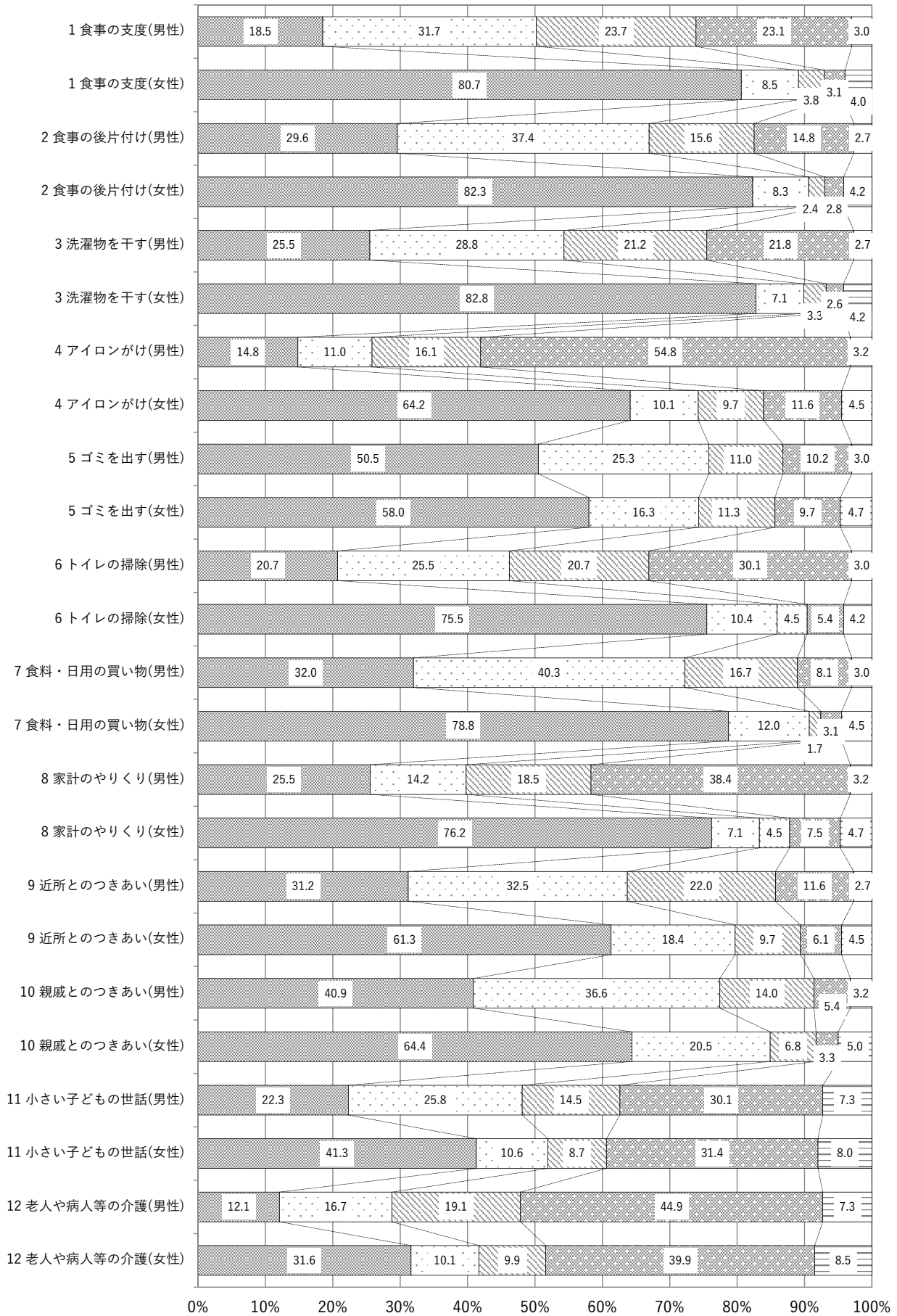


【男女比較（男性 n=372、女性 n=424）】

性別で見ると、12の項目全てにおいて、男性より女性の方が「する」と答えた人の割合が高く、その男女差は大きい。男性が最もよくする家事は「5 ゴミを出す」50.5%、「10 親戚とのつきあい」40.9%となっている。女性では、「1 食事の支度」「2 食事の後片付け」「3 洗濯物を干す」が8割以上と高くなっている。

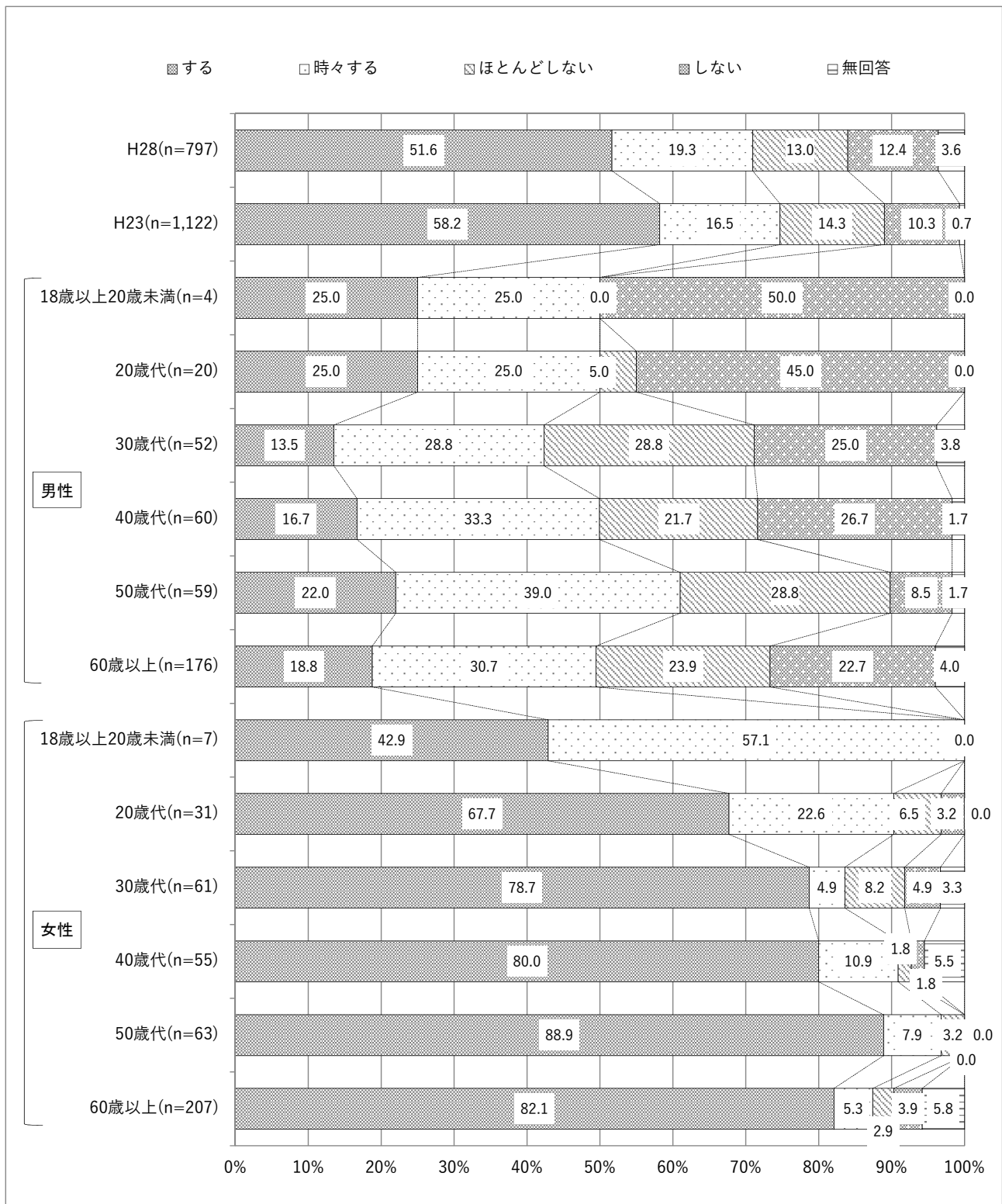
「する」「時々する」を合わせた割合で見ると、「1 食事の支度」「3 洗濯物を干す」「4 アイロンがけ」「6 トイレの掃除」「8 家計のやりくり」の男女差が大きい。

する
 時々する
 ほとんどしない
 しない
 無回答



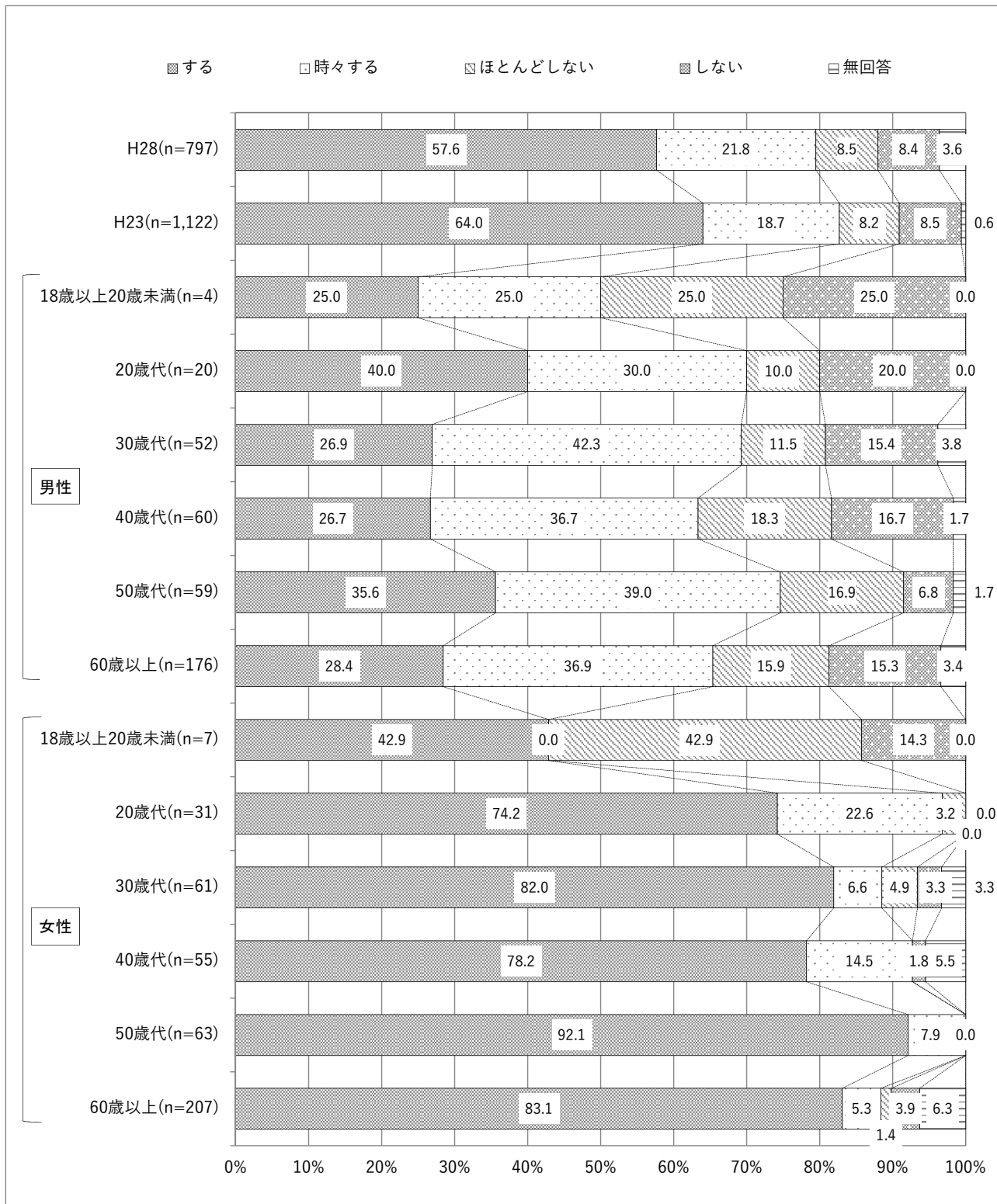
【経年・年代比較（問 7-1 食事の支度）】

「食事の支度」について、女性では30歳代以上の約8割が「する」と回答している。男性では、「する」と答えた割合が最も高いのは、18歳以上20歳未満と20歳代で25.0%、最も低いのは30歳代で13.5%である。



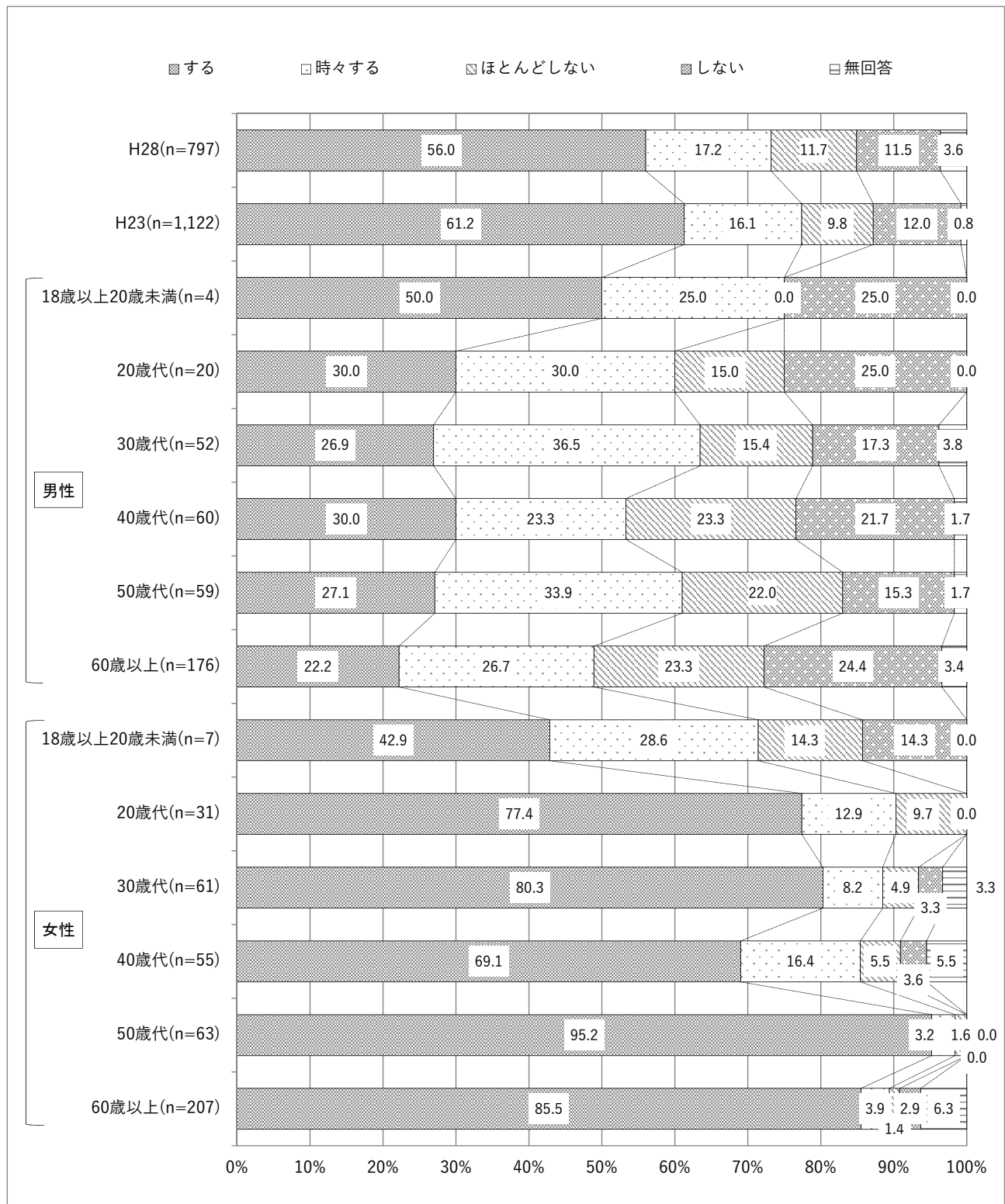
【経年・年代比較（問 7-2 食事の後片付け）】

「食事の後片付け」について、女性では「する」と回答した割合が30歳代以上で8～9割である。男性では、20歳代が「する」40.0%と最も高く、それ以外の世代は3割程度となっている。



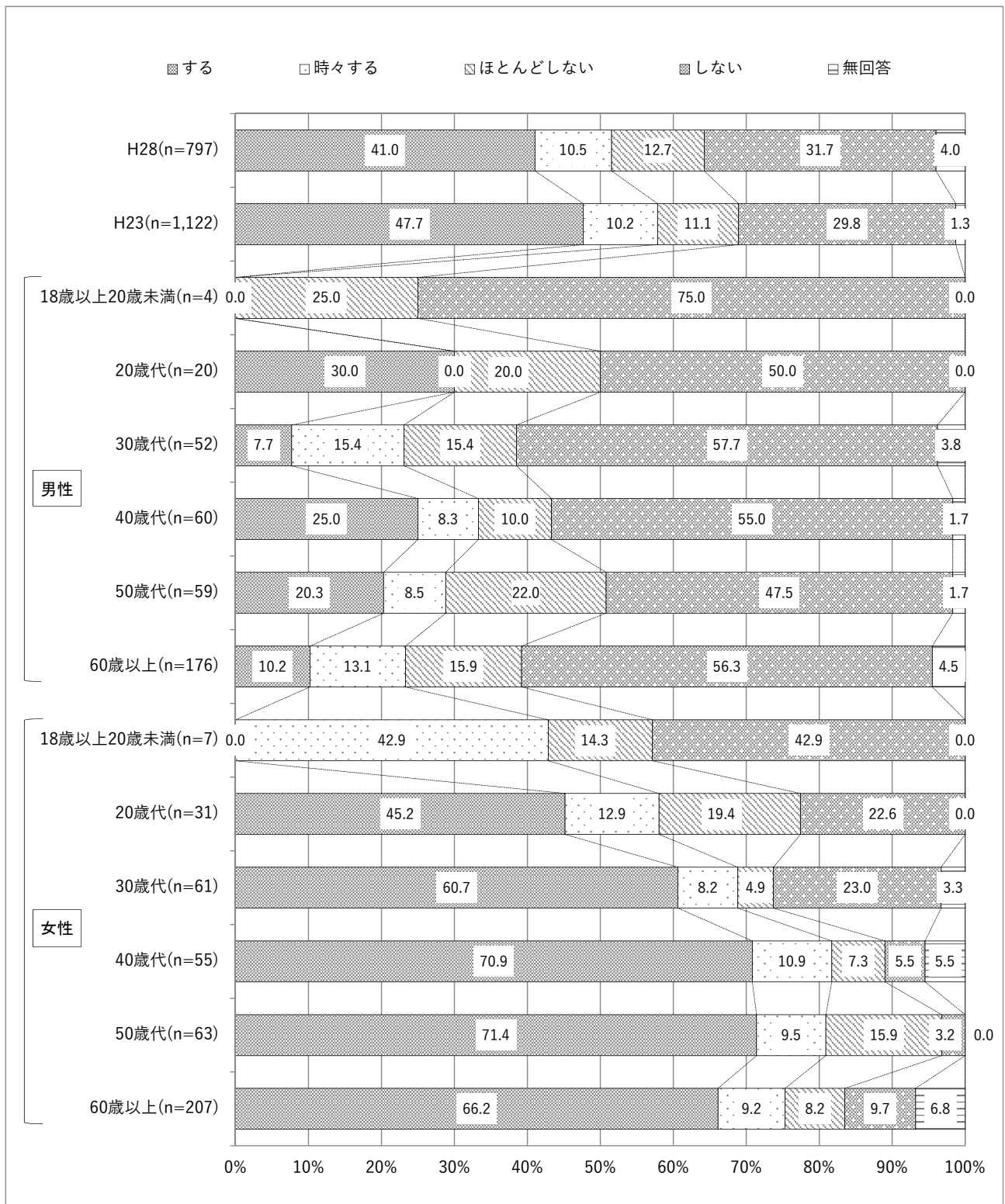
【経年・年代比較（問 7-3 洗濯物を干す）】

「洗濯物を干す」について、女性では50歳代、60歳代以上の9割が「する」と回答している。男性では、18歳以上20歳未満で「する」50.0%と答えた割合が高く、20歳代以上ではどの世代も3割程度である。



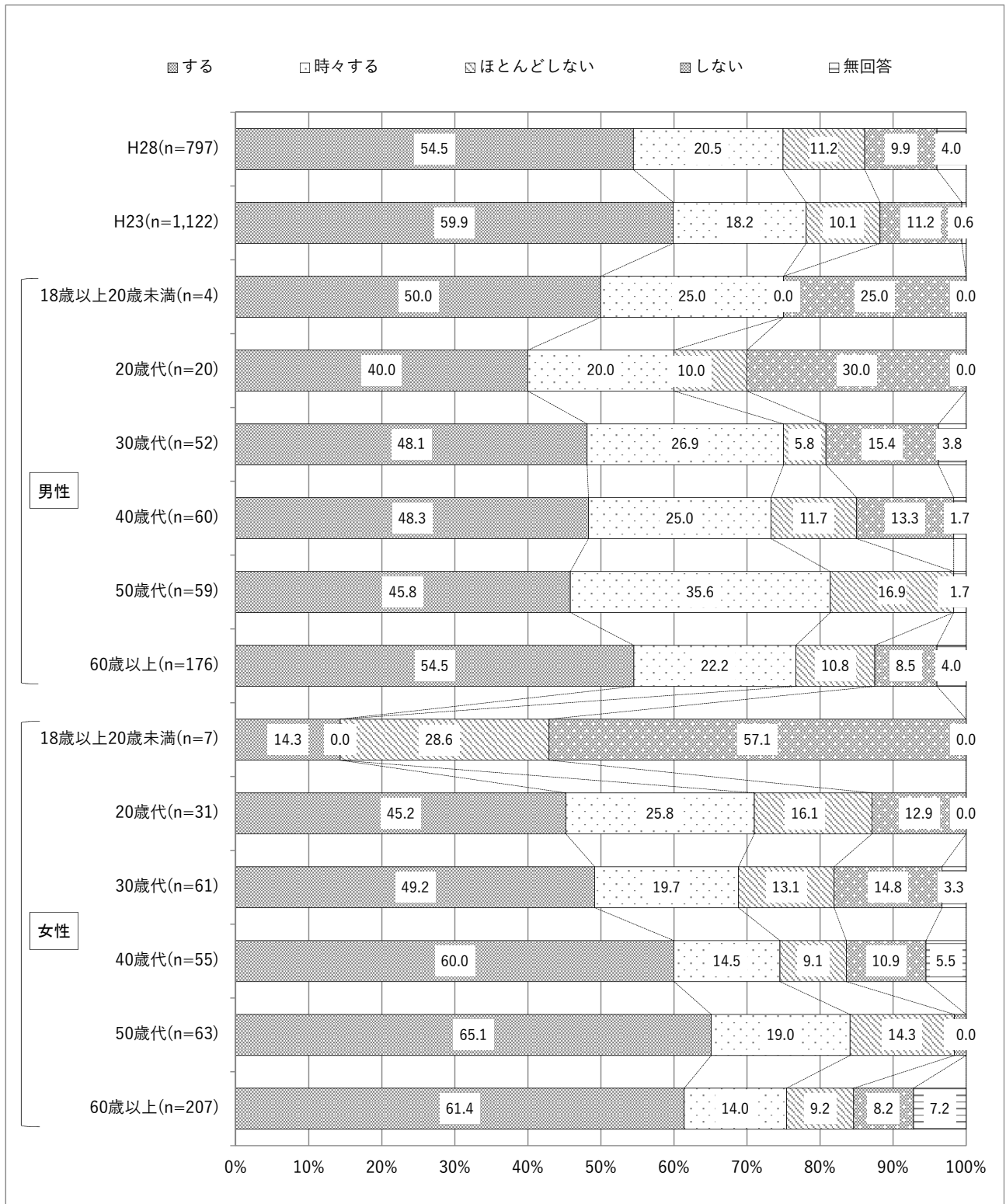
【経年・年代比較（問 7-4 アイロンがけ）】

「アイロンがけ」について、女性では40歳代以上の約7割が「する」と答えている。男性では、どの世代でも半数以上が「しない」と回答している。男性の40歳代で「する」と答えた割合が25.0%と最も高い。



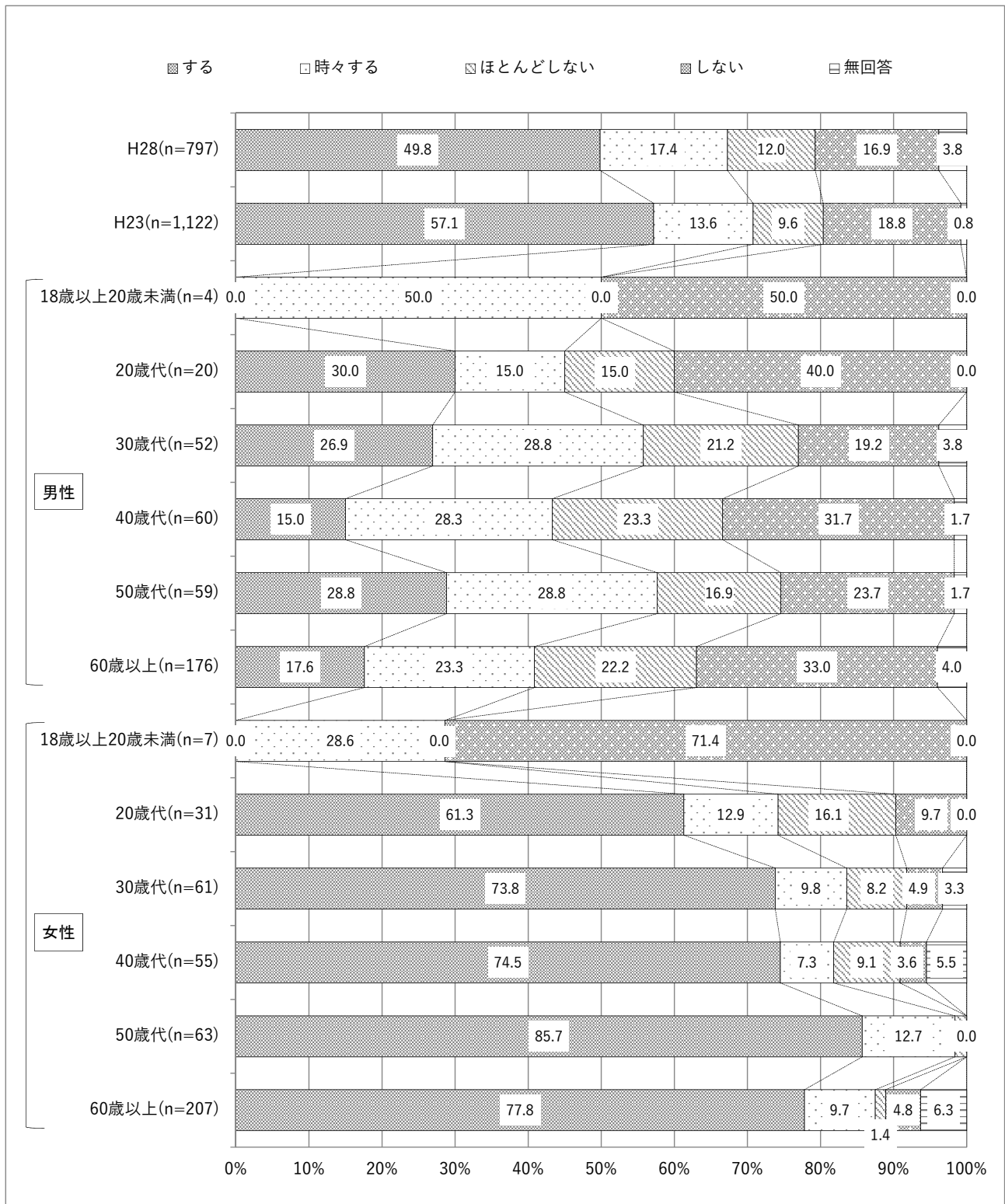
【経年・年代比較（問 7-5 ゴミを出す）】

「ゴミを出す」について、男女ともに「する」と答えた割合が4割～6割で18歳以上20歳未満以外は男女に大きな差はない。男性では、60歳代以上が「する」54.5%と最も高い。女性では、18歳以上20歳未満が「する」14.3%と最も低い。



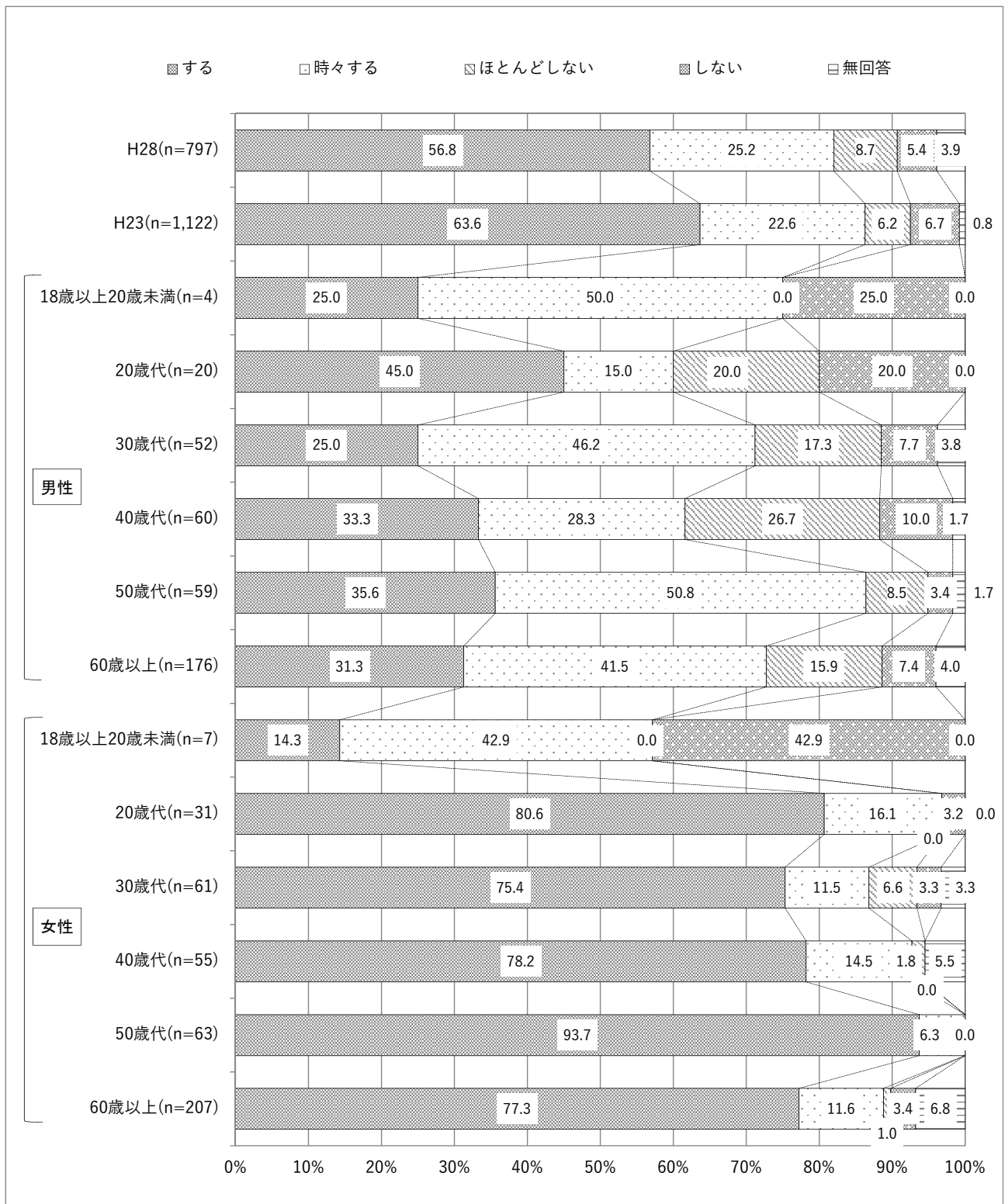
【経年・年代比較（問 7-6 トイレの掃除）】

「トイレの掃除」について、女性では 30 歳代以上の約 8 割が「する」と回答している。男性では、20 歳代以上の約 2～3 割が「する」と回答している。



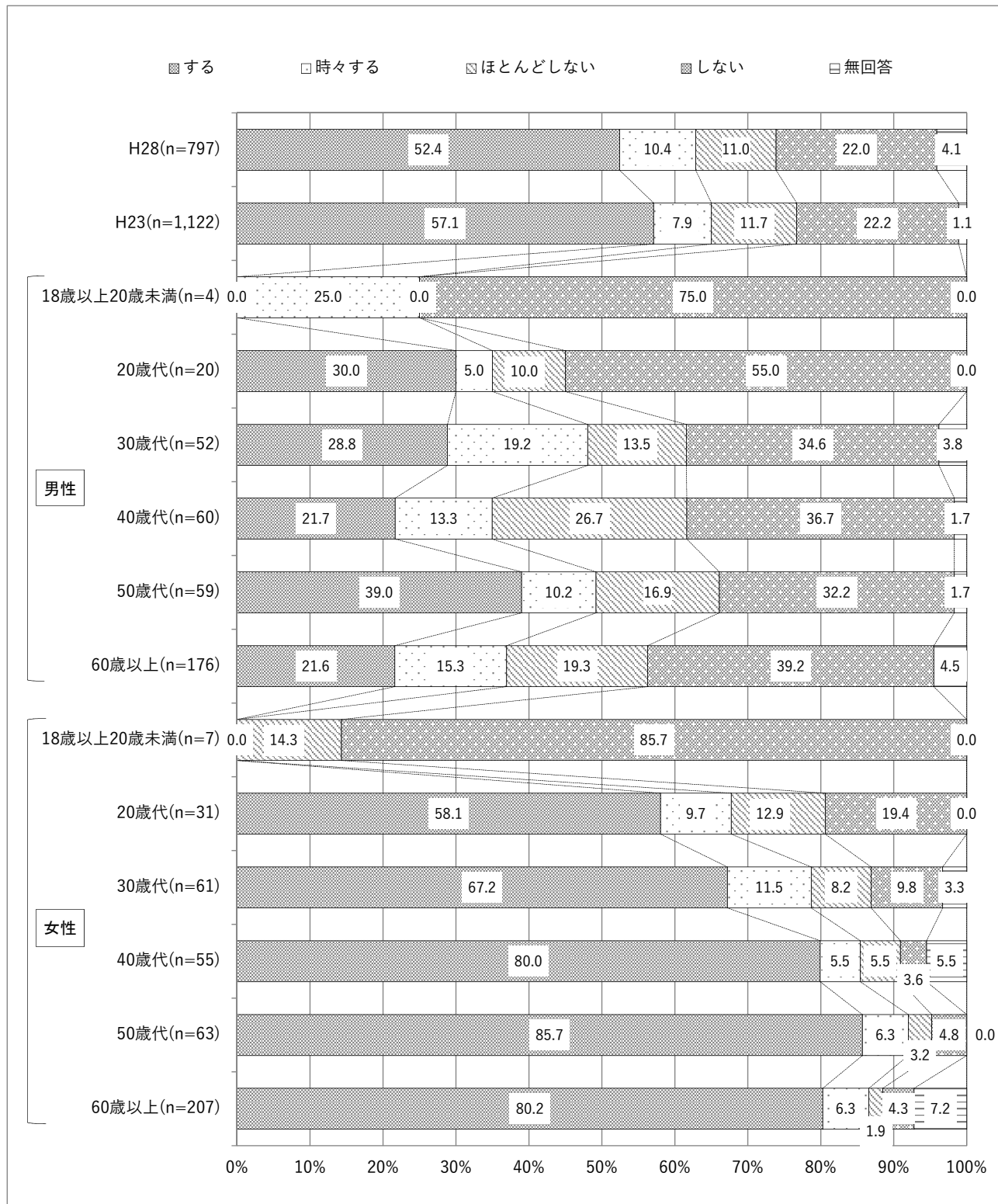
【経年・年代比較（問 7-7 食料・日用の買い物）】

「食料・日用の買い物」について、女性では20歳代以上の約8割が「する」と回答している。男性では、20歳代は「する」45.0%と他の年代に比べて割合が高く、30歳代以上の約3割が「する」と回答している。



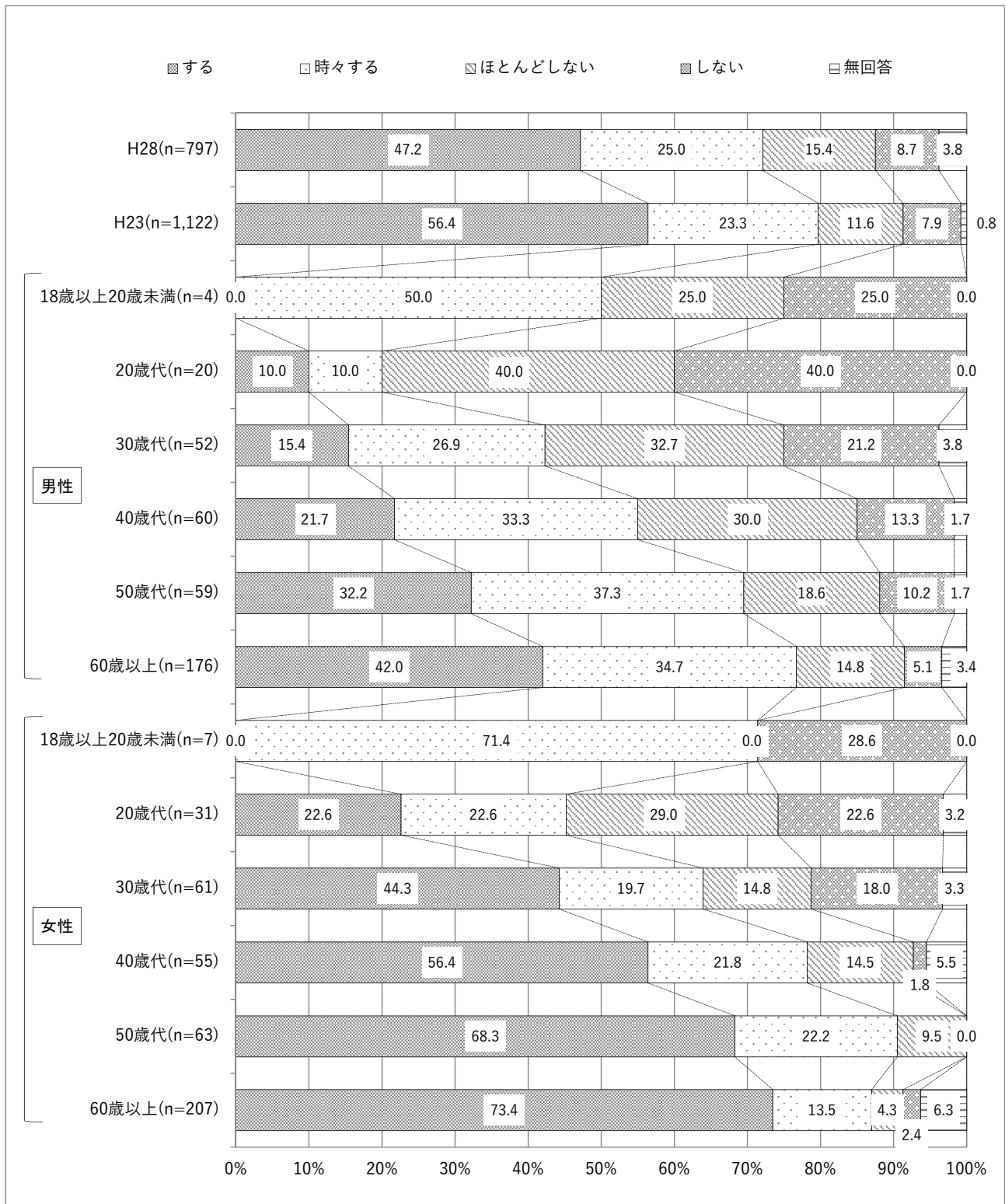
【経年・年代比較（問 7-8 家計のやりくり）】

「家計のやりくり」について、女性では40歳代以上の約8割が「する」と回答している。男性では、20歳代以上の約2割以上が「する」と回答しており、50歳代では「する」39.0%と最も高い。



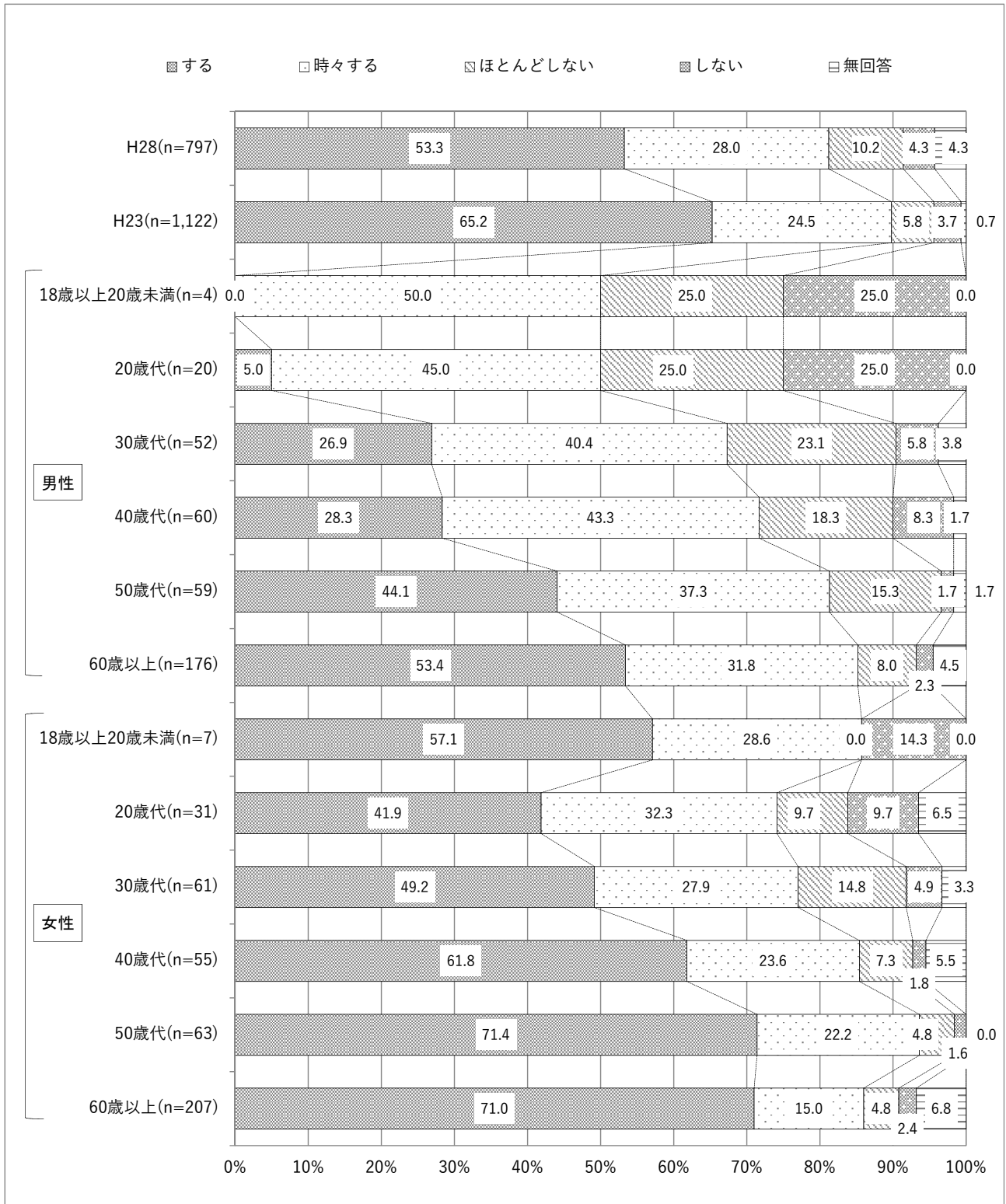
【経年・年代比較（問 7-9 近所とのつきあい）】

「近所とのつきあい」について、男女ともに年代が上がるにつれて「する」と回答した人の割合が高くなっている。女性の方が「する」と回答した割合が、男性よりも高い。



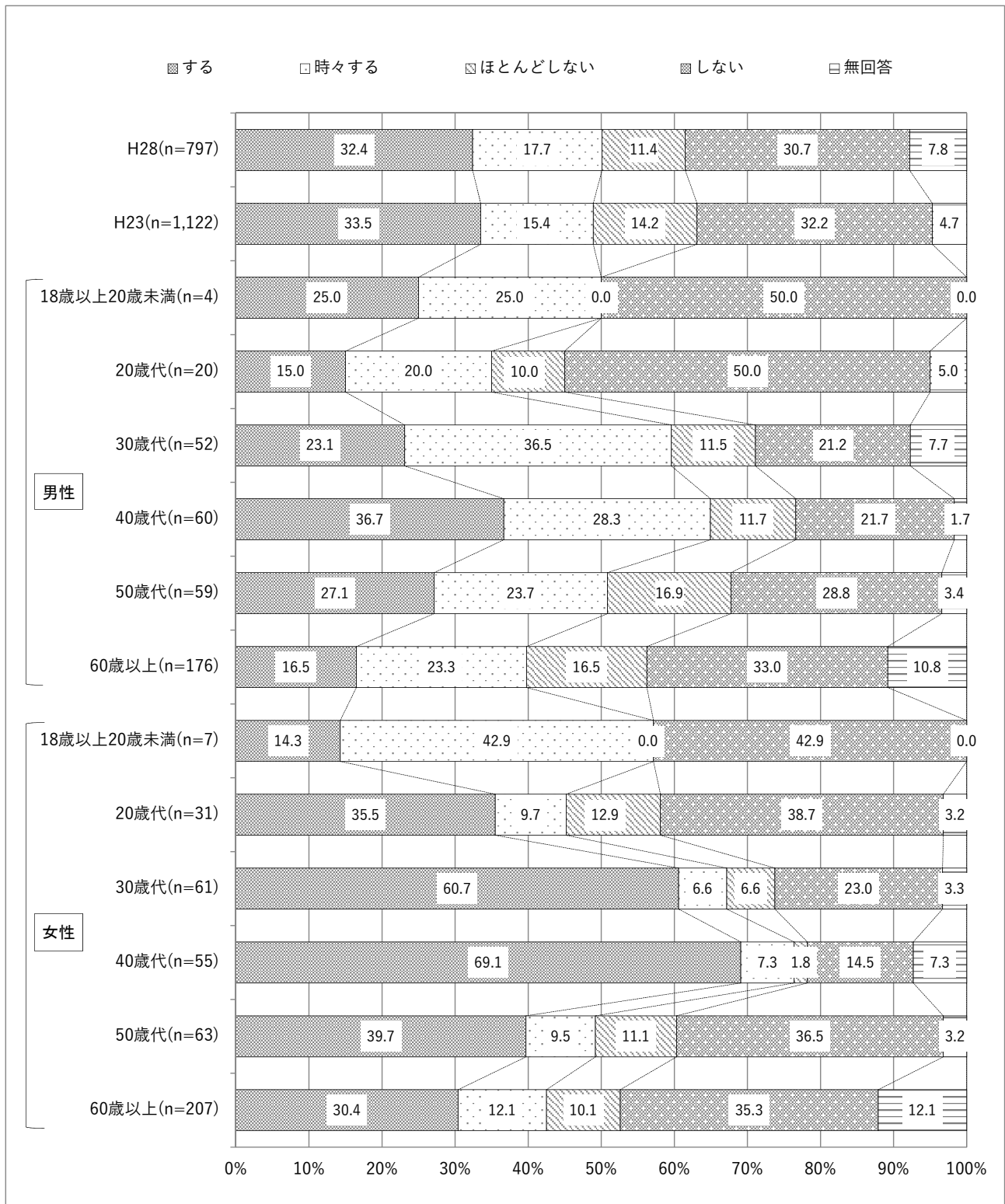
【経年・年代比較（問 7-10 親戚とのつきあい）】

「親戚とのつきあい」について、男女ともに年代が高くなるにつれて「する」と回答した人の割合が高くなっている。女性の方が「する」と回答した割合が高い。



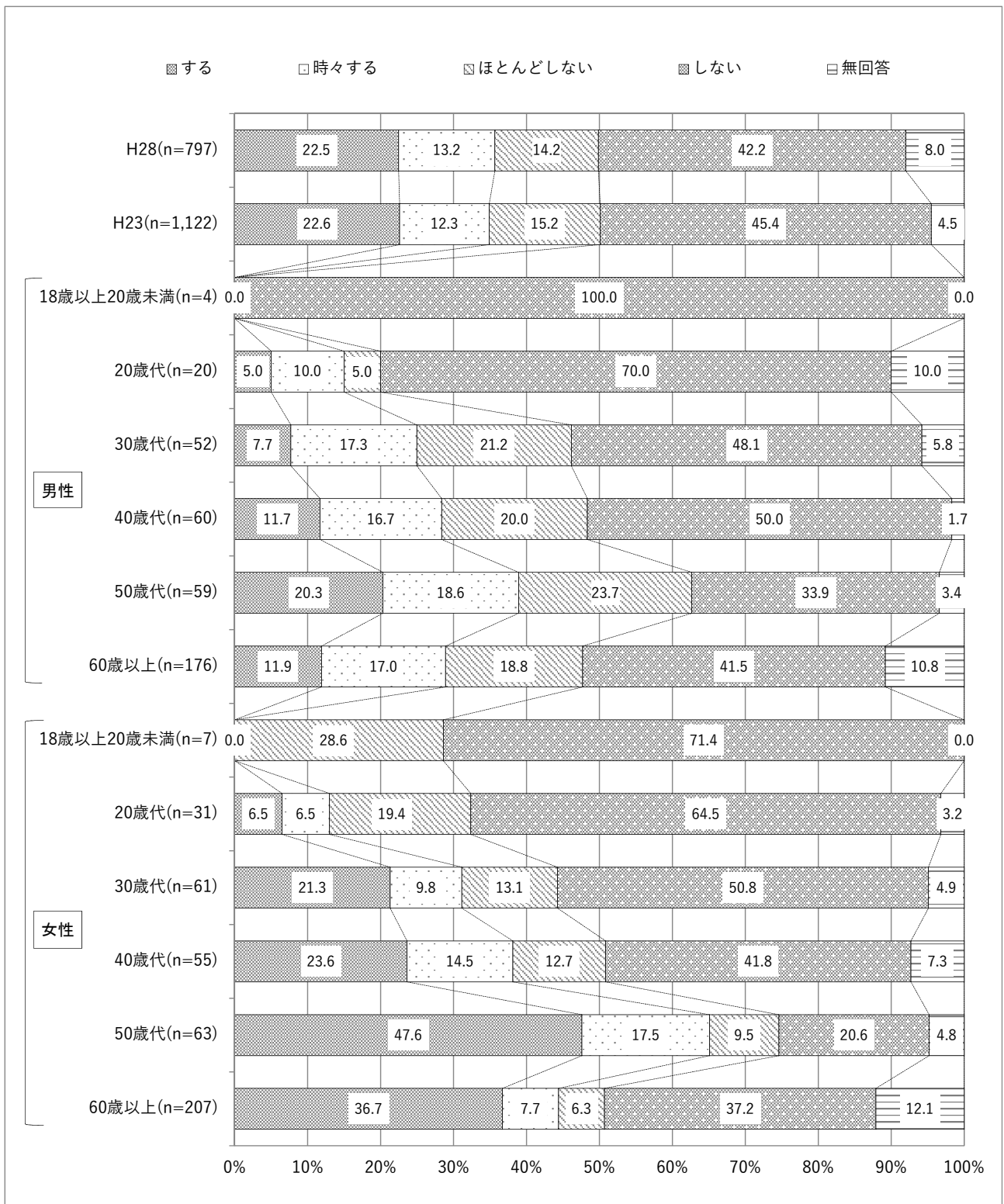
【経年・年代比較（問 7-11 小さい子どもの世話）】

「小さい子どもの世話」について、女性では「する」と答えた割合が 40 歳代 69.1%と最も高く、次に 30 歳代 60.7%である。男性では「する」と答えた割合が高いのは、40 歳代 36.7%である。



【経年・年代比較（問 7-12 老人や病人等の介護）】

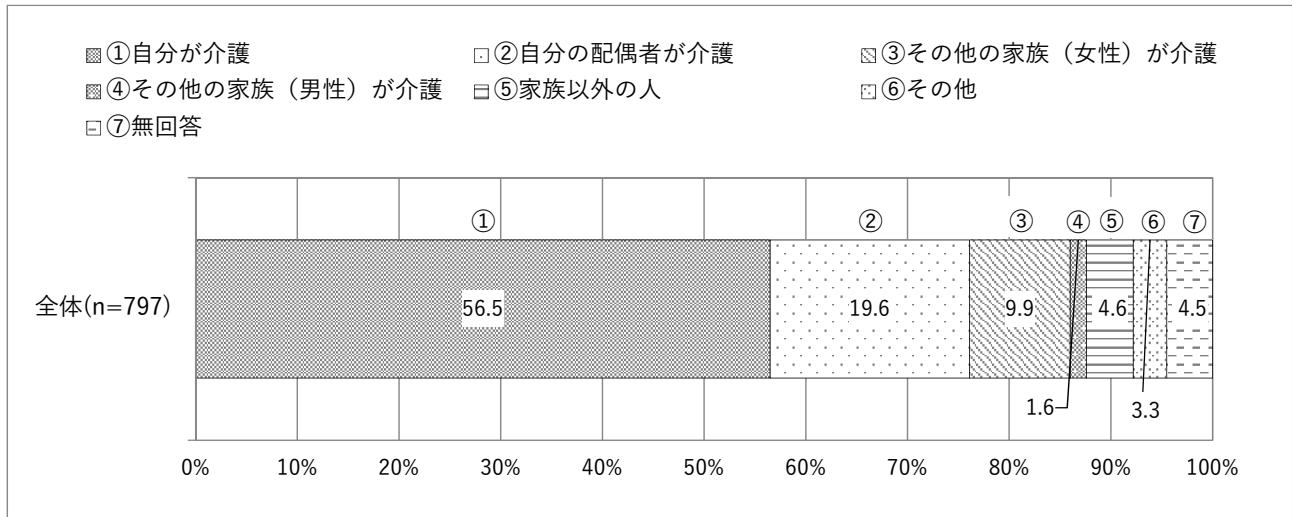
「老人や病人等の介護」について、女性では「する」と答えた人の割合が 50 歳代 47.6%、60 歳代以上 36.7%と、他の世代に比べて高い。男性では、50 歳代 20.3%が最も高い。20 歳代では、男女ともに「する」と答えた人は 1 割弱にとどまる。



問8 自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、主に誰が介護することになると思いますか。

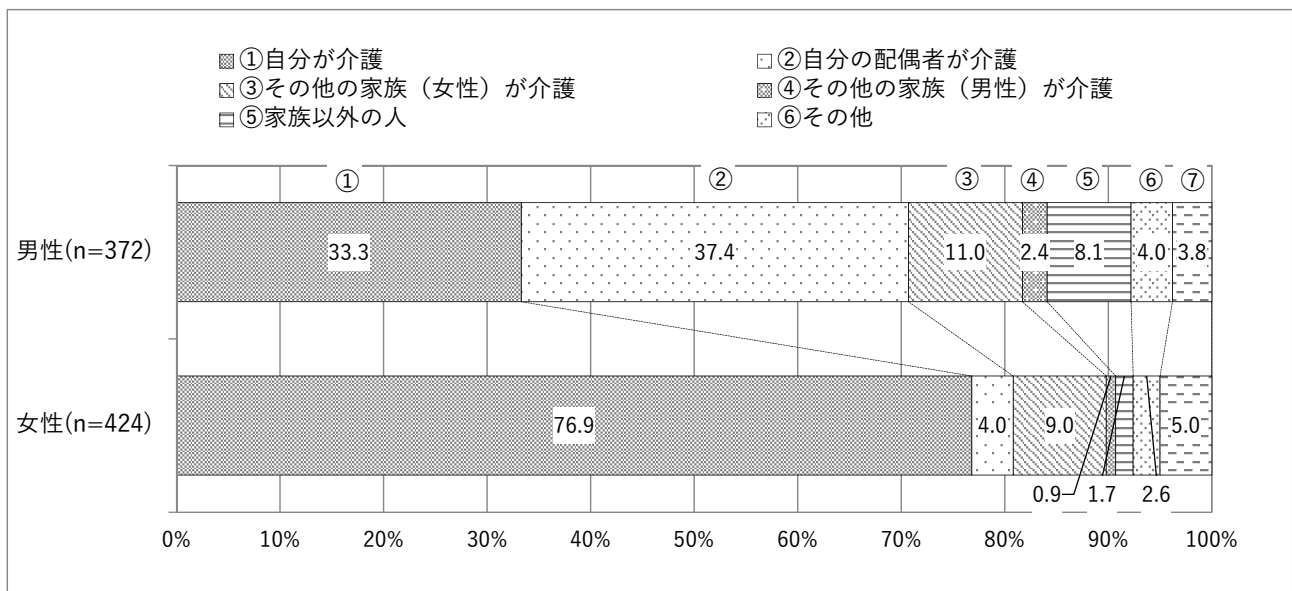
【全体】

「主に、自分が介護」と答えた人が56.5%で最も多く、次に「主に、自分の配偶者が介護」19.6%、「主に、その他の家族（女性）が介護」9.9%となっている。



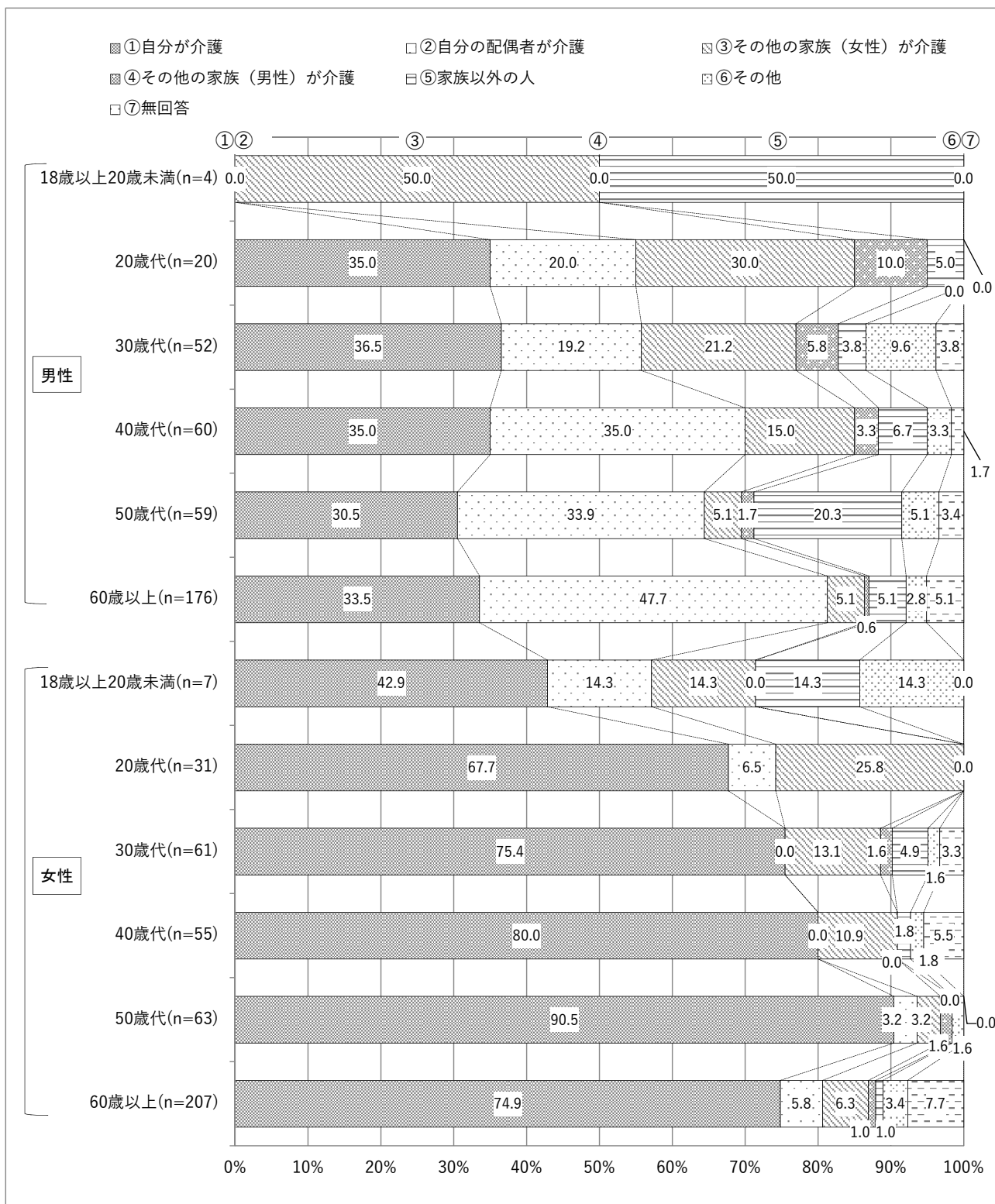
【男女比較】

性別でみると、女性では「主に、自分が介護」と答えた人の割合が76.9%で最も高い。男性では、「主に、自分が介護」が33.3%、「主に、自分の配偶者が介護」が37.4%となっている。



【年代比較】

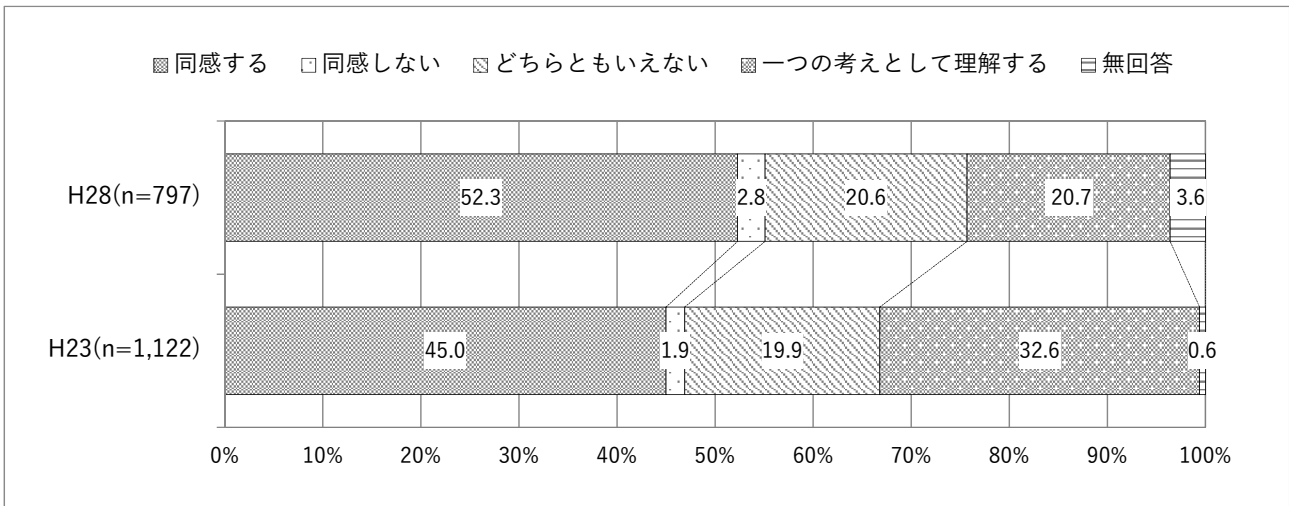
男性では、20歳代以上の約3割が「主に、自分が介護」と回答している。60歳以上の男性では、「主に、自分の配偶者が介護」と答えた割合が47.7%と最も高い。女性では、30歳代以上の8~9割が「主に、自分が介護」と回答している。50歳代の女性が最も高く、90.5%となっている。



問9 「男性はもっと家事、育児、介護や地域・社会活動に参画する必要がある」という考え方もありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。

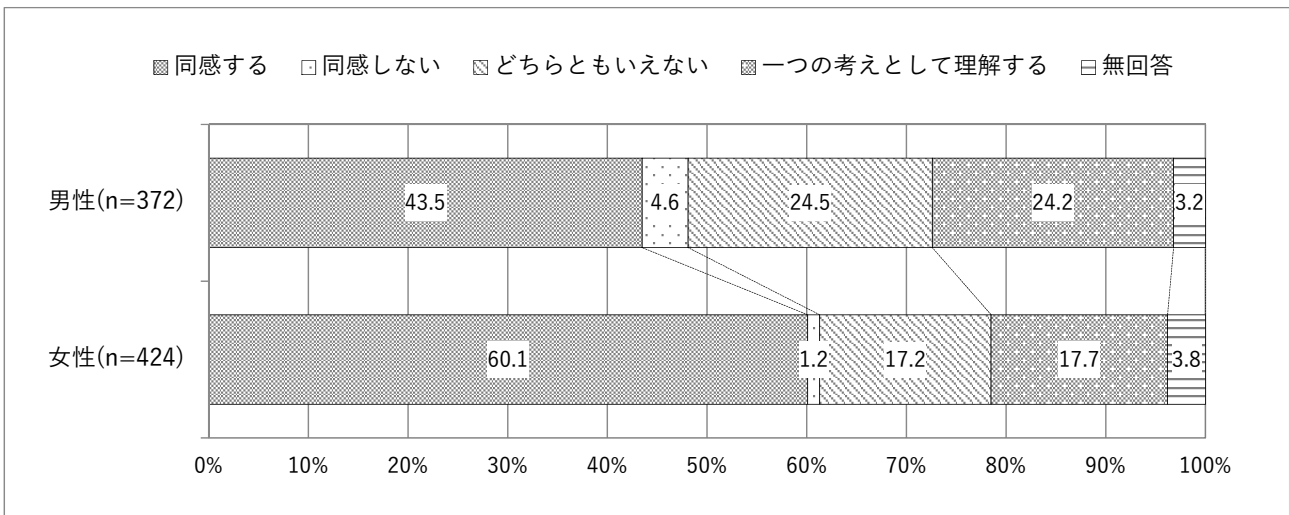
【経年比較】

「同感する」と答えた人の割合が52.3%と最も高く、「同感しない」と答えた人の割合は2.8%である。「どちらともいえない」20.6%と「一つの考えとして理解する」20.7%がほぼ同じ割合である。前回調査と比較してみると、「同感する」と答えた割合が7.3ポイント増加している。



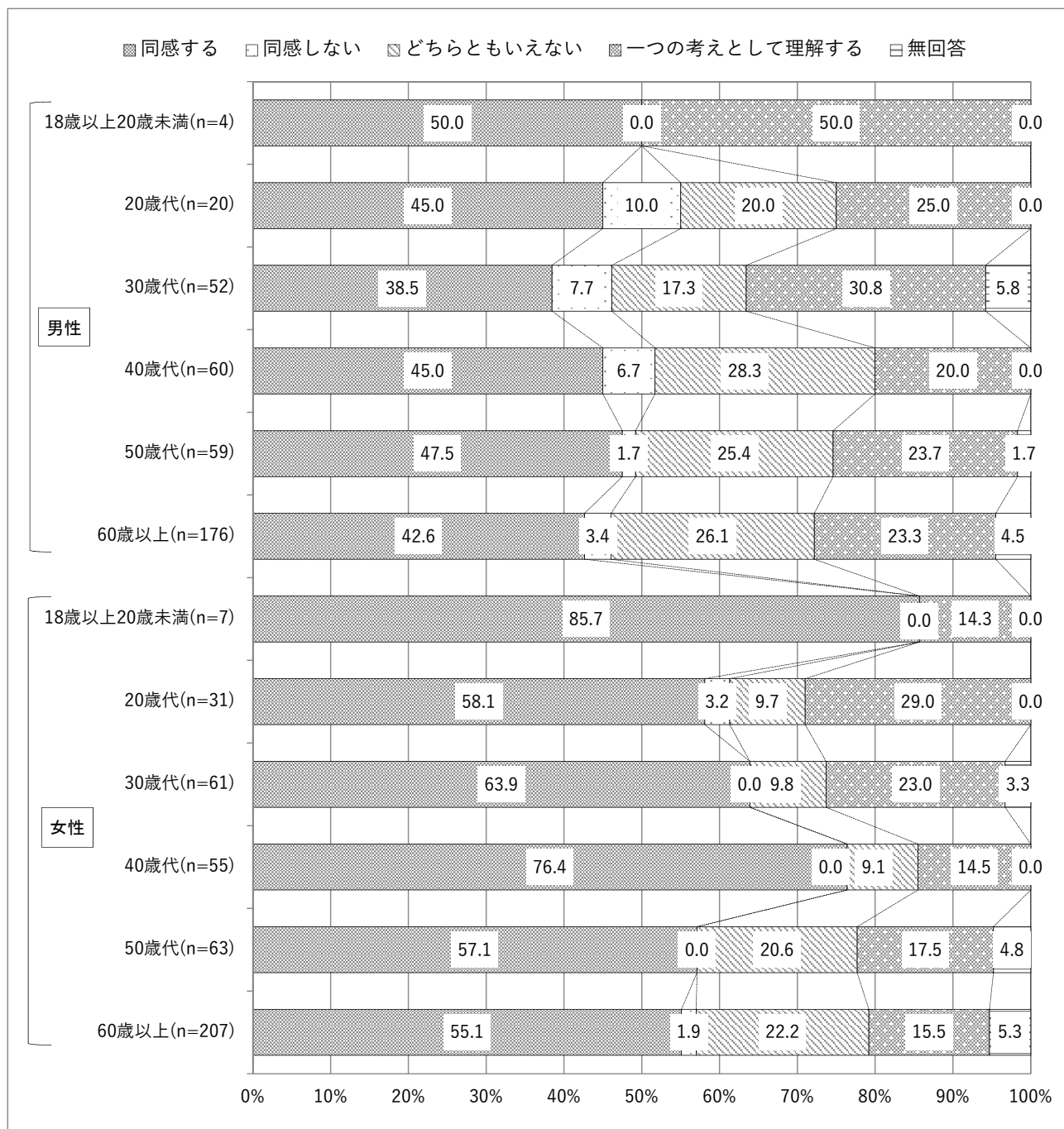
【男女比較】

性別でみると、男性では「同感する」43.5%に対して、女性では「同感する」60.1%と割合が高い。



【年代比較】

男性では、どの世代でも約4、5割が「同感する」と回答している。女性では、「同感する」と答えた人の割合は、18歳以上20歳未満が85.7%と最も高く、次に40歳代が76.4%、30歳代が63.9%である。



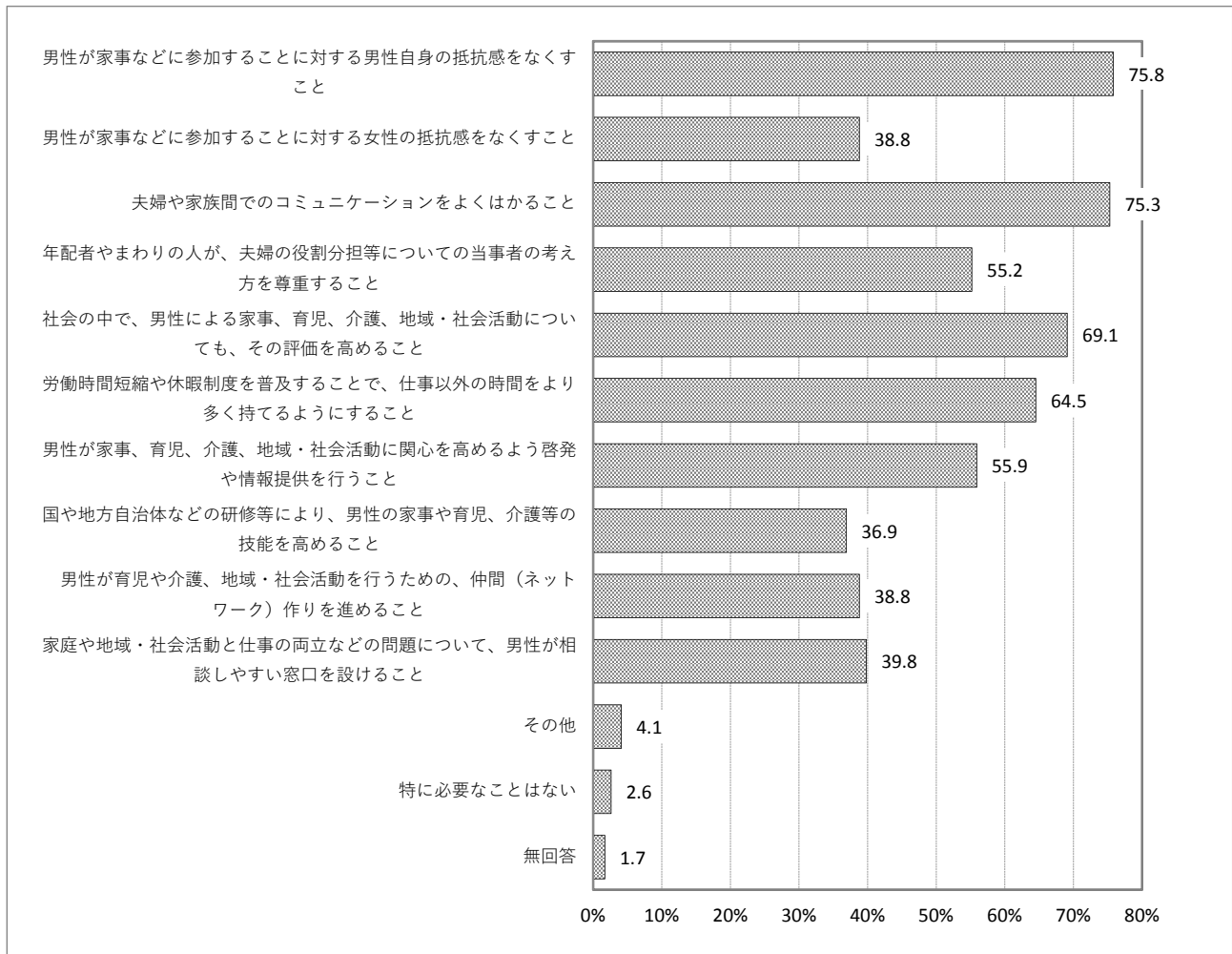
【問9で「同感する」と答えた方にお尋ねします】

問10 今後、男性が女性とともに家事、育児、介護、地域・社会活動に積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。全て選んでください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域・社会活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、育児、介護、地域・社会活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や育児、介護等の技能を高めること
- 9 男性が育児や介護、地域・社会活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りを進めること
- 10 家庭や地域・社会活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他
- 12 特に必要なことはない

【全体 (n=417)】

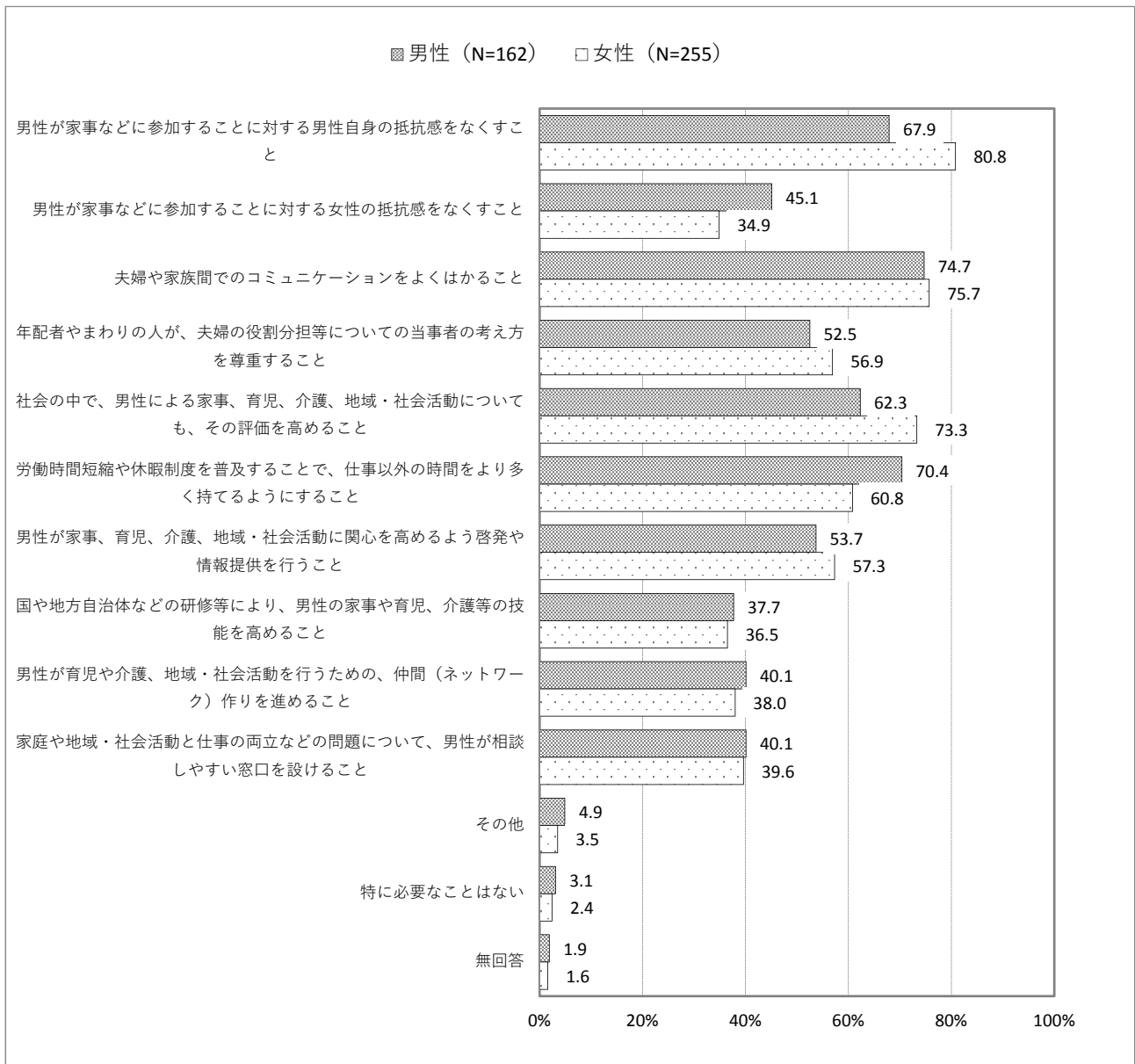
「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合が75.8%と最も高く、次に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」75.3%である。



【男女比較】

男性では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」74.7%と答えた人の割合が最も高く、次に「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」70.4%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」67.9%である。

女性では、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」80.8%と答えた人の割合が最も高く、次に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」75.7%、「社会の中で、男性による家事、育児、介護、地域・社会活動についても、その評価を高めること」73.3%である。



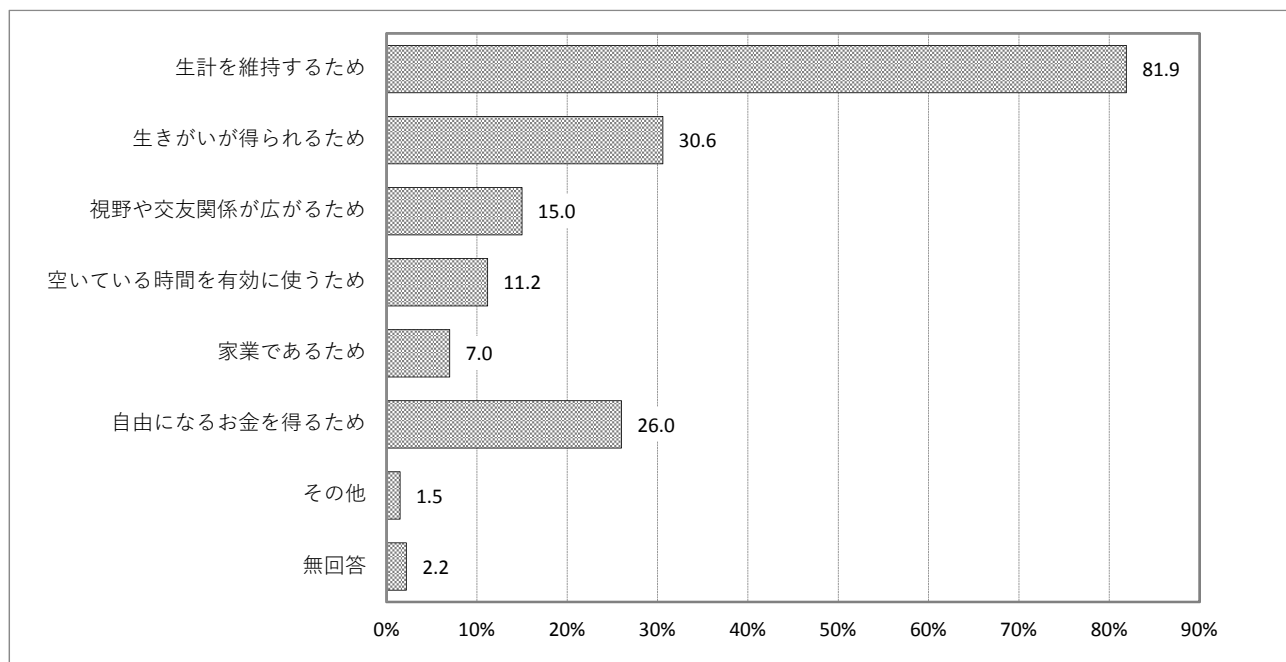
4 職場における男女共同参画について

【現在職業をお持ちの方にお尋ねします】

問11 あなたが仕事をしている主な理由は何ですか。2つまで選んでください。

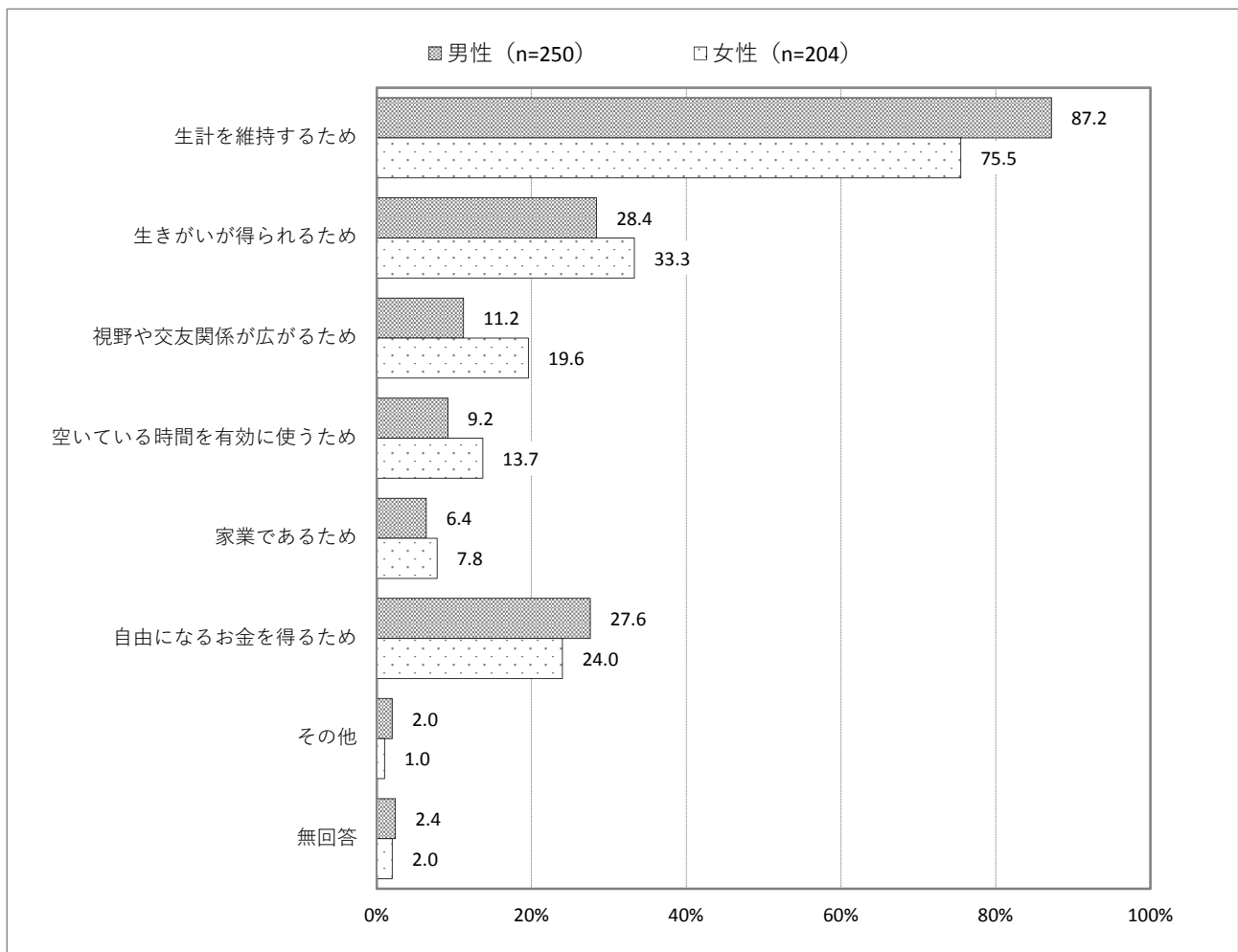
【全体 (n=454)】

「生計を維持するため」が最も多く 81.9%で、次に「生きがいが得られるため」30.6%、「自由になるお金を得るため」26.0%となっている。



【男女比較】

男女ともに「生計を維持するため」と答えた人の割合が最も多く、男性 87.2%、女性 75.5%である。次に「生きがいを得られるため」で、男性 28.4%、女性 33.3%である。「視野や交友関係が広がるため」は女性の方が、割合が高い。「自由になるお金を得るため」は男性の方が、割合が高い。



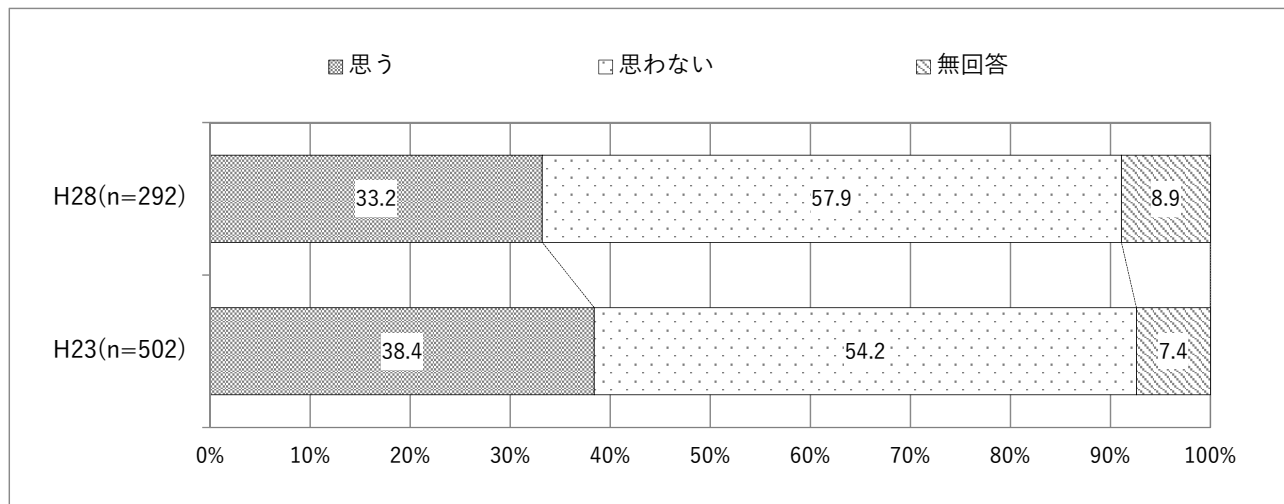
【現在職業をお持ちでない方にお尋ねします】

問12 あなたは、できれば仕事に就きたいと思いますか。

【全体】

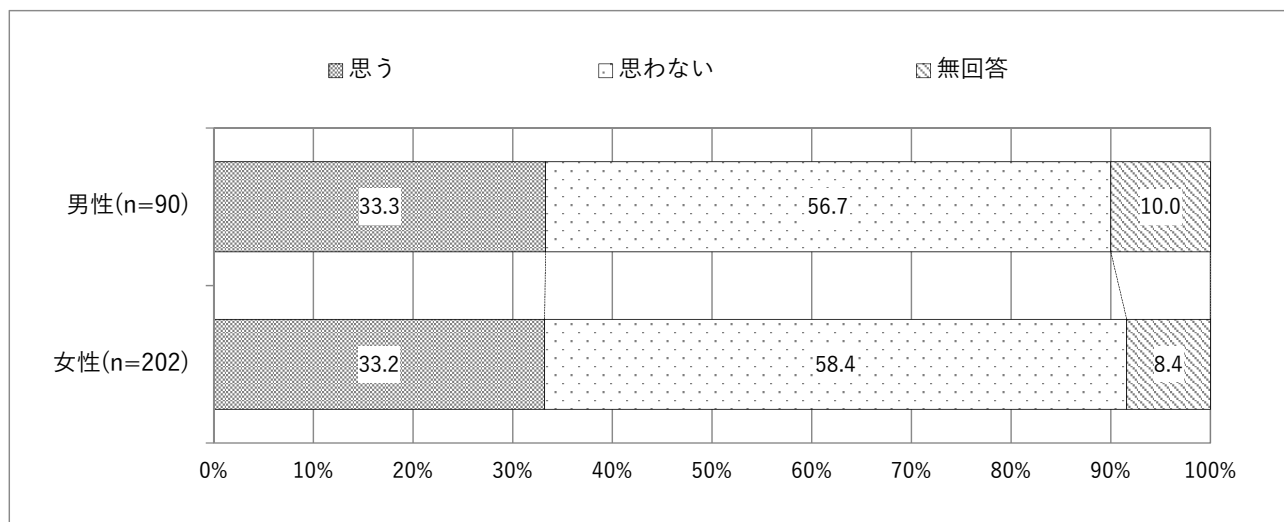
全体では、「思う」33.2%、「思わない」57.9%となっている。

前回調査と比較してみると、「思う」が5.2ポイント減少し、「思わない」が3.7ポイント増加している。



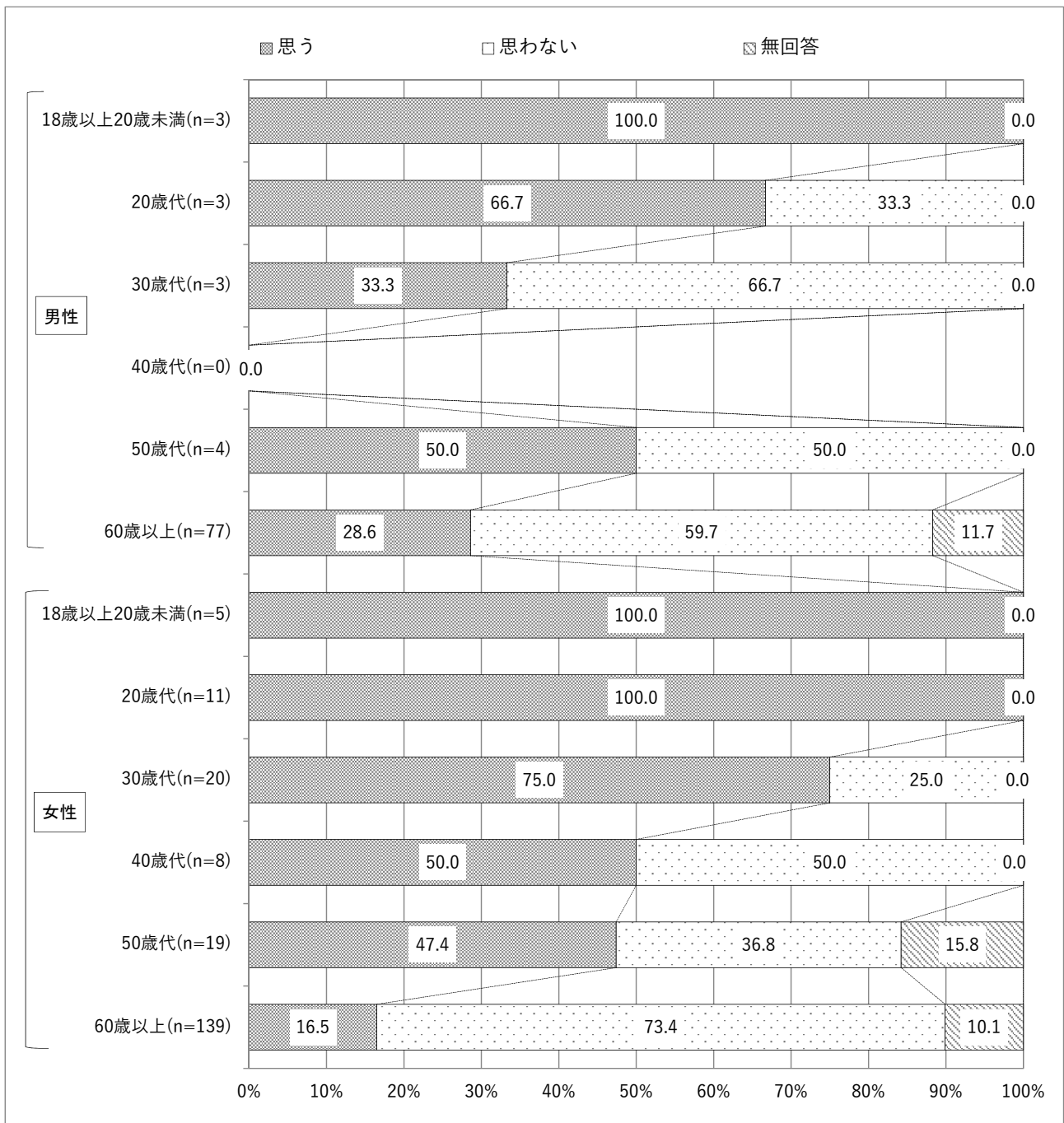
【男女比較】

性別で見ると、男性では「思う」33.3%、「思わない」56.7%。女性では「思う」33.2%、「思わない」58.4%と、ほぼ同じ割合である。



【年代比較】

女性では、年代が若くなるほど、仕事に就きたいと思う割合が高い。



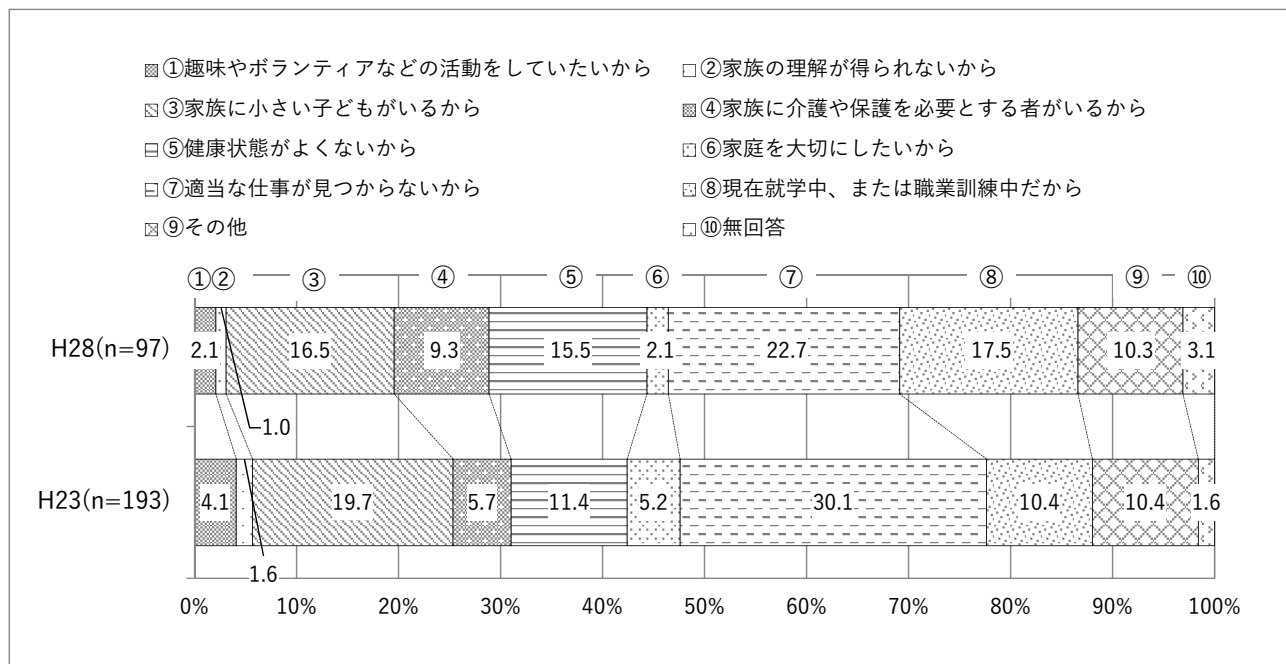
【現在職業をお持ちでない方にお尋ねします】

問 1 3 あなたが現在仕事をされていない理由は何ですか。1つ選んでください。

【経年比較／問 1 2 で仕事に就きたいと「思う」と答えた方】

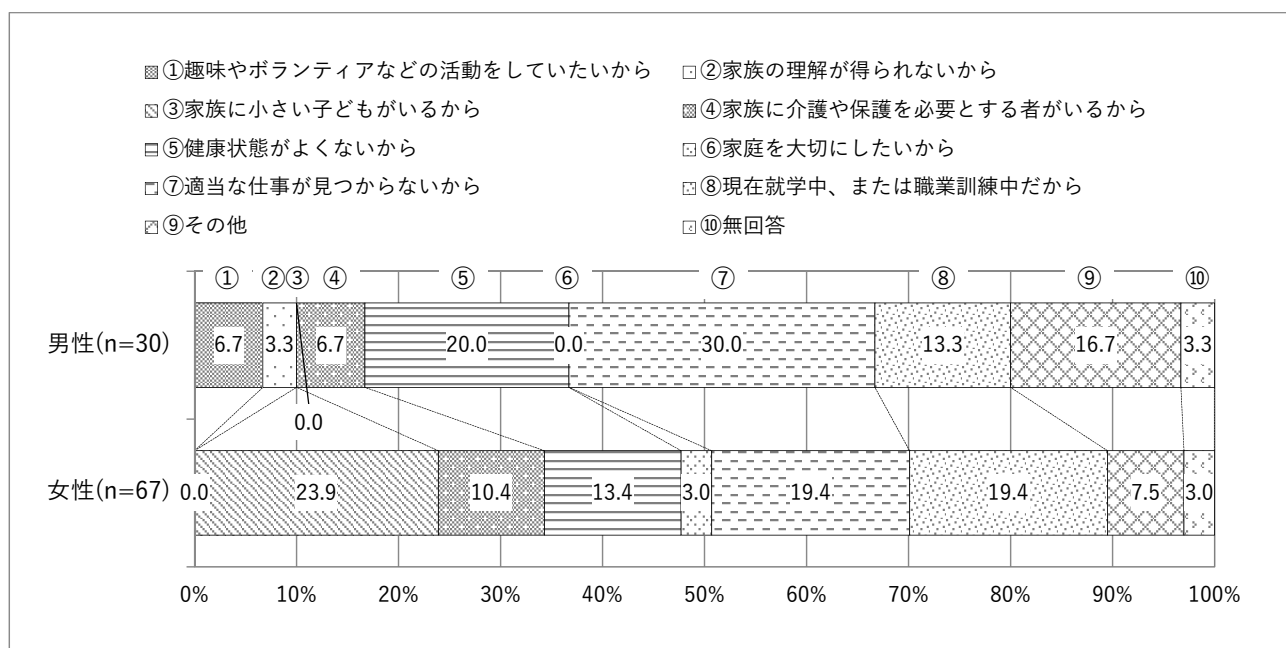
全体では、「適当な仕事が見つからないから」が 22.7% で最も高い。

前回調査と比較してみると、「家族に小さい子どもがいるから」が 3.2 ポイント減少し、「家族に介護や保護を必要とする者がいるから」が 3.6 ポイント増加している。



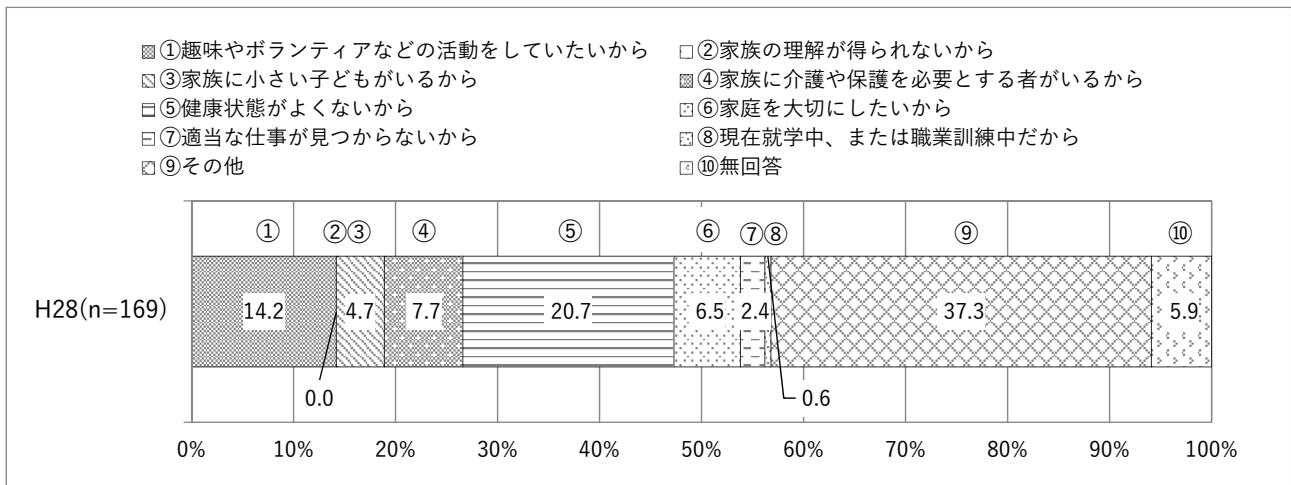
【男女比較／問 1 2 で仕事に就きたいと「思う」と答えた方】

「家族に介護や保護を必要とする者がいるから」と答えた人は、男性 6.7%、女性 10.4% であり、「家族に小さい子どもがいるから」と答えた人は、男性 0.0%、女性 23.9% となっている。



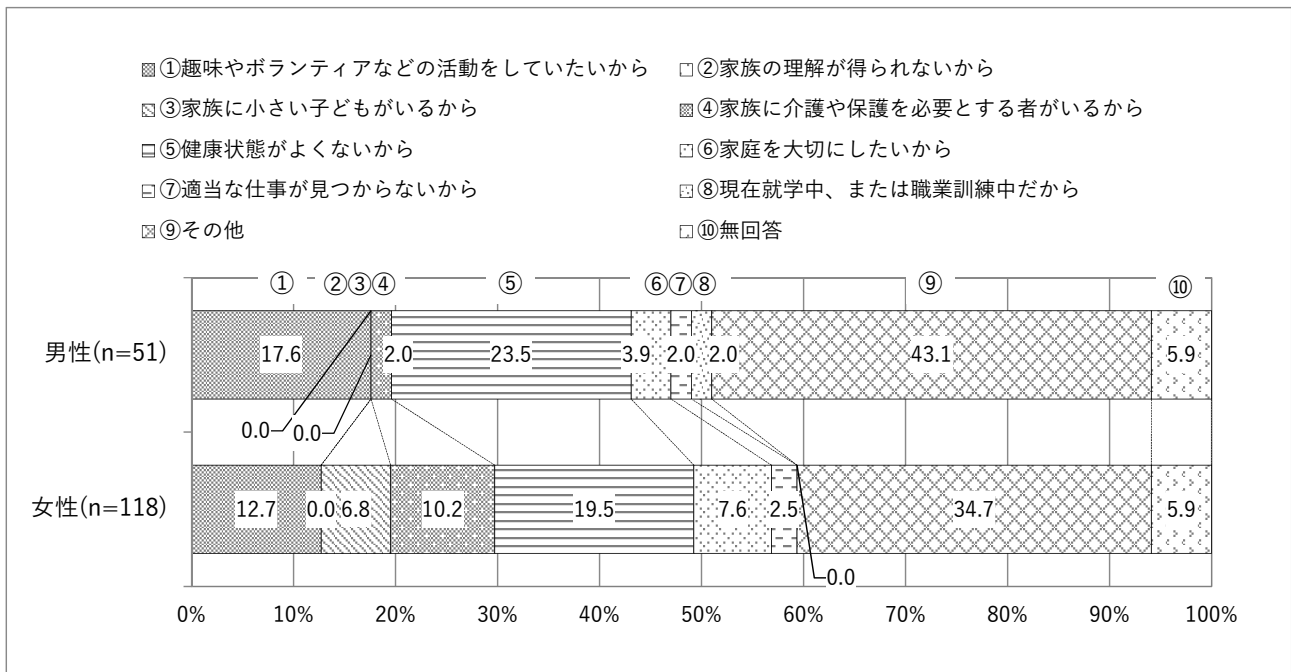
【全体／問12で仕事に就きたいと「思わない」と答えた方】

全体では、「健康状態がよくないから」「趣味やボランティアなどの活動をしていたいから」の割合が高い。「家族に介護や保護を必要とする者がいるから」が7.7%、「家族に小さい子どもがいるから」が4.7%である。



【男女比較／問12で仕事に就きたいと「思わない」と答えた方】

性別でみると、男女ともに「健康状態がよくないから」「趣味やボランティアなどの活動をしていたいから」と答えた人が多い。「家族に介護や保護を必要とする者がいるから」は、男性2.0%、女性10.2%、「家族に小さい子どもがいるから」は、男性0.0%、女性6.8%である。



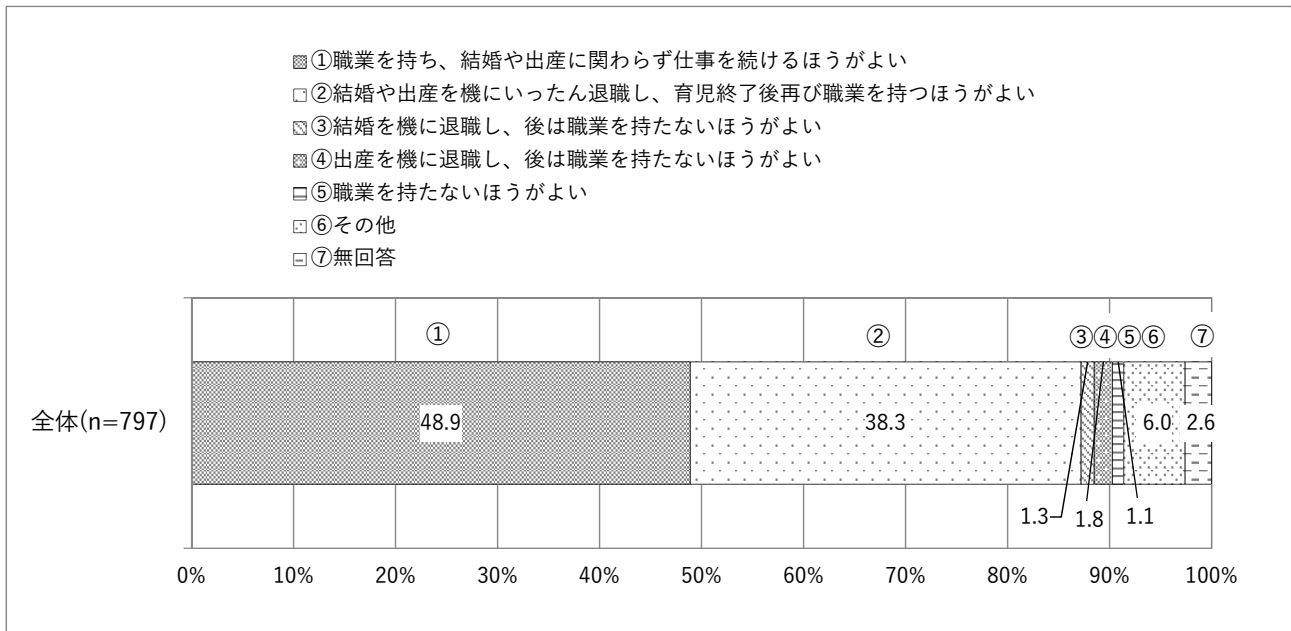
「その他」と回答した人が多いが、自由記入欄に「高齢のため」と書かれていた人が約8割である。

5 女性の活躍について

問14 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どう思いますか。1つ選んでください。

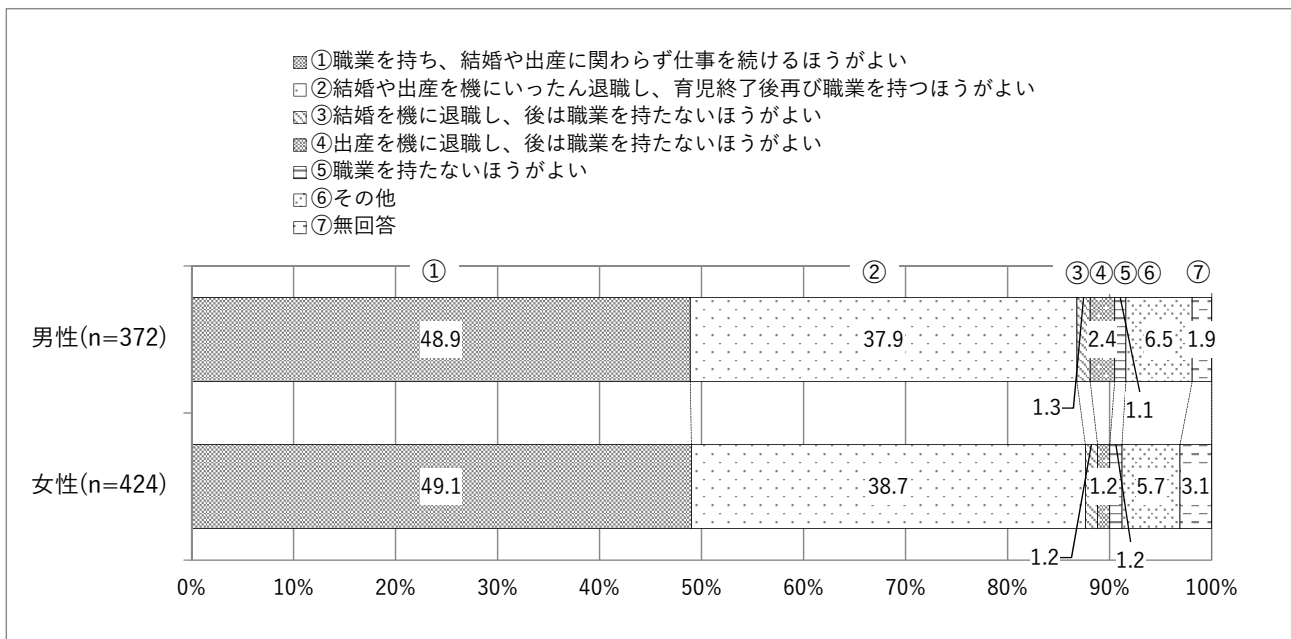
【全体】

全体では、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続けるほうがよい」と答えた人の割合が48.9%と最も高い。次に、「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後再び職業を持つほうがよい」が38.3%となっている。



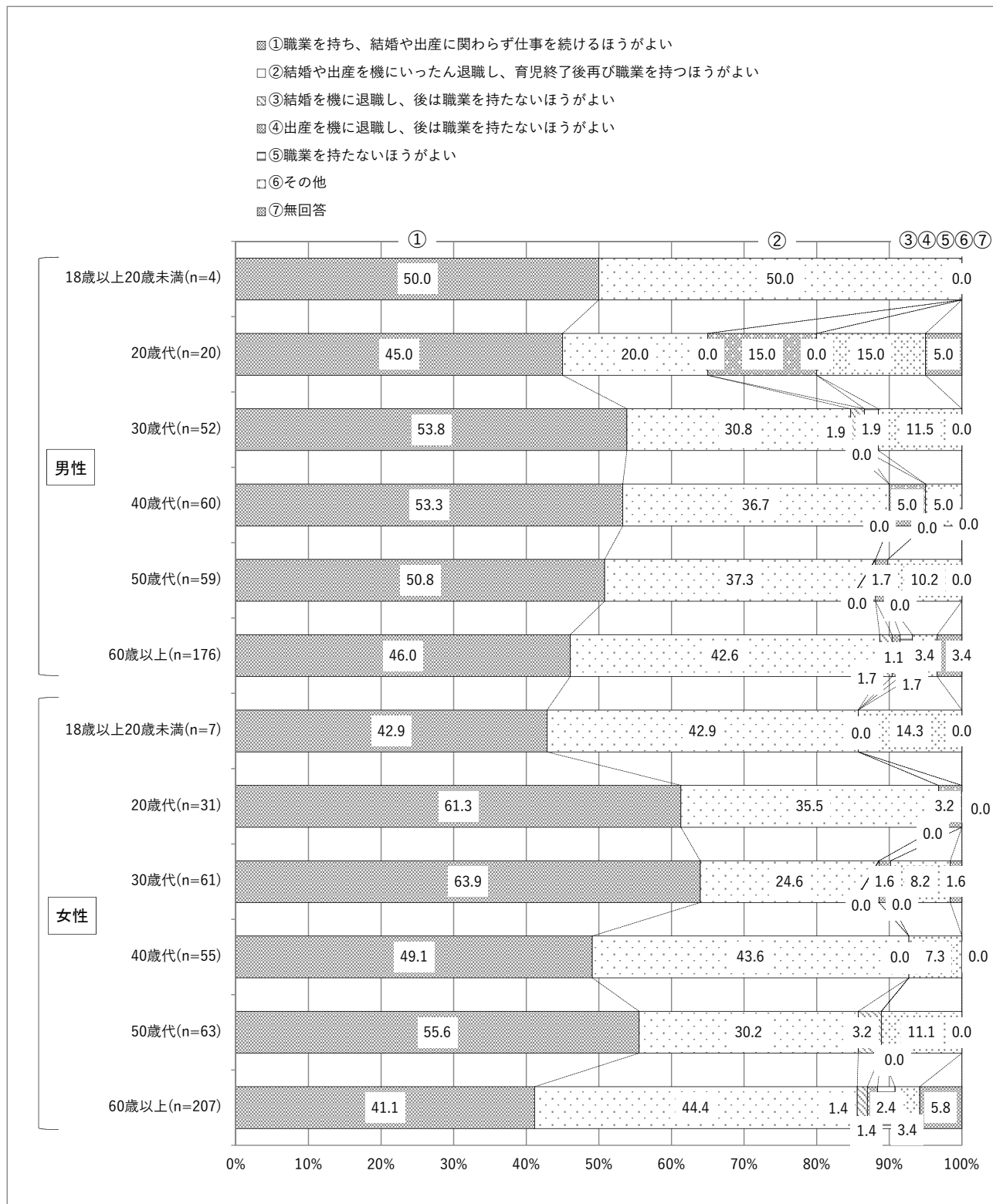
【男女比較】

性別でみると、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続けるほうがよい」と答えた人の割合は、男性48.9%、女性49.1%で、男女に差はみられない。



【年代比較】

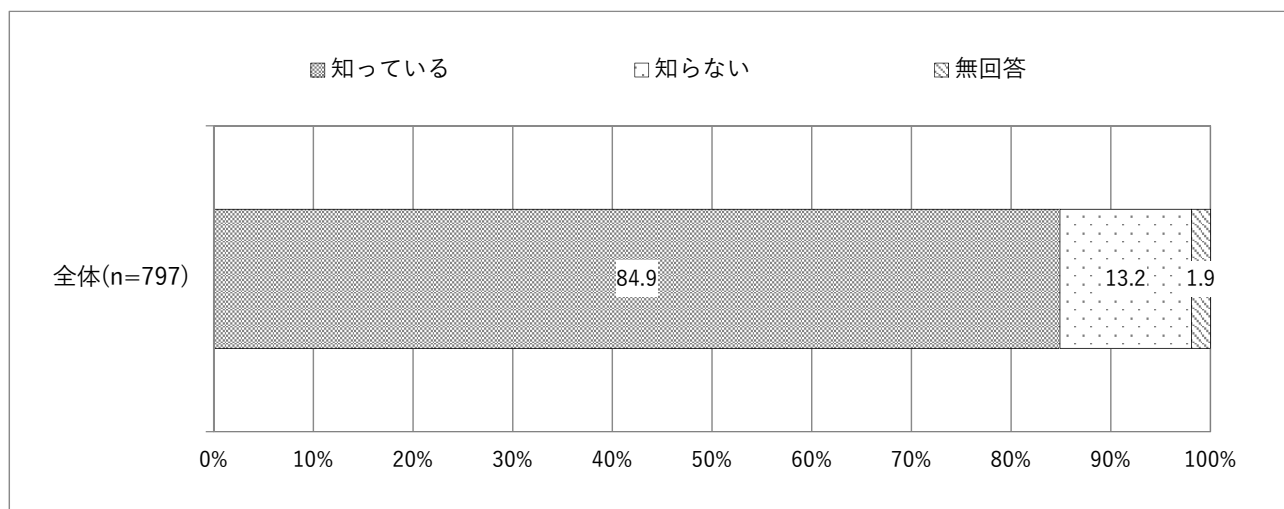
男性では、どの年代も「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続けるほうがよい」と半数の割合が回答している。女性では、20歳代61.3%、30歳代63.9%の割合が最も高く、60歳以上が41.1%と最も低い。



問15 あなたは「マタハラ」という言葉を知っていますか。

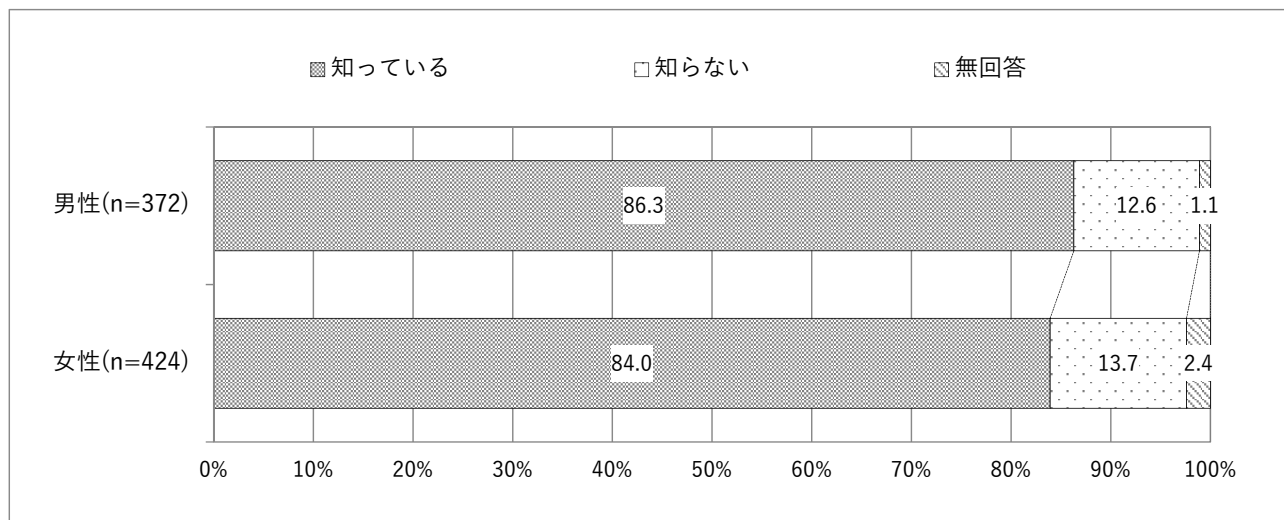
【全体】

全体では、「知っている」677人（84.9%）、「知らない」105人（13.2%）となっている。



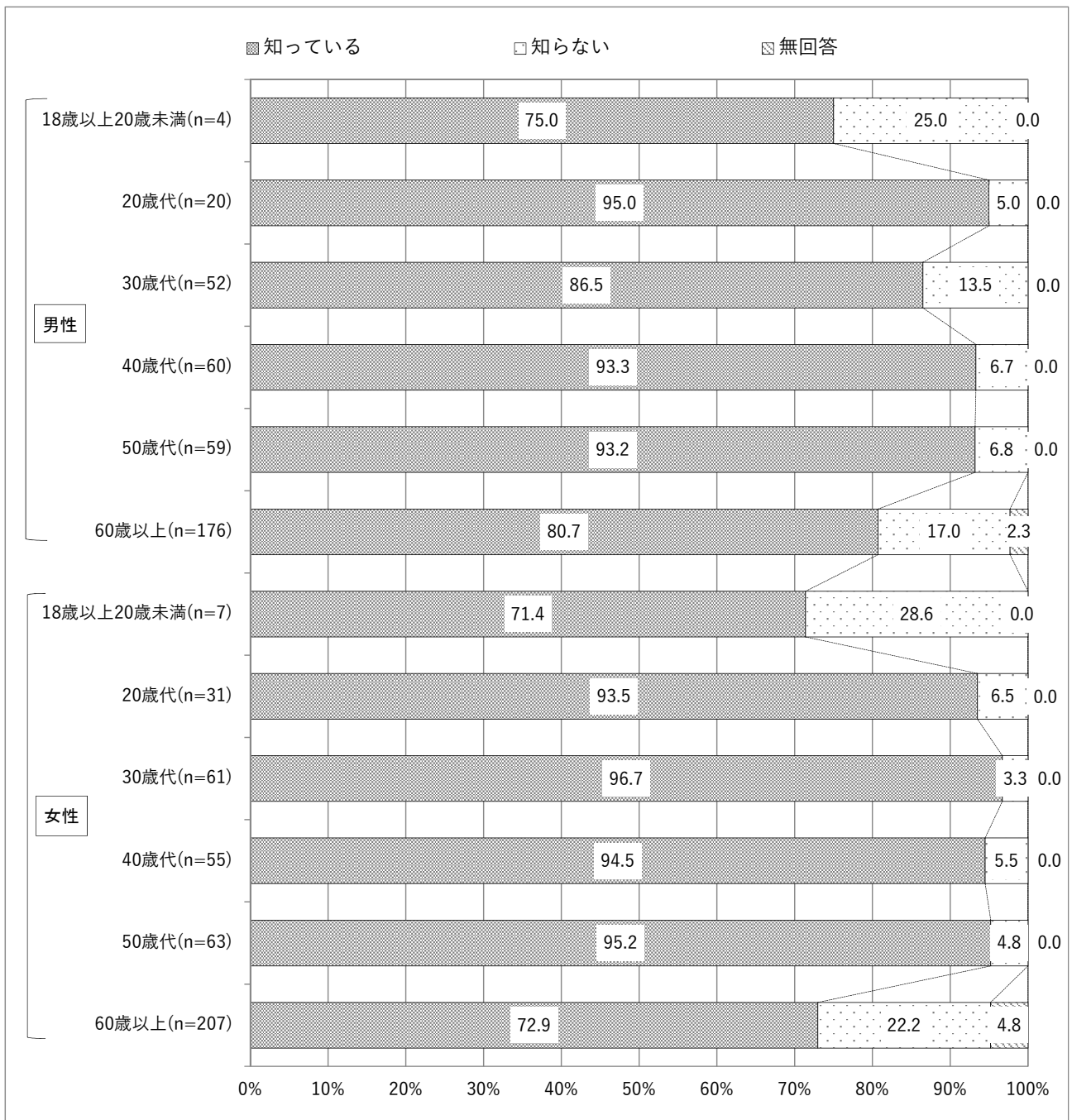
【男女比較】

性別で見ると、男性では「知っている」320人（86.3%）、「知らない」47人（12.6%）。女性では、「知っている」356人（84.0%）、「知らない」58人（13.7%）で、男性の方が「知っている」と回答した人の割合が若干高い。



【年代比較】

男女とも、20歳代～50歳代は「知っている」が約9割である。

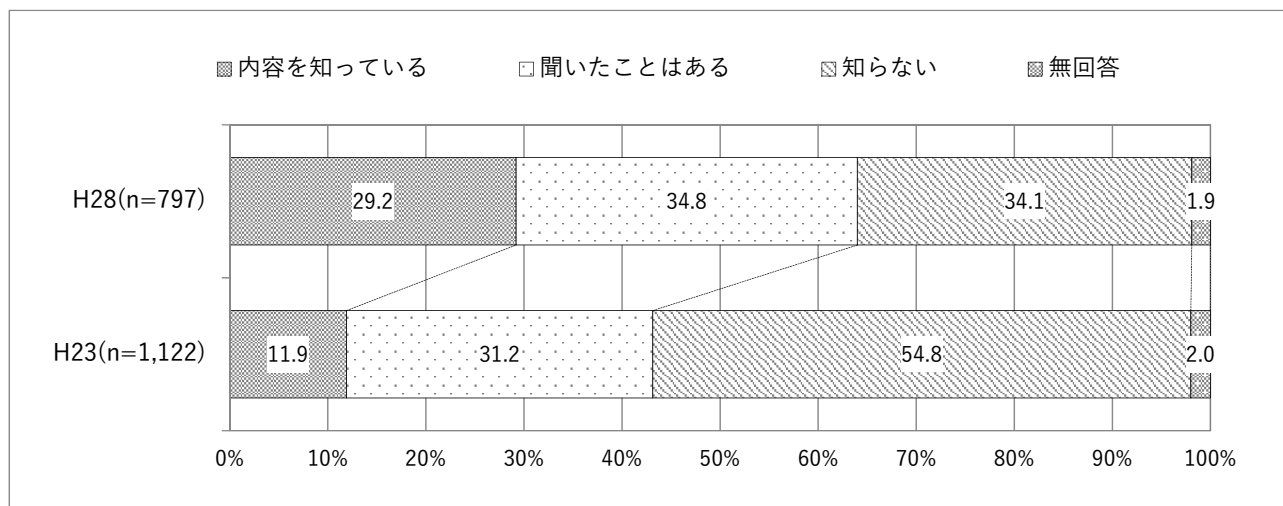


問16 あなたはワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を知っていますか。

【全体】

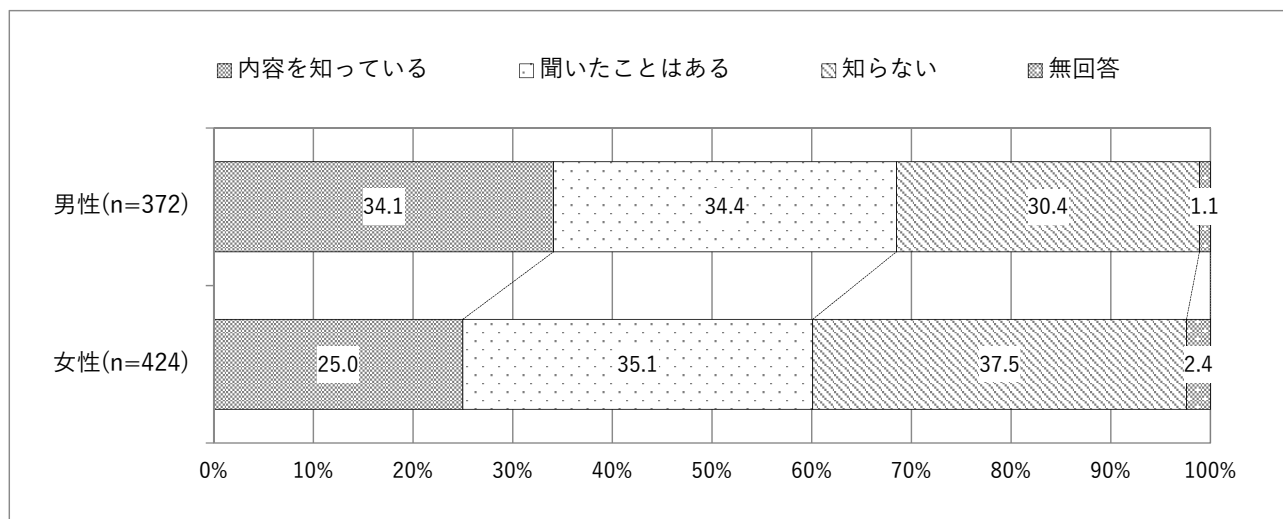
全体では、「内容を知っている」29.2%、「聞いたことはある」34.8%、「知らない」34.1%となっている。

前回調査と比較してみると、「内容を知っている」と答えた人の割合が17.3ポイント増加、「聞いたことはある」と答えた人の割合も3.6ポイント増加している。



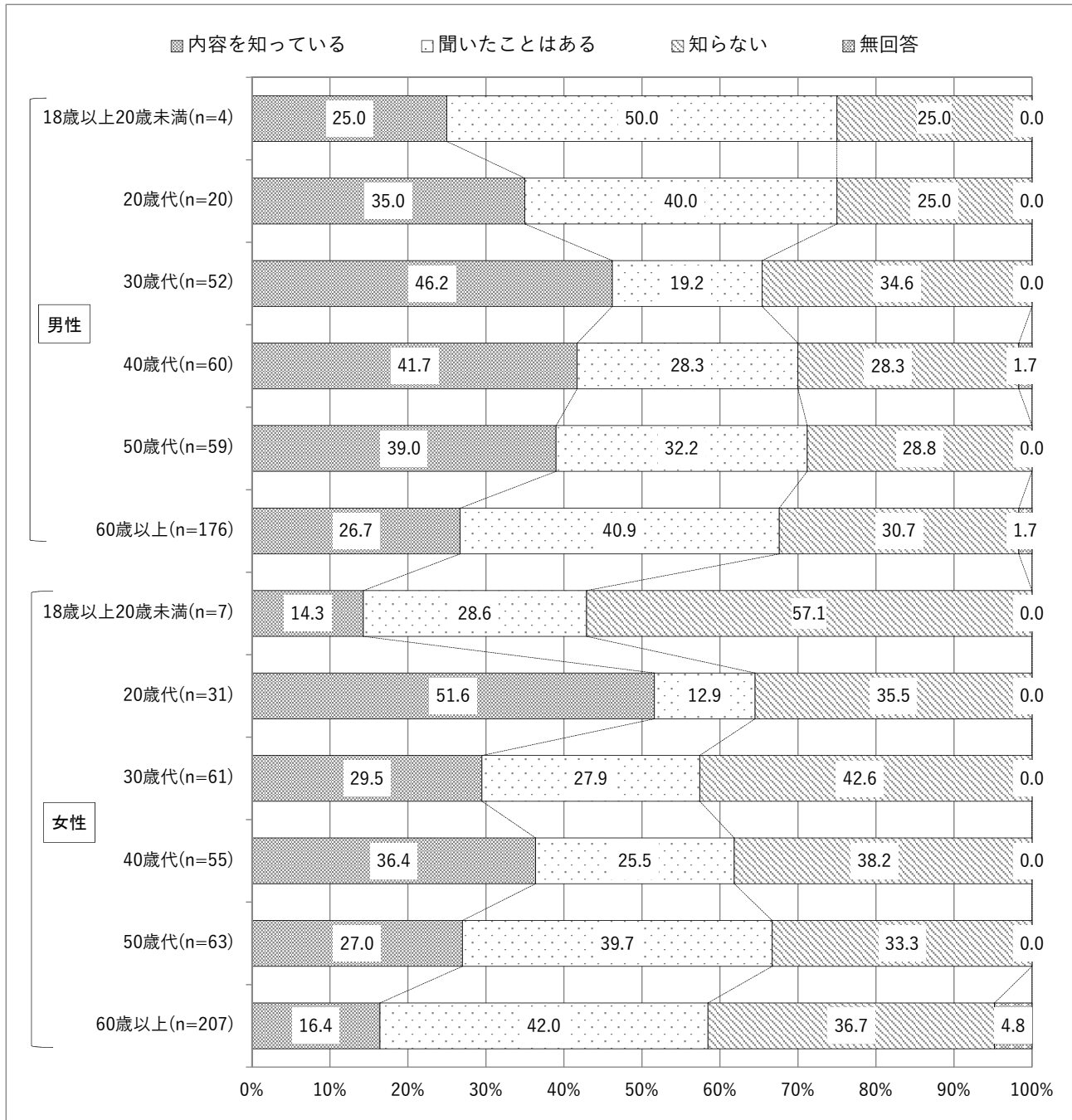
【男女比較】

性別でみると、男性では「内容を知っている」34.1%、「聞いたことはある」34.4%。女性では、「内容を知っている」25.0%、「聞いたことはある」35.1%で、男性の方が認知度が高い。



【年代比較】

男性では、「内容を知っている」と答えた人の割合が高いのは30歳代で46.2%である。男性はどの世代でも「内容を知っている」「聞いたことはある」と答えた人の割合が約7割である。女性では、20歳代が51.6%と、半数の人が「内容を知っている」と回答している。「内容を知っている」「聞いたことはある」と答えた人の割合は、20歳代以上で約6割である。

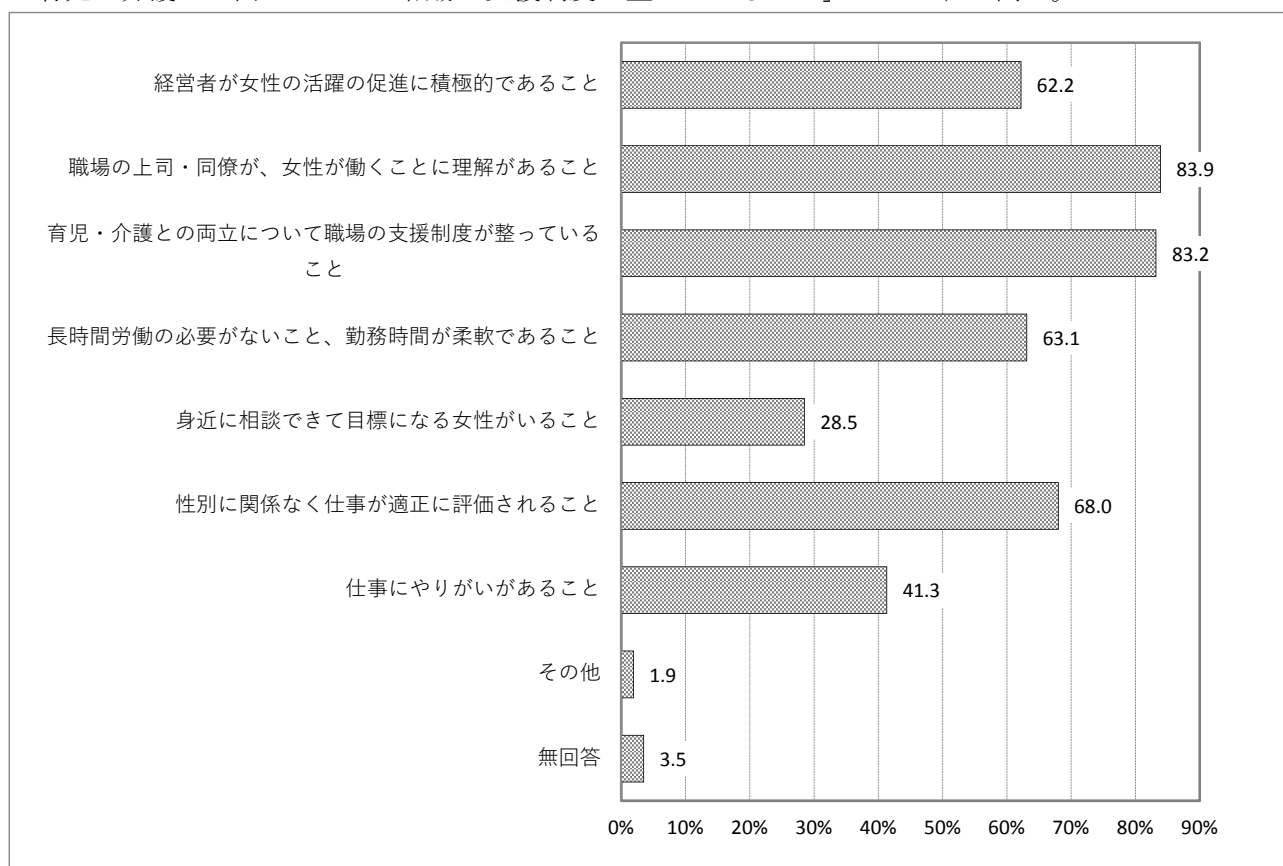


問17 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために何が必要と思いますか。
優先度が高いものを5つ選んでください。

- 1 経営者が女性の活躍の促進に積極的であること
- 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること
- 3 育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること
- 4 長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
- 5 身近に相談できて目標になる女性がいること
- 6 性別に関係なく仕事が適正に評価されること
- 7 仕事にやりがいがあること
- 8 その他

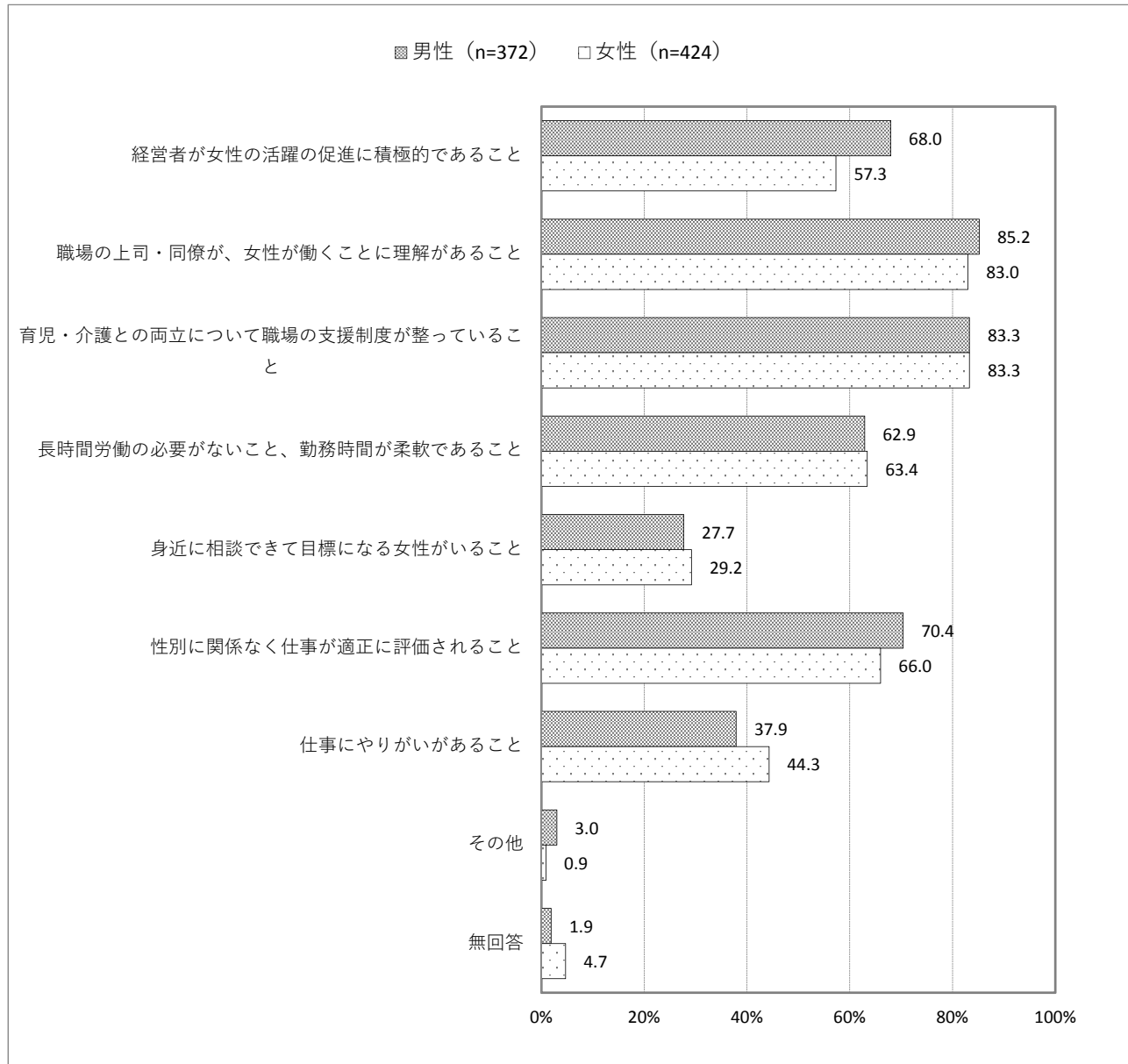
【全体 (n=797)】

全体では、「職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」が83.9%と最も高く、次に「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」が83.2%と高い。



【男女比較】

男女ともに、「職場の上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」「育児・介護との両立について職場の支援制度が整っていること」と答えた人の割合が高い。男性では、「経営者が女性の活躍の促進に積極的であること」が68.0%で、女性より割合が高い。女性では、「仕事にやりがいがあること」が44.3%で、男性より割合が少し高い。

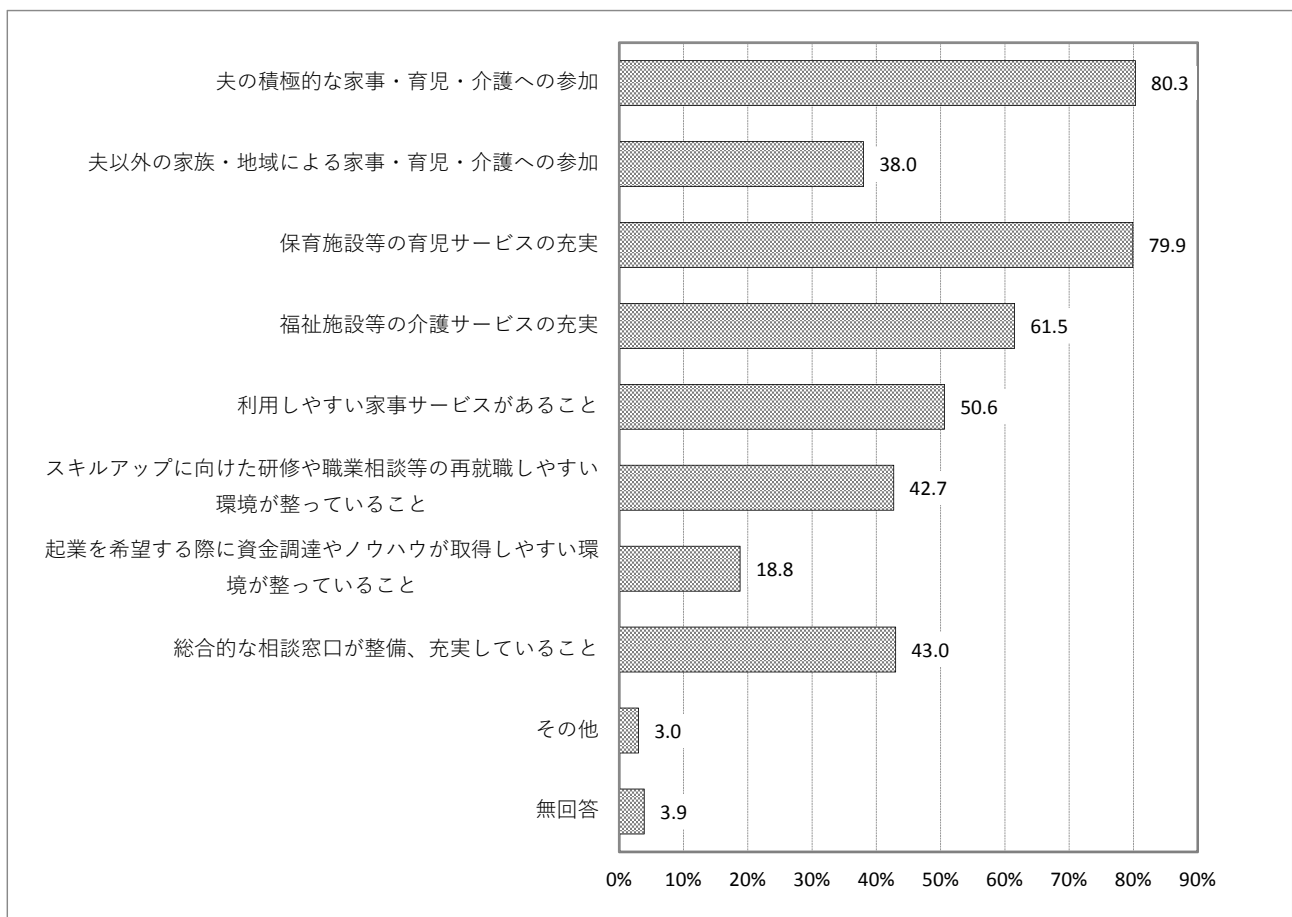


問18 女性の活躍が進むためには、家族や社会等でどのような環境整備が必要と思いますか。
優先度が高いものを5つ選んでください。

- 1 夫の積極的な家事・育児・介護への参加
- 2 夫以外の家族・地域による家事・育児・介護への参加
- 3 保育施設等の育児サービスの充実
- 4 福祉施設等の介護サービスの充実
- 5 利用しやすい（育児・介護以外の）家事サービスがあること
- 6 スキルアップに向けた研修や職業相談等の再就職しやすい環境が整っていること
- 7 起業を希望する際に資金調達やノウハウが取得しやすい環境が整っていること
- 8 総合的な相談窓口が整備、充実していること
- 9 その他

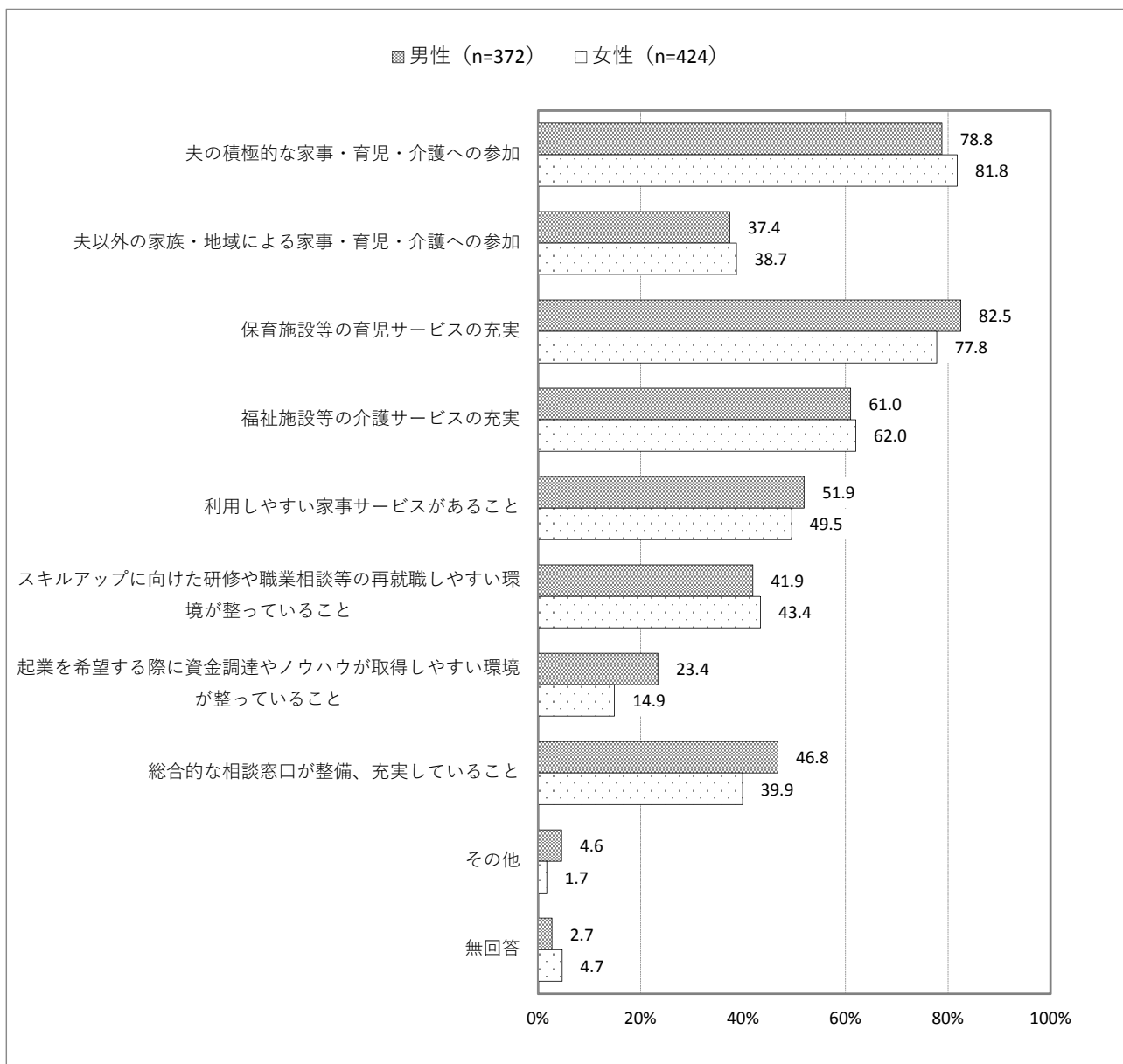
【全体 (n=797)】

全体では、「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」が80.3%と最も高く、次に「保育施設等の育児サービスの充実」が79.9%と高い。



【男女比較】

男性では、「保育施設等の育児サービスの充実」と回答した人の割合が最も高く 82.5%で、次に「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」78.8%である。女性では、「夫の積極的な家事・育児・介護への参加」が 81.8%と最も高く、「保育施設等の育児サービスの充実」は 77.8%である。

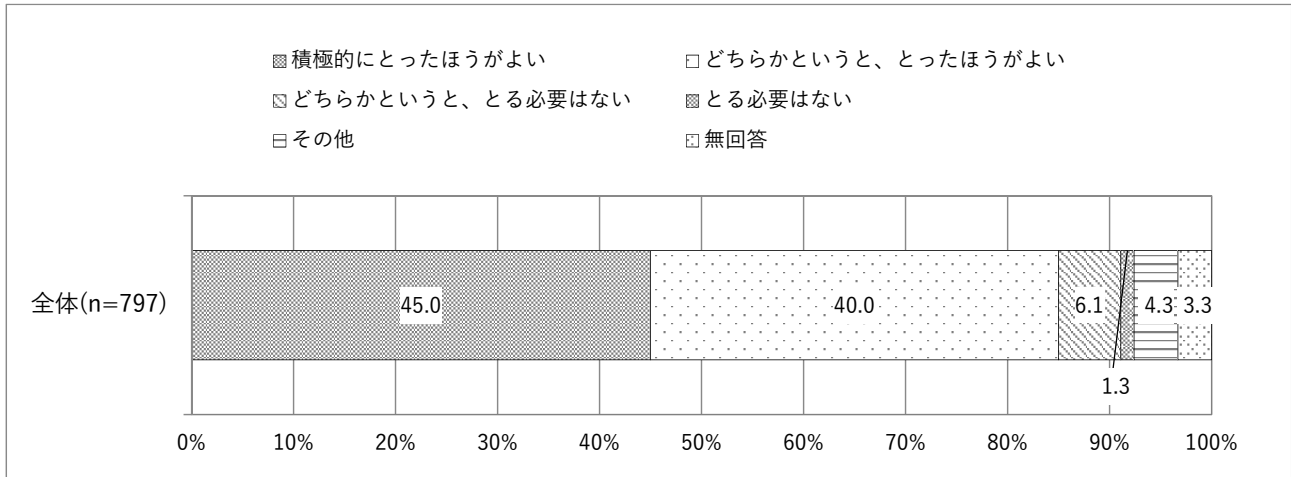


6 男性による育児・介護について

問19 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。男性が、このような仕事と育児や家族の介護の両立を支援する制度を活用することについてどう思いますか。

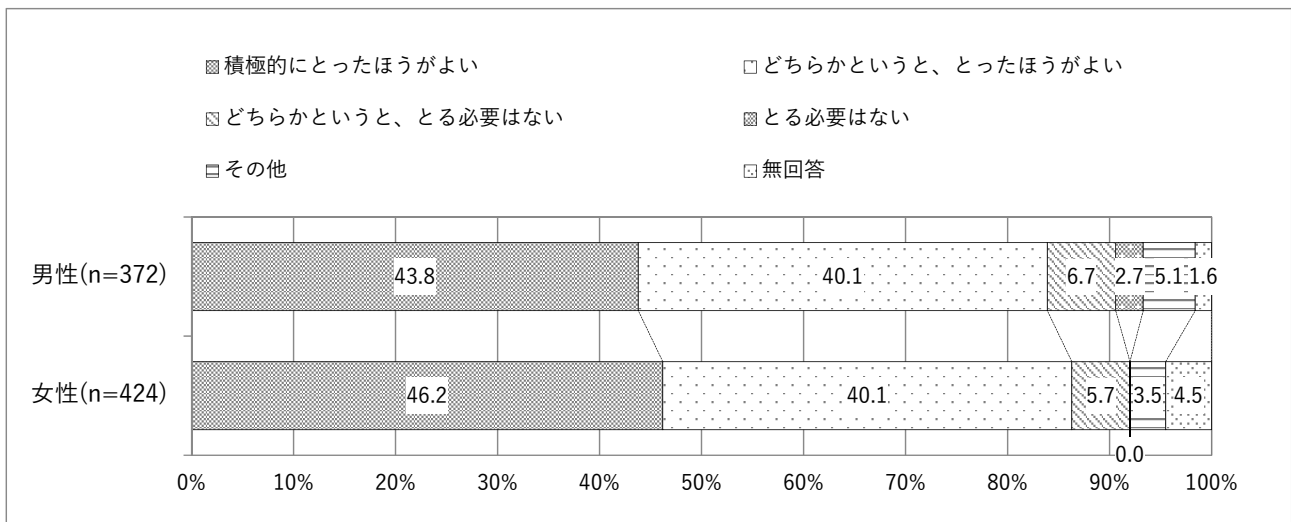
【全体】

全体では、「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合が45.0%と最も高く、次に「どちらかという、とったほうがよい」が40.0%である。



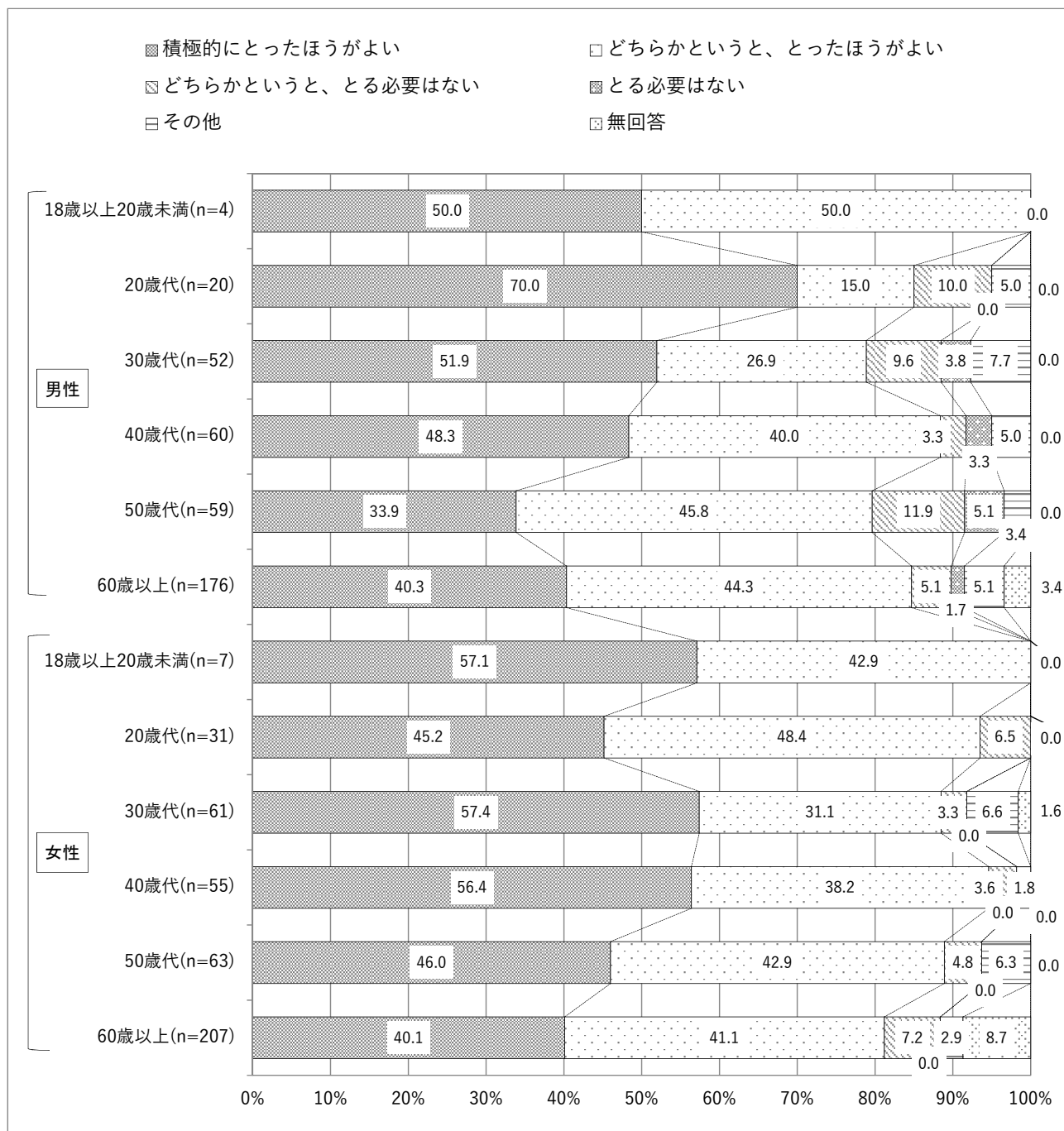
【男女比較】

性別でみると、「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合は女性の方が少し高い。



【年代比較】

男性では、20歳代が「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合が70.0%と最も高く、50歳代が33.9%と最も低い。女性では、「積極的にとったほうがよい」と答えた人の割合が高いのは、30歳代57.4%、18歳以上20歳未満57.1%、40歳代56.4%である。

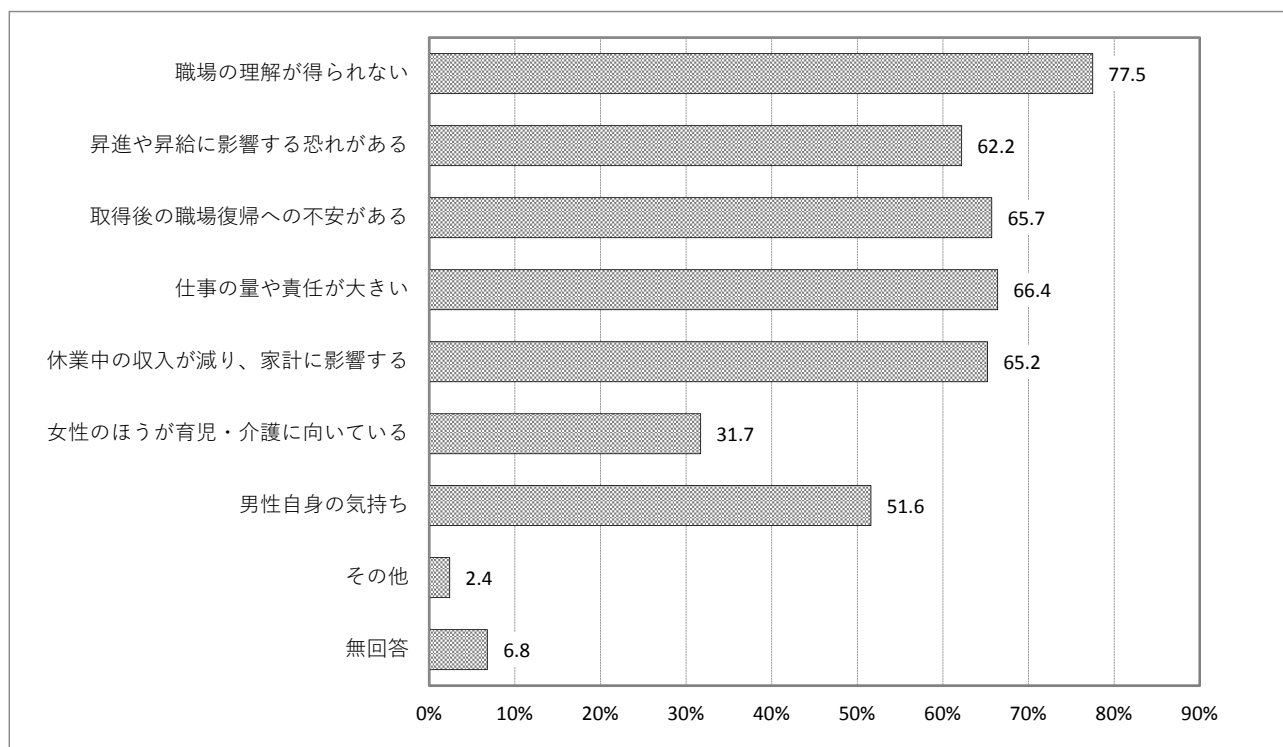


問20 育児休業・介護休業・子の看護休暇をとる男性が少ない状況にあります。その理由は何だと思えますか。全て選んでください。

- 1 職場の理解が得られない
- 2 昇進や昇給に影響する恐れがある
- 3 取得後の職場復帰への不安がある
- 4 仕事の量や責任が大きい
- 5 休業中の収入が減り、家計に影響する
- 6 女性のほうが育児・介護に向いている
- 7 男性自身の気持ち（恥ずかしい、プライドが邪魔するなど）
- 8 その他

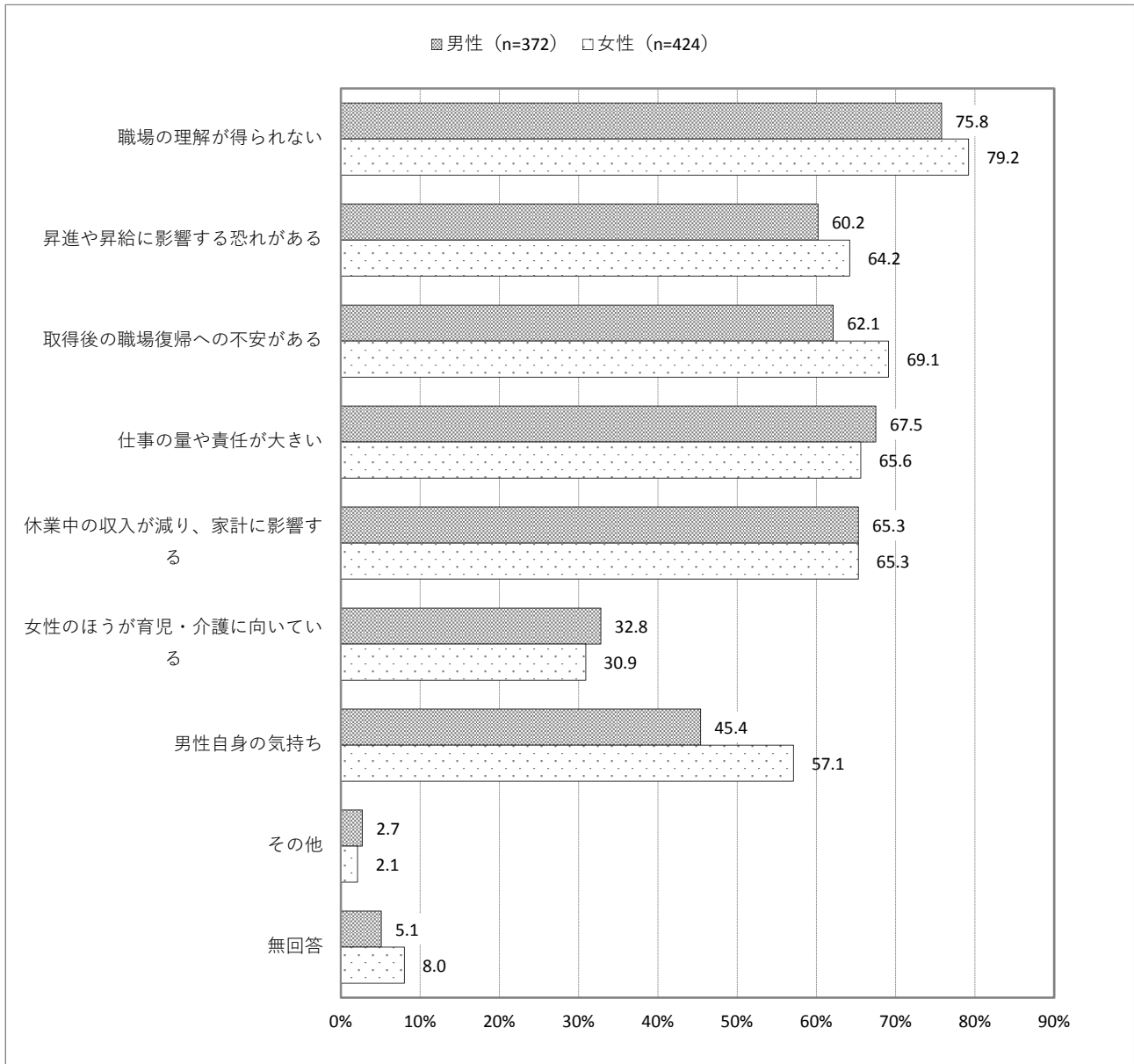
【全体 (n=797)】

全体では、「職場の理解が得られない」が77.5%と最も高く、次に「仕事の量や責任が大きい」66.4%、「取得後の職場復帰への不安がある」65.7%、「休業中の収入が減り、家計に影響する」65.2%、「昇進や昇給に影響する恐れがある」62.2%となっている。



【男女比較】

男女ともに、「職場の理解が得られない」と答えた人の割合が高く、男性 75.8%、女性 79.2%である。男性では、「仕事の量や責任が大きい」67.5%、「休業中の収入が減り、家計に影響する」65.3%と続く。女性では、「取得後の職場復帰への不安がある」69.1%、「仕事の量や責任が大きい」65.6%と続く。「男性自身の気持ち」と答えた人の割合が男性 45.4%に対して、女性 57.1%で、女性の方が高い。



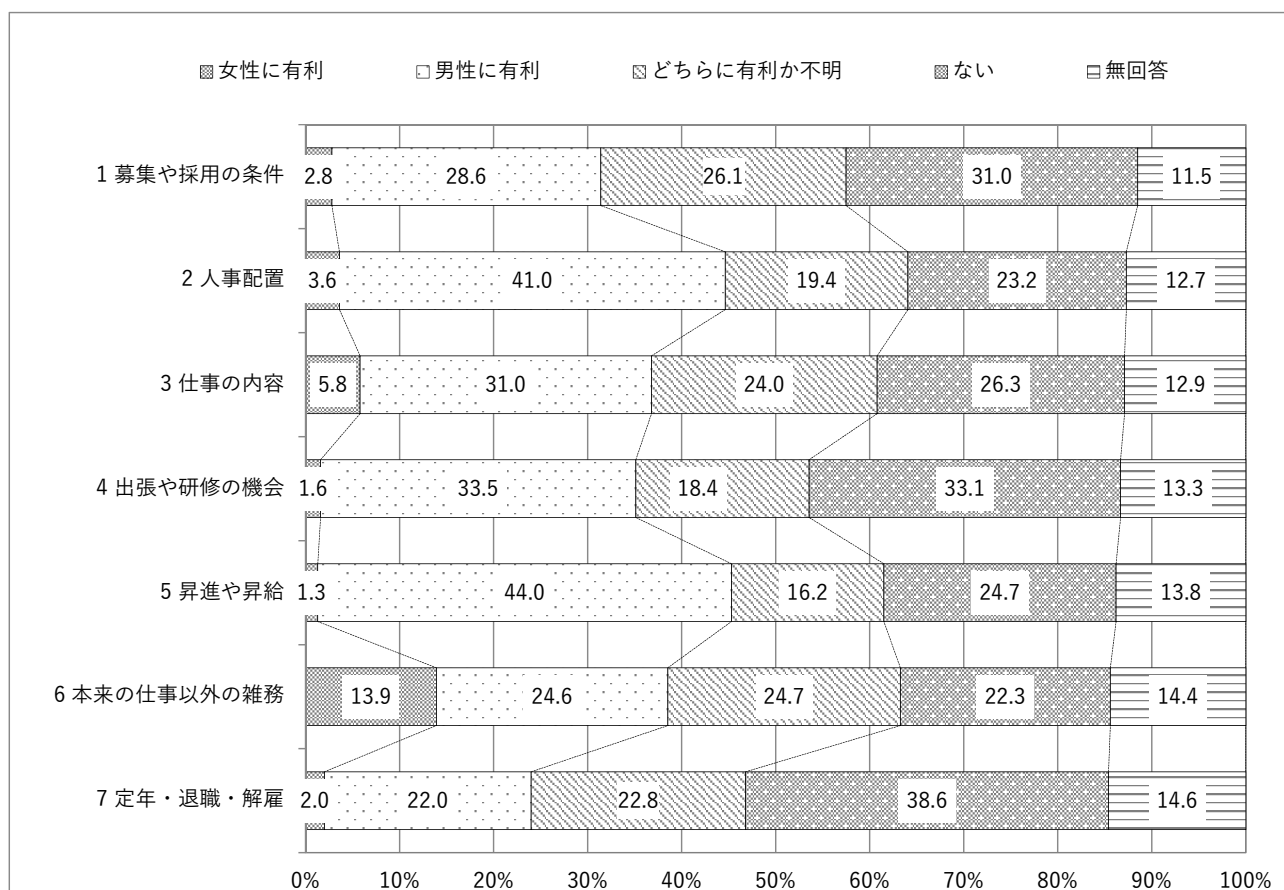
7 職場における男女格差

問2 1 あなたの職場や、あなたの身近な人の職場では、次のことについて男女の間に格差があると思いますか。または、そのような話を聞いたことがありますか。

- 1 募集や採用の条件
- 2 人事配置
- 3 仕事の内容
- 4 出張や研修の機会
- 5 昇進や昇給
- 6 本来の仕事以外の雑務
- 7 定年・退職・解雇

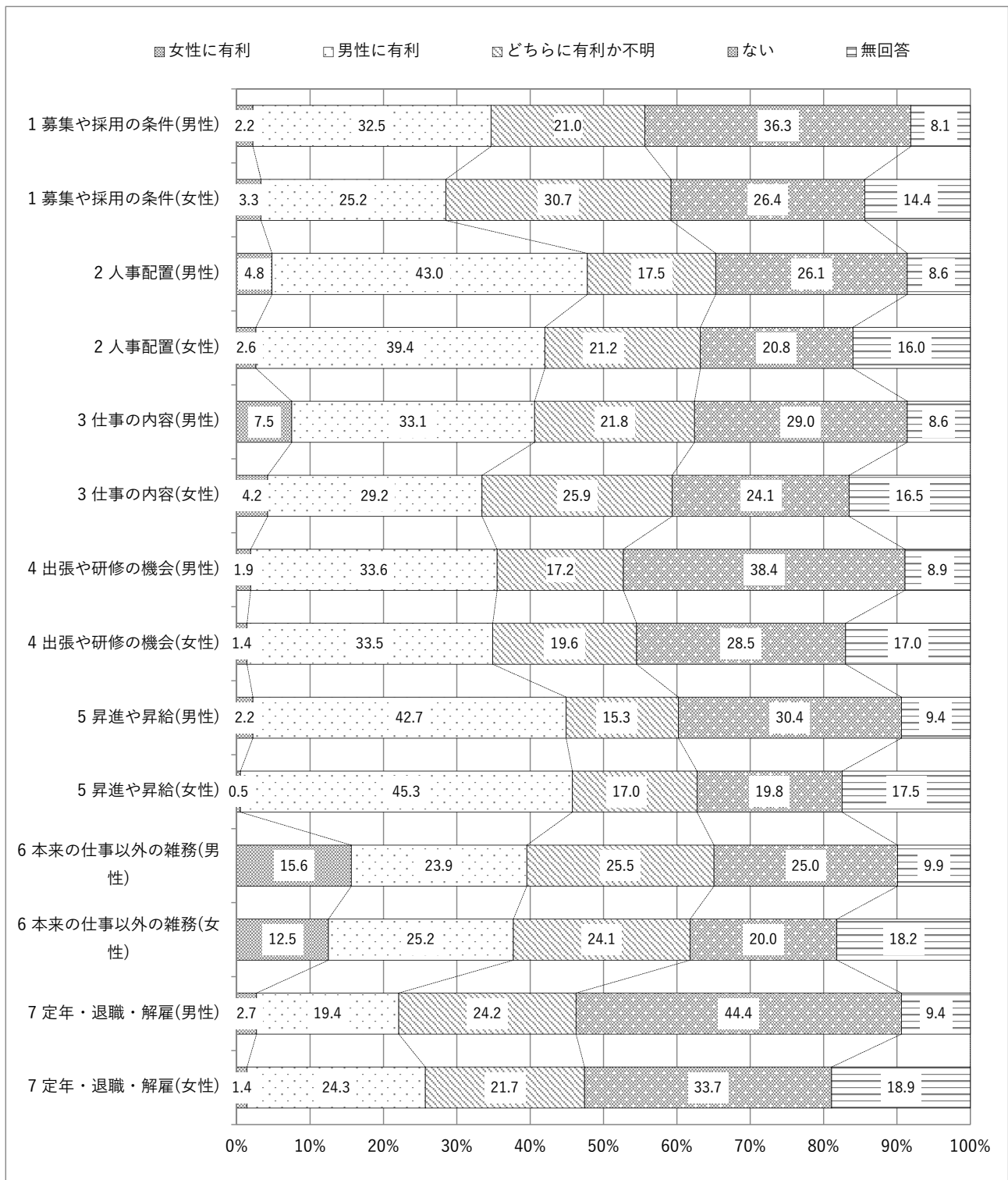
【全体 (n=797)】

全ての項目において、「男性に有利」と答えた人の割合が「女性に有利」を大きく上回っている。「男性に有利」と答えた人の割合が高いのは、「昇進や昇給」44.0%、「人事配置」41.0%である。「ない」と答えた人の割合が高いのは、「定年・退職・解雇」38.6%である。



【男女比較（男性 n=372、女性 n=424）】

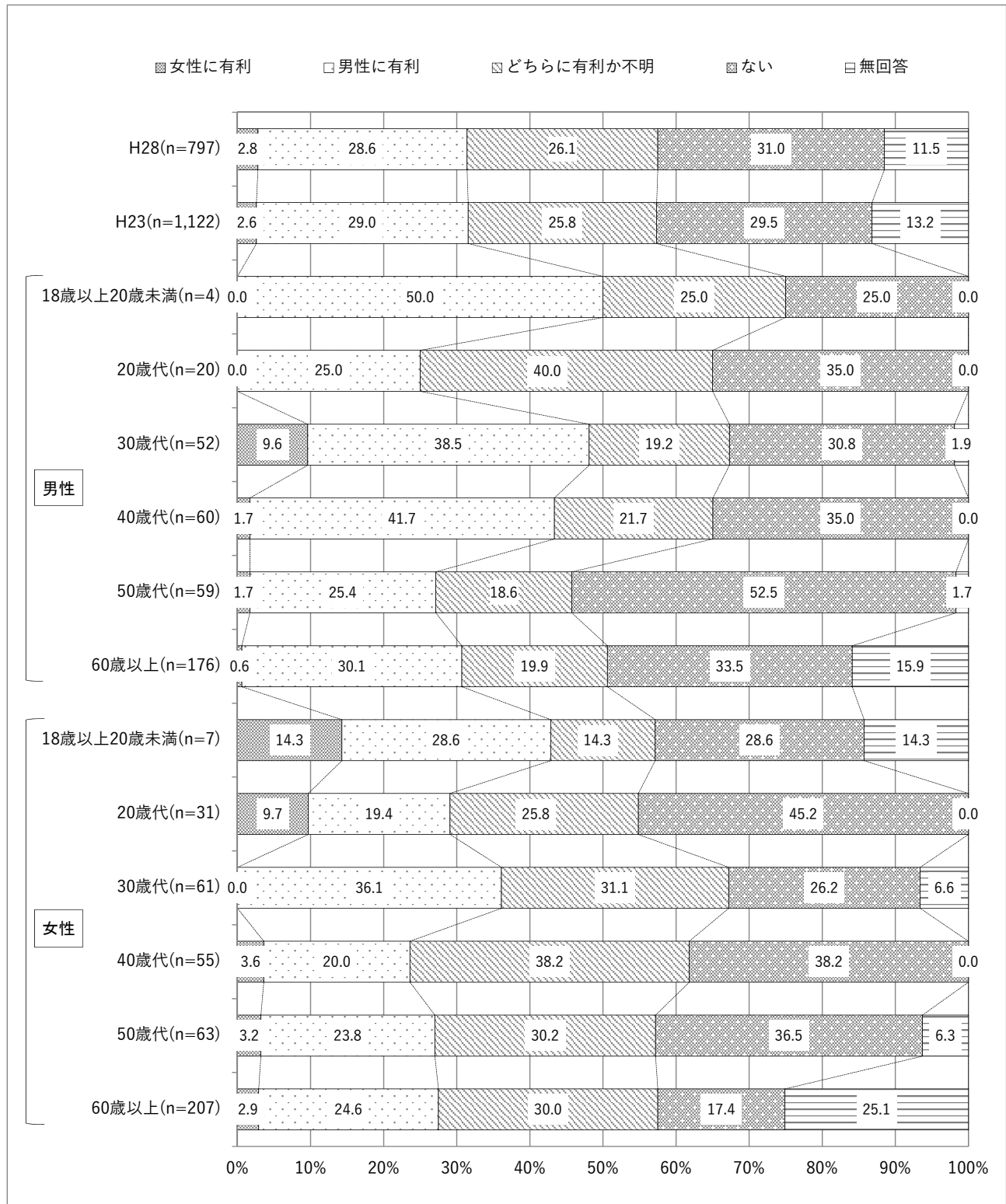
性別でみると、どの項目でも「男性に有利」と答えた人の割合が「女性に有利」よりも高くなっている。「1 募集や採用の条件」では、「男性に有利」と答えた人の割合は、男性 32.5%、女性 25.2%と男女の差が大きい。



【経年・年代比較（問 21-1 募集や採用の条件）】

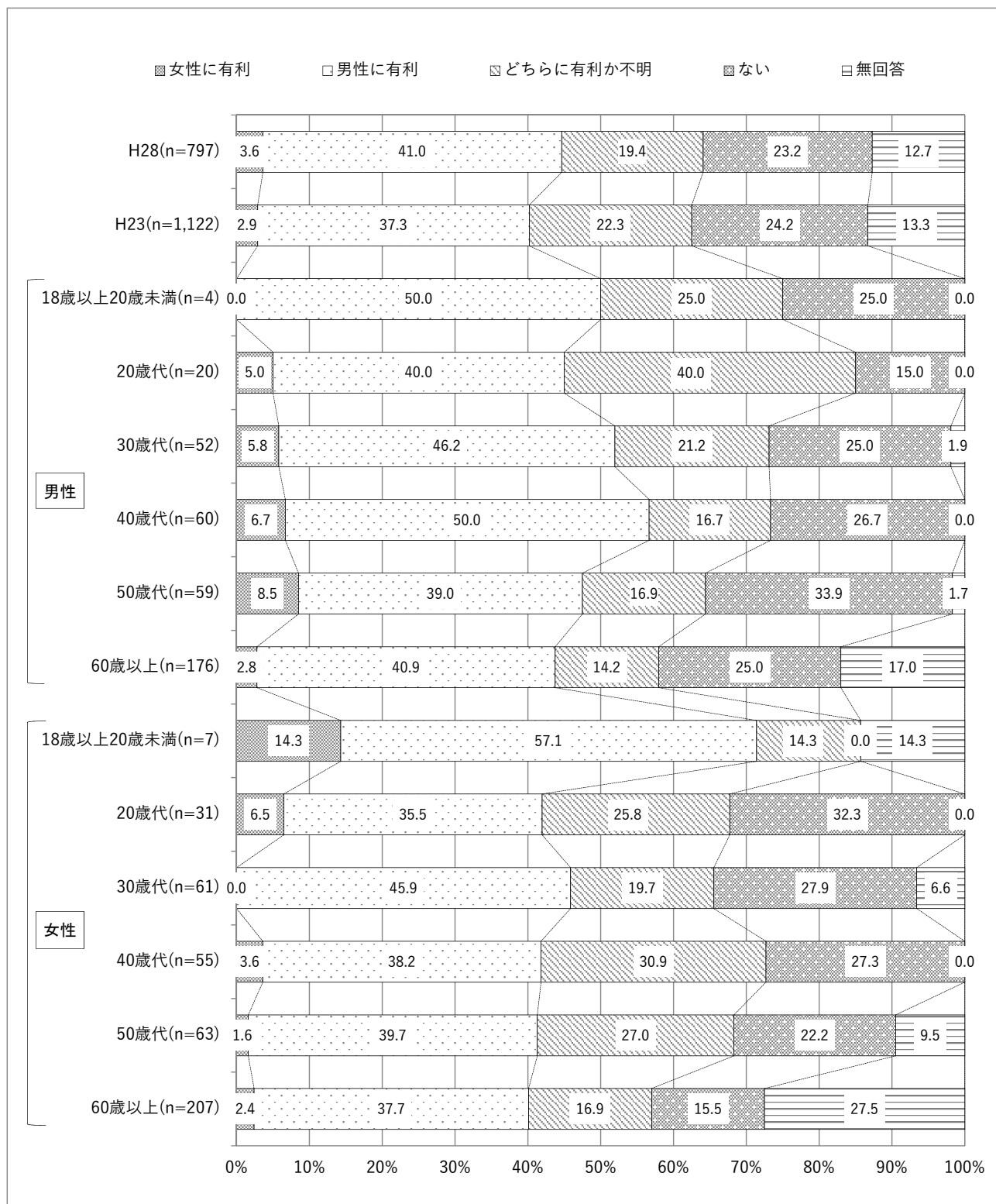
「募集や採用の条件」において、男性では、「男性に有利」と答えた割合は 40 歳代で 41.7%、30 歳代で 38.5%と高い。「ない」と答えた割合は、50 歳代で 52.5%と過半数を占めている。女性では、「男性に有利」と答えた割合は、30 歳代で 36.1%と高い。

前回調査と比較してみると、大きな違いはみられない。



【経年・年代比較（問 21-2 人事配置）】

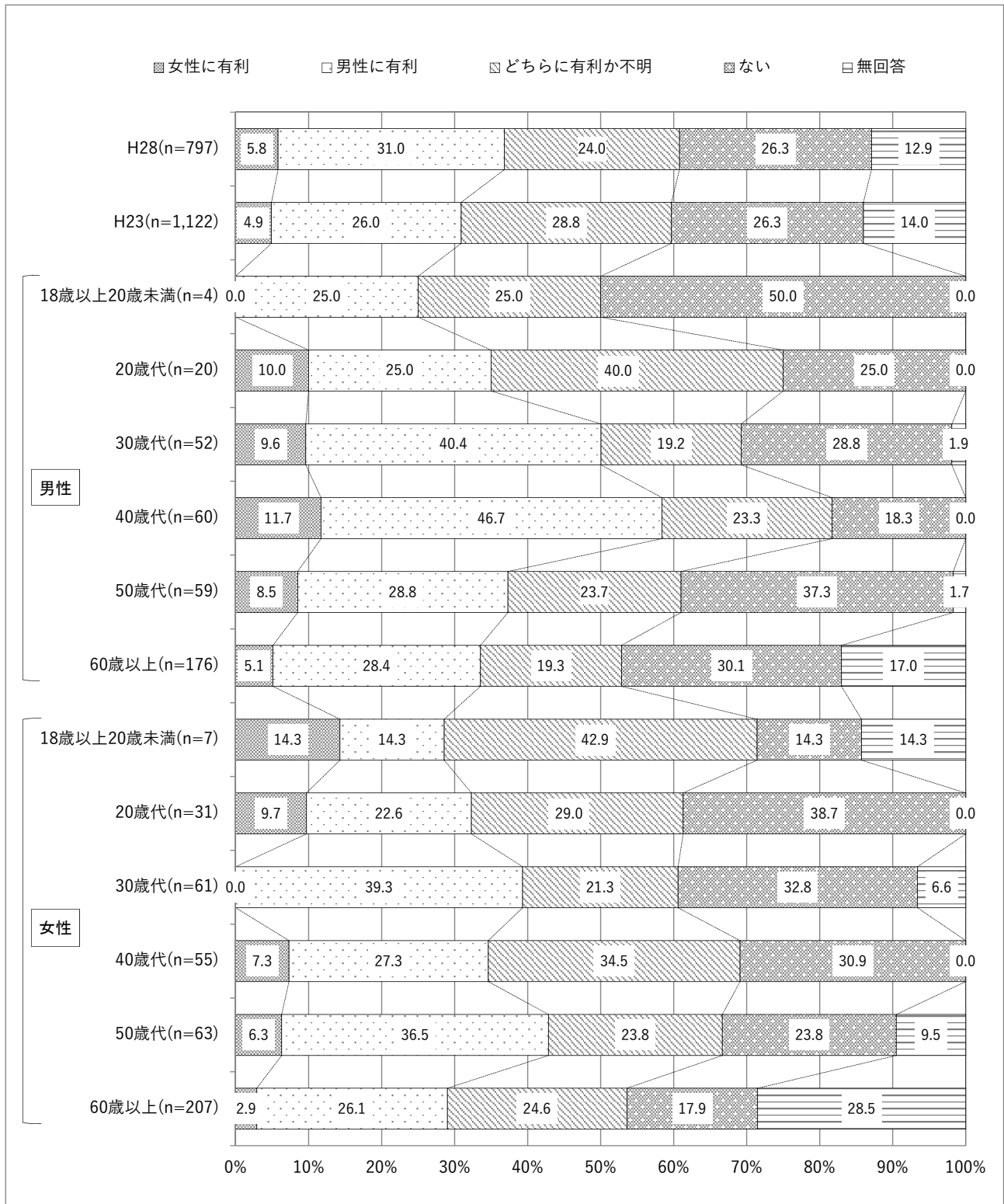
「人事配置」において、男性では「男性に有利」と答えた割合は、18歳以上20歳未満と40歳代で50.0%と半数を占めている。女性では、20～60歳代の4割前後が「男性に有利」と答えている。前回調査と比較してみると、「男性に有利」と答えた割合が3.7ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 21-3 仕事の内容）】

「仕事の内容」において、男性では「男性に有利」と答えた割合は、40歳代で46.7%と半数近い。女性では、30～60歳代の3～4割が「男性に有利」と答えている。

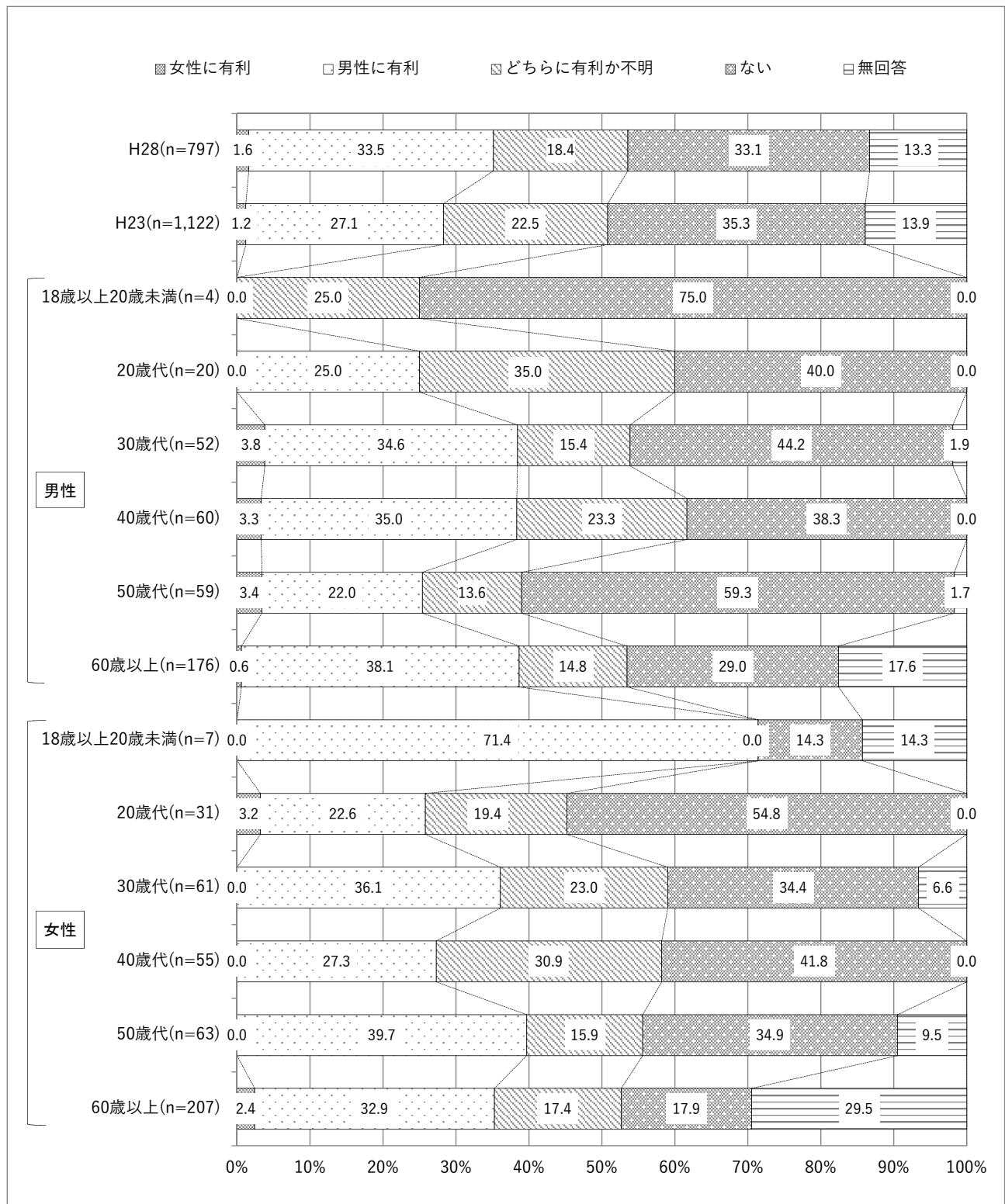
前回調査と比較してみると、「男性に有利」と答えた割合が5.0ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 21-4 出張や研修の機会）】

「出張や研修の機会」において、男性では「ない」と答えた人の割合が 50 歳代で 59.3%と高く、女性では 20 歳代で 54.8%と高い。

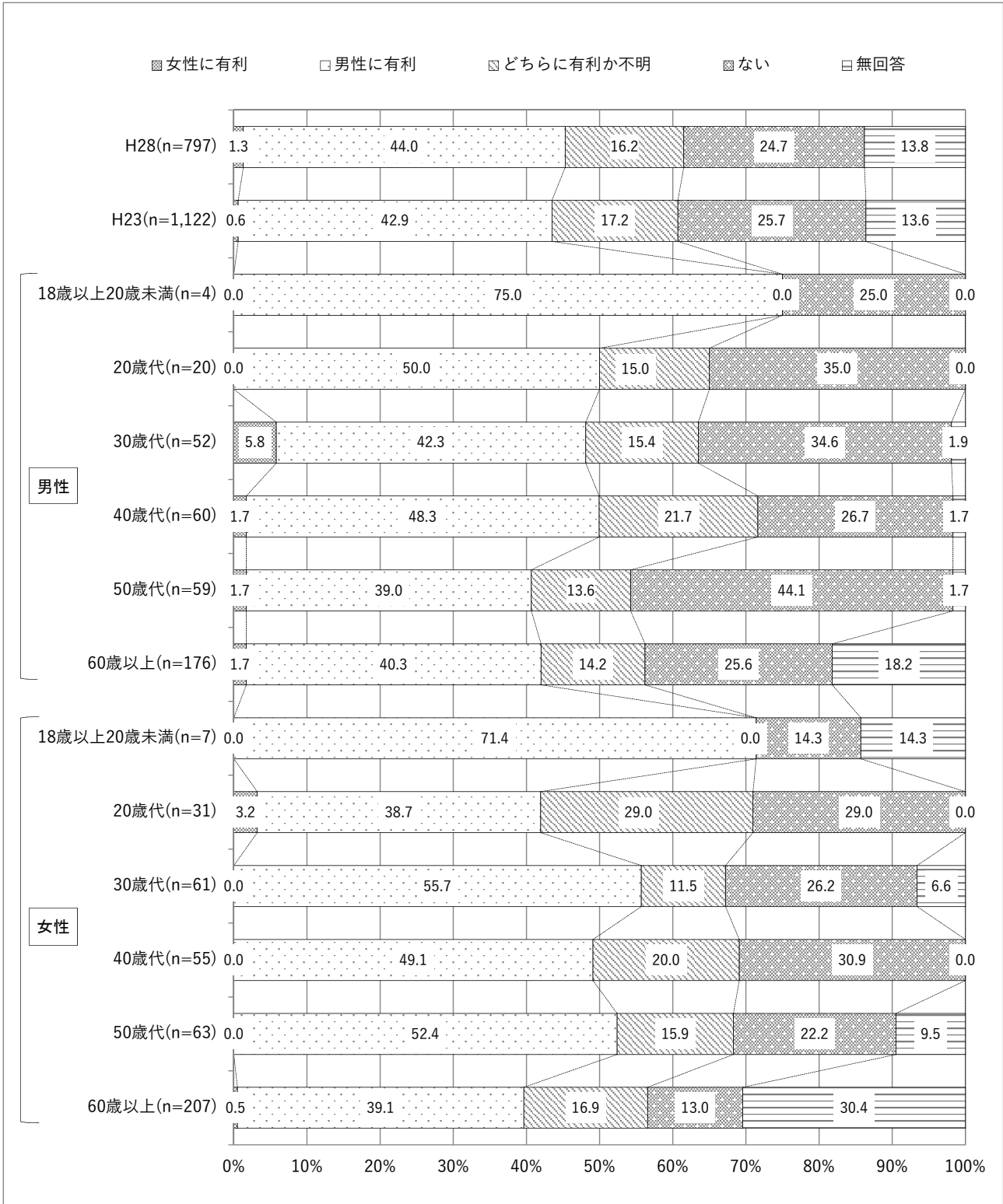
前回調査と比較してみると、「男性に有利」と答えた割合が 6.4 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 21-5 昇進や昇給）】

「昇進や昇給」において、男性では20歳代以上で「男性に有利」と答えた人の割合が4～5割である。「ない」と答えた人の割合は50歳代で44.1%と高い。女性も同様に20歳代以上で「男性に有利」と答えた人の割合が4～5割である。

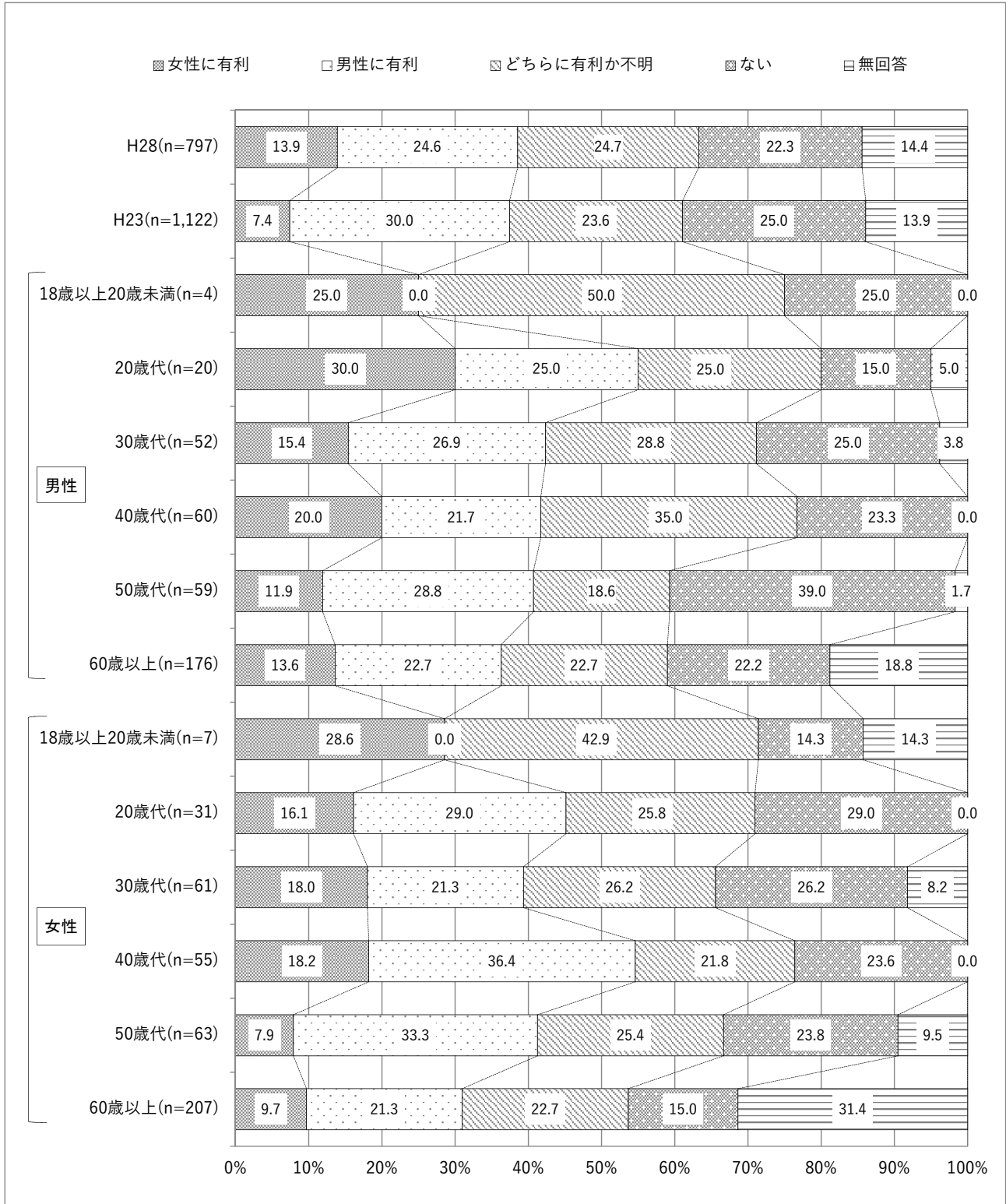
前回調査と比較してみると、大きな違いはみられない。



【経年・年代比較（問 21-6 本来の仕事以外の雑務）】

「本来の仕事以外の雑務」において、男性では 20 歳代で「女性に有利」が「男性に有利」を上回り、40 歳代で拮抗している。女性では 20 歳代以上で「男性に有利」が 2～3 割となっている。

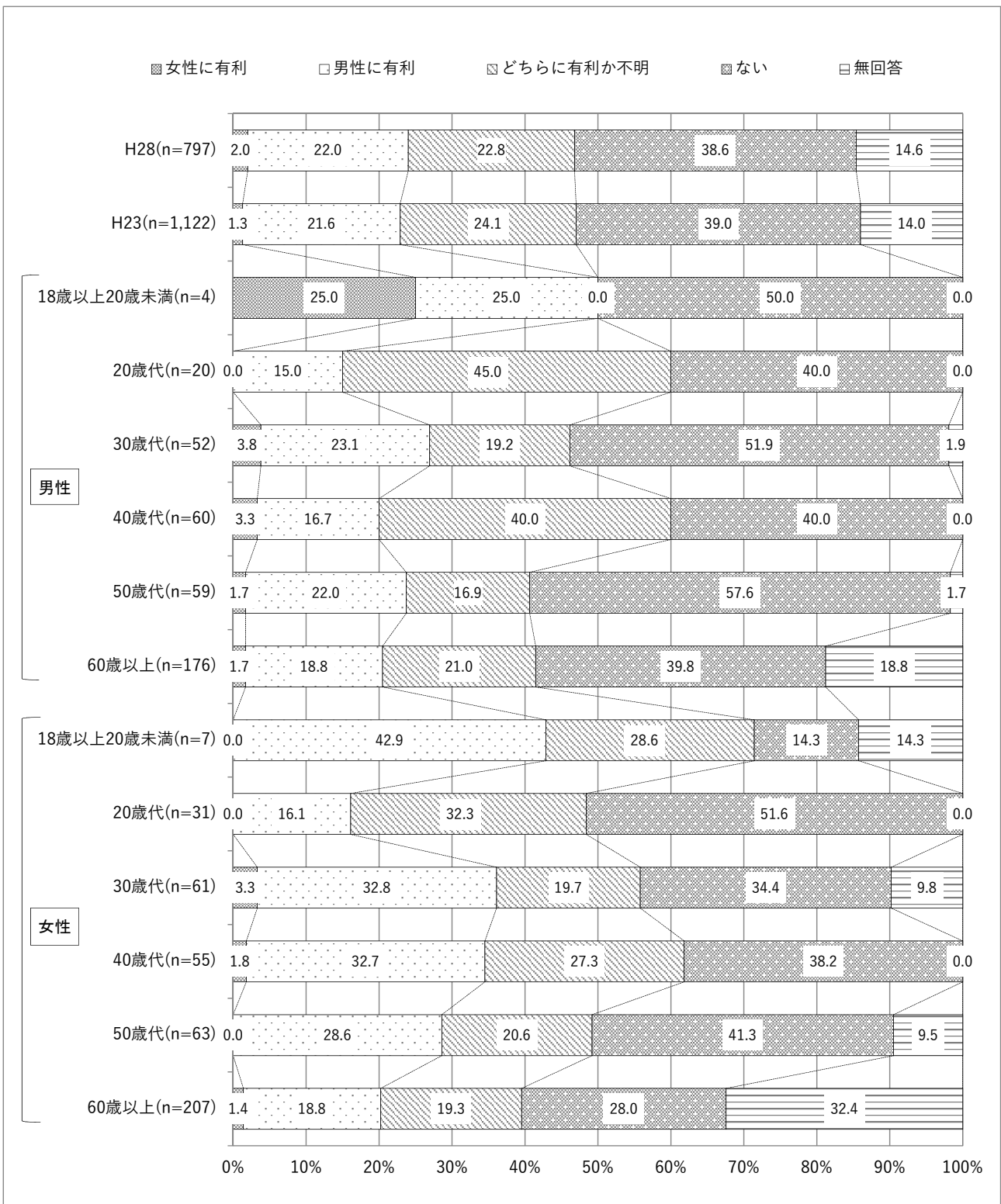
前回調査と比較してみると、「女性に有利」と答えた割合が 6.5 ポイント増加、「男性に有利」が 5.4 ポイント減少している。



【経年・年代比較（問 21-7 定年・退職・解雇）】

「定年・退職・解雇」において、男性ではどの年代でも「ない」と答えた割合が4～5割を占めている。女性では、20～50歳代の4～5割が「ない」と答えている。

前回調査と比較してみると、大きな違いはみられない。



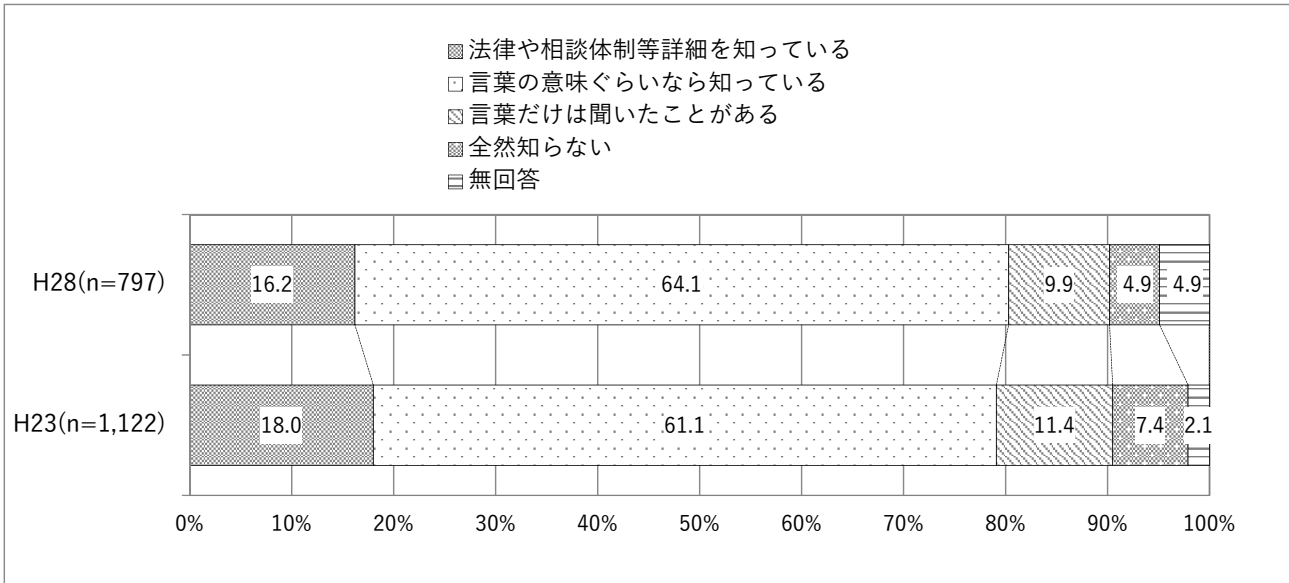
8 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問22 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）に関してどのくらい知っていますか。

【経年比較】

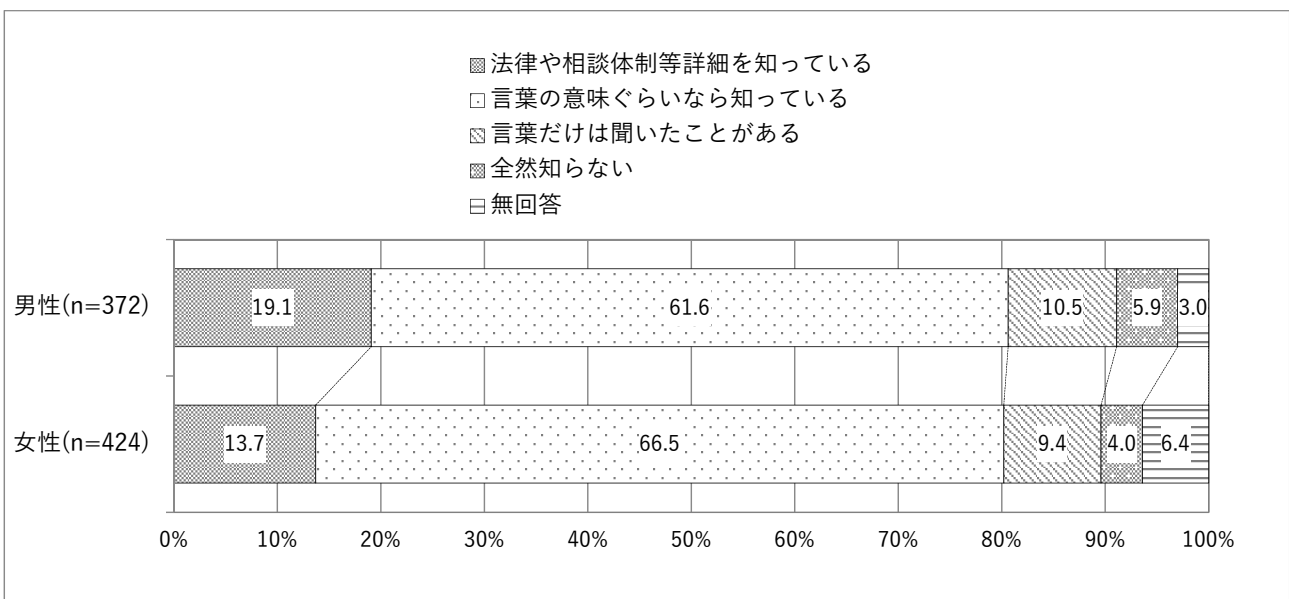
全体では、「言葉の意味ぐらいなら知っている」が64.1%と最も高く、次に「法律や相談体制等詳細を知っている」16.2%となっており、約8割がDVについて知っていると言える。

前回調査と比較してみると、「言葉の意味ぐらいなら知っている」と答えた割合が若干増加しているが、「法律や相談体制等詳細を知っている」は若干減少している。



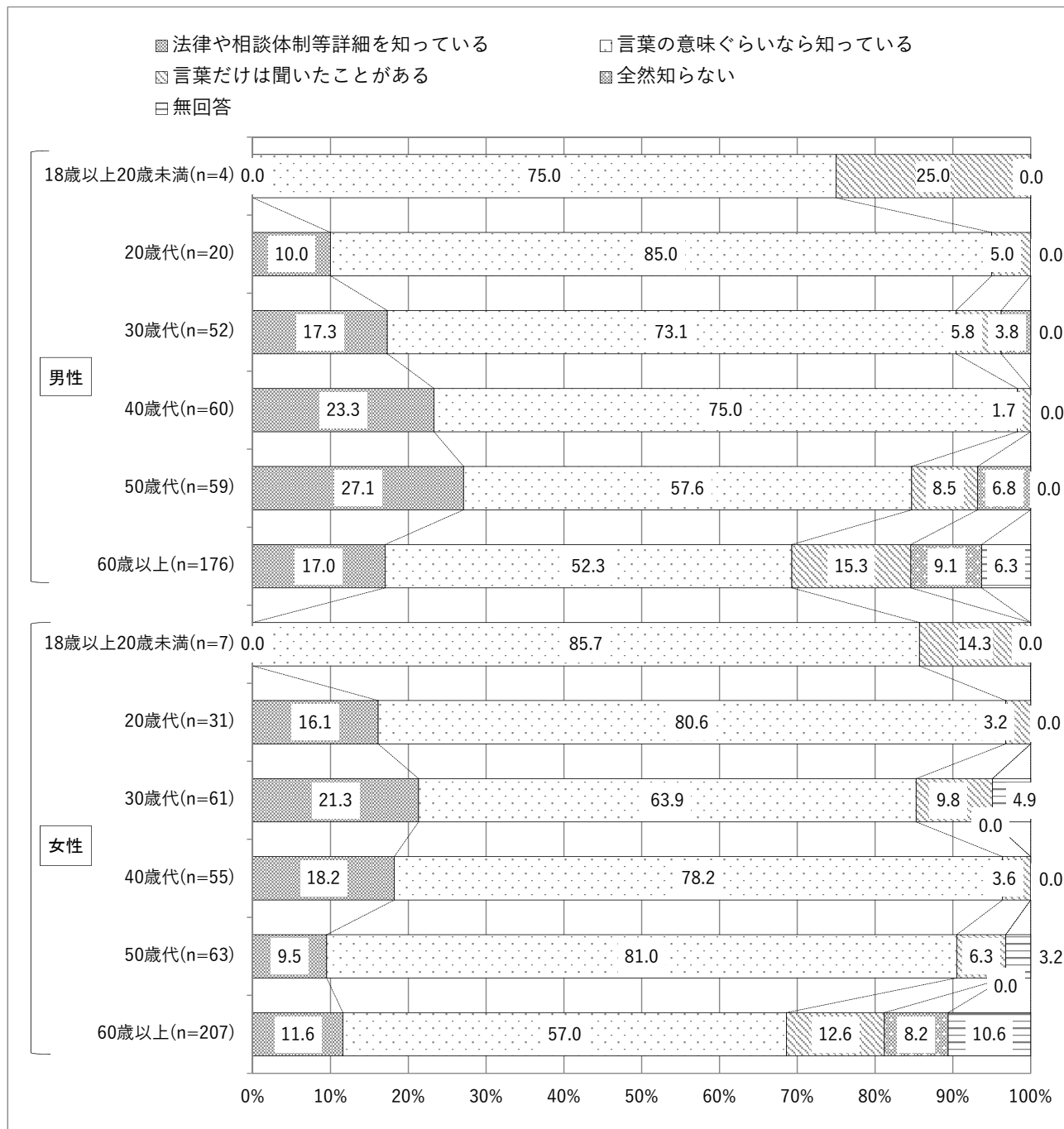
【男女比較】

性別でみると、「法律や相談体制等詳細を知っている」と答えた割合は男性の方が高い。



【年代比較】

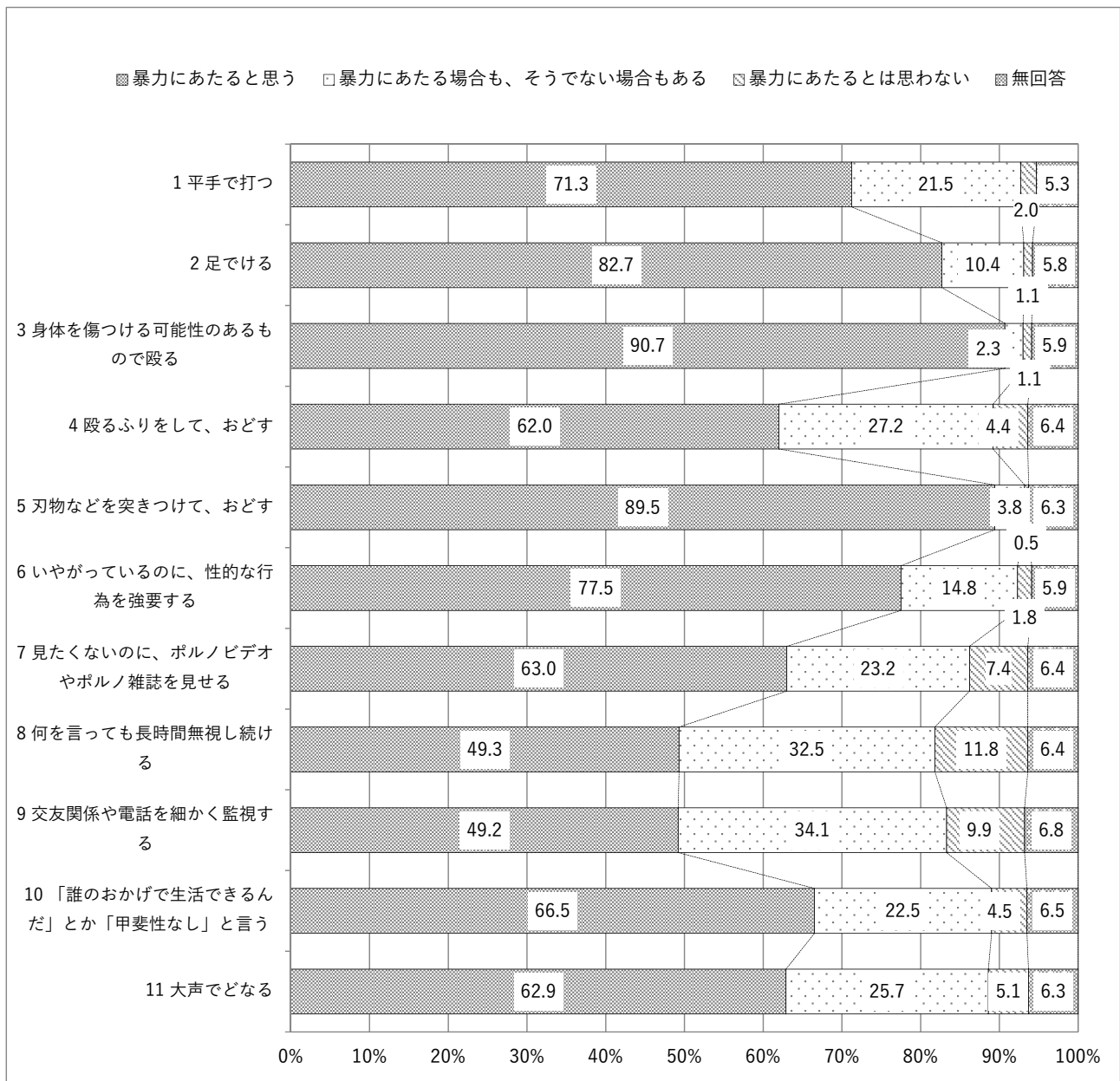
「法律や相談体制等詳細を知っている」と答えた割合が高いのは、男性では50歳代27.1%、40歳代23.3%、女性では30歳代21.3%、40歳代18.2%となっている。男女ともに、「全然知らない」と答えた割合は60歳以上で高く、男性9.1%、女性8.2%である。



問23 あなたは、次のようなことが夫婦間等で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

- 1 平手で打つ
- 2 足でける
- 3 身体を傷つける可能性のあるもので殴る
- 4 殴るふりをして、おどす
- 5 刃物などを突きつけて、おどす
- 6 いやがっているのに、性的な行為を強要する
- 7 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる
- 8 何を言っても長時間無視し続ける
- 9 交友関係や電話を細かく監視する
- 10 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う
- 11 大声でどなる

【全体 (n=797)】

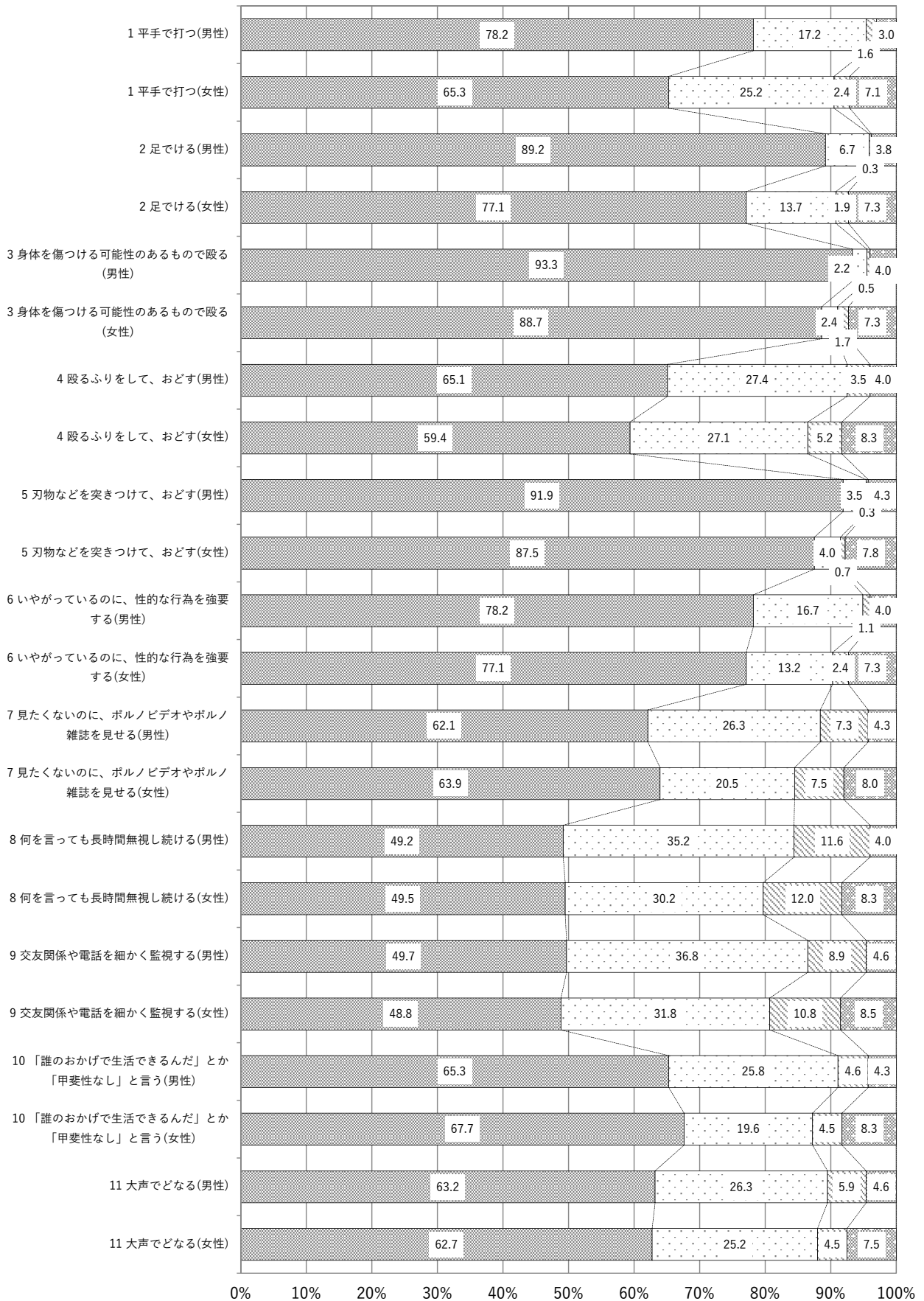


【男女比較（男性 n=372、女性 n=424）】

男女ともに「暴力にあたる」と答えた人の割合が最も高いのは「3 身体を傷つける可能性のあるもので殴る」で男性 93.3%、女性 88.7%である。次に「5 刃物などを突きつけて、おどす」が高く、男性 91.9%、女性 87.5%、「2 足でける」は男性 89.2%、女性 77.1%である。「暴力にあたると思う」と答えた人の割合で男女の差が大きいのは、「1 平手で打つ」「2 足でける」で、女性より男性の方が割合が高い。

男女ともに、「暴力にあたる」と答えた人の割合が低いのは、「8 何を言っても長時間無視し続ける」で、男性 49.2%、女性 49.5%、「9 交友関係や電話を細かく監視する」で男性 49.7%、女性 48.8%となっている。

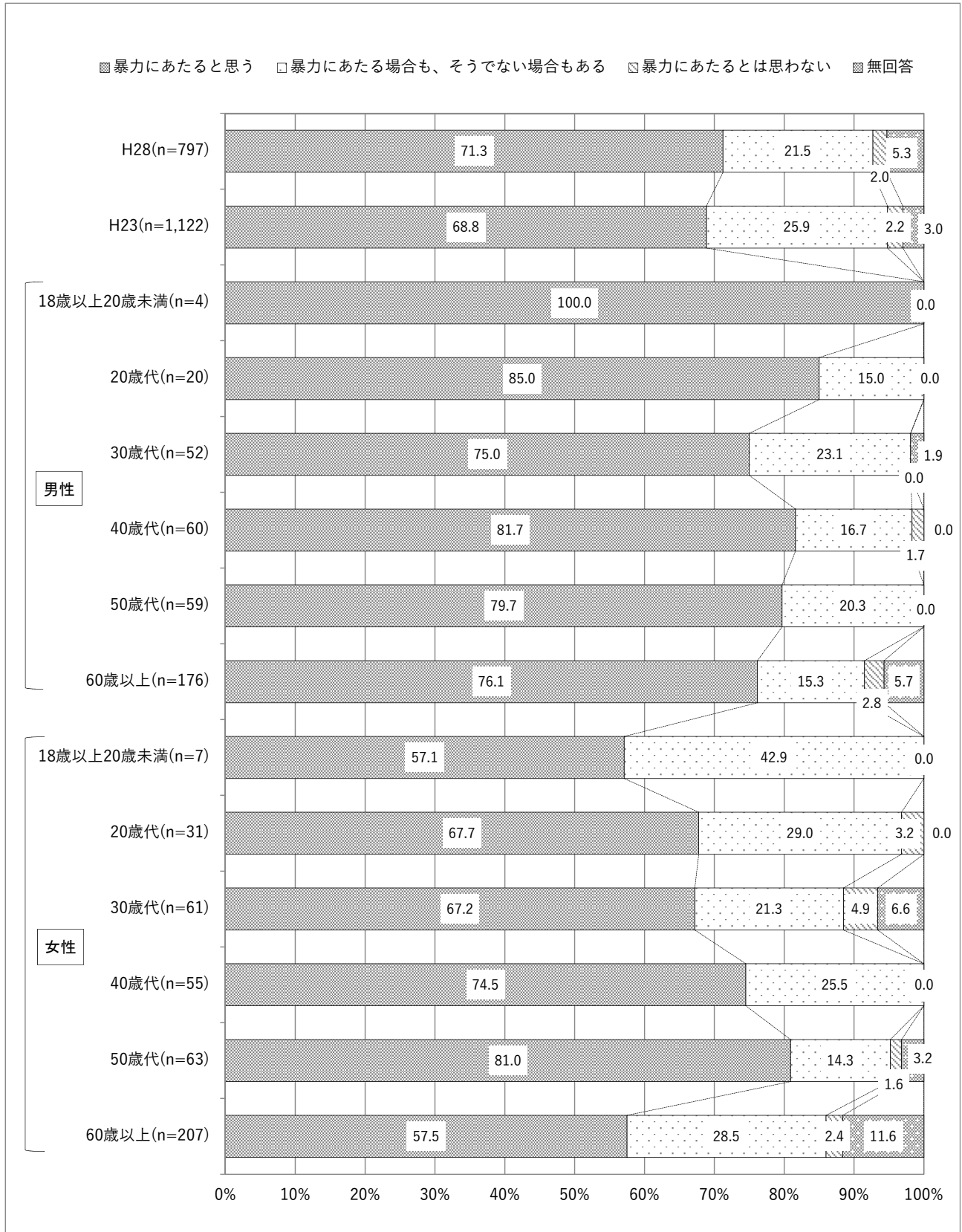
暴力にあたると思う
 暴力にあたる場合も、そうでない場合もある
 暴力にあたるとは思わない
 無回答



【経年・年代比較（問 23-1 平手で打つ）】

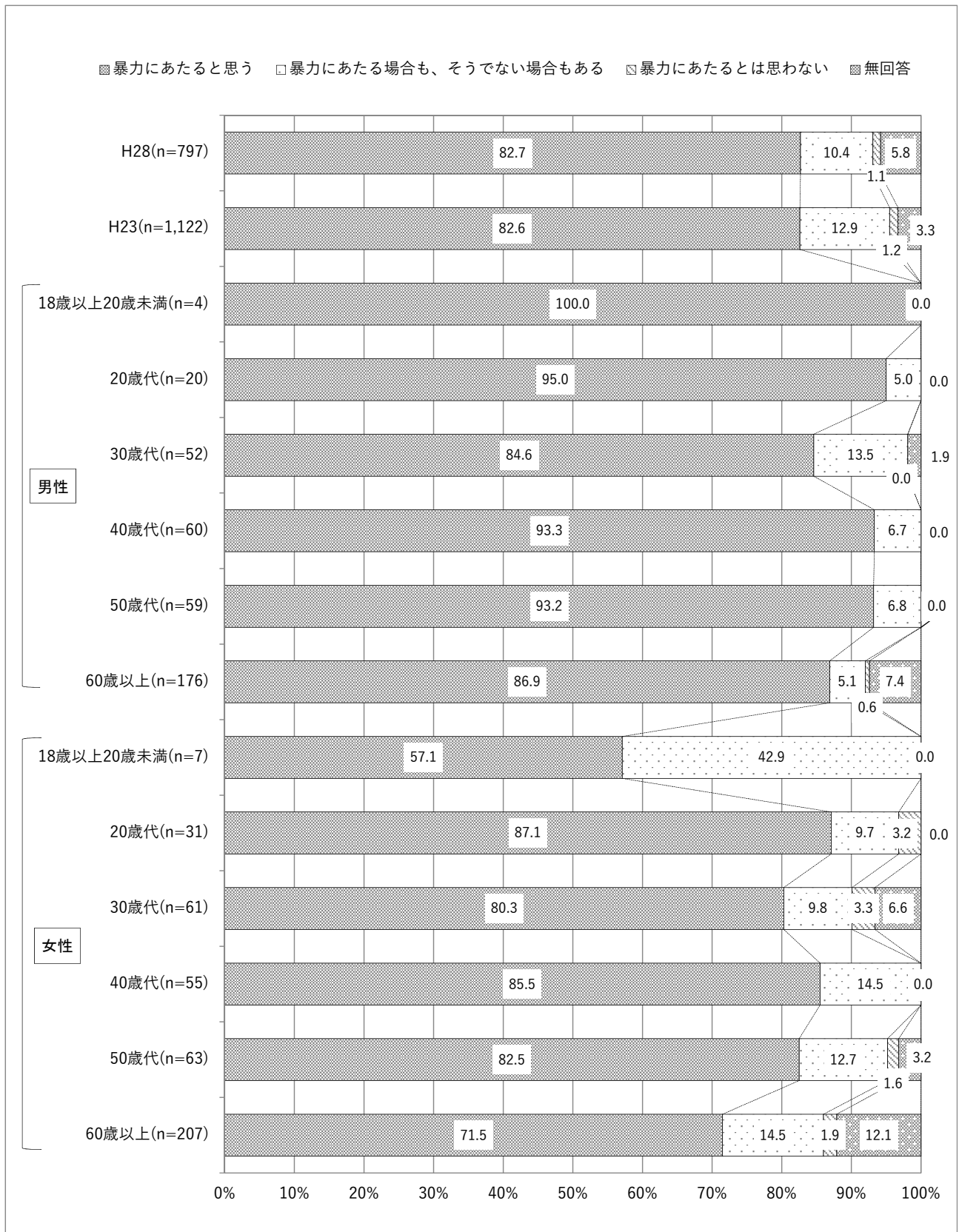
「平手で打つ」において、男性では、どの年代においても「暴力にあたる」と答えている割合が約 8 割と高い。女性では、20 歳代～50 歳代で 7～8 割と高いが、18 歳以上 20 歳未満で 57.1%、60 歳以上が 57.5%と低い。

前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合は 2.5 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-2 足でける）】

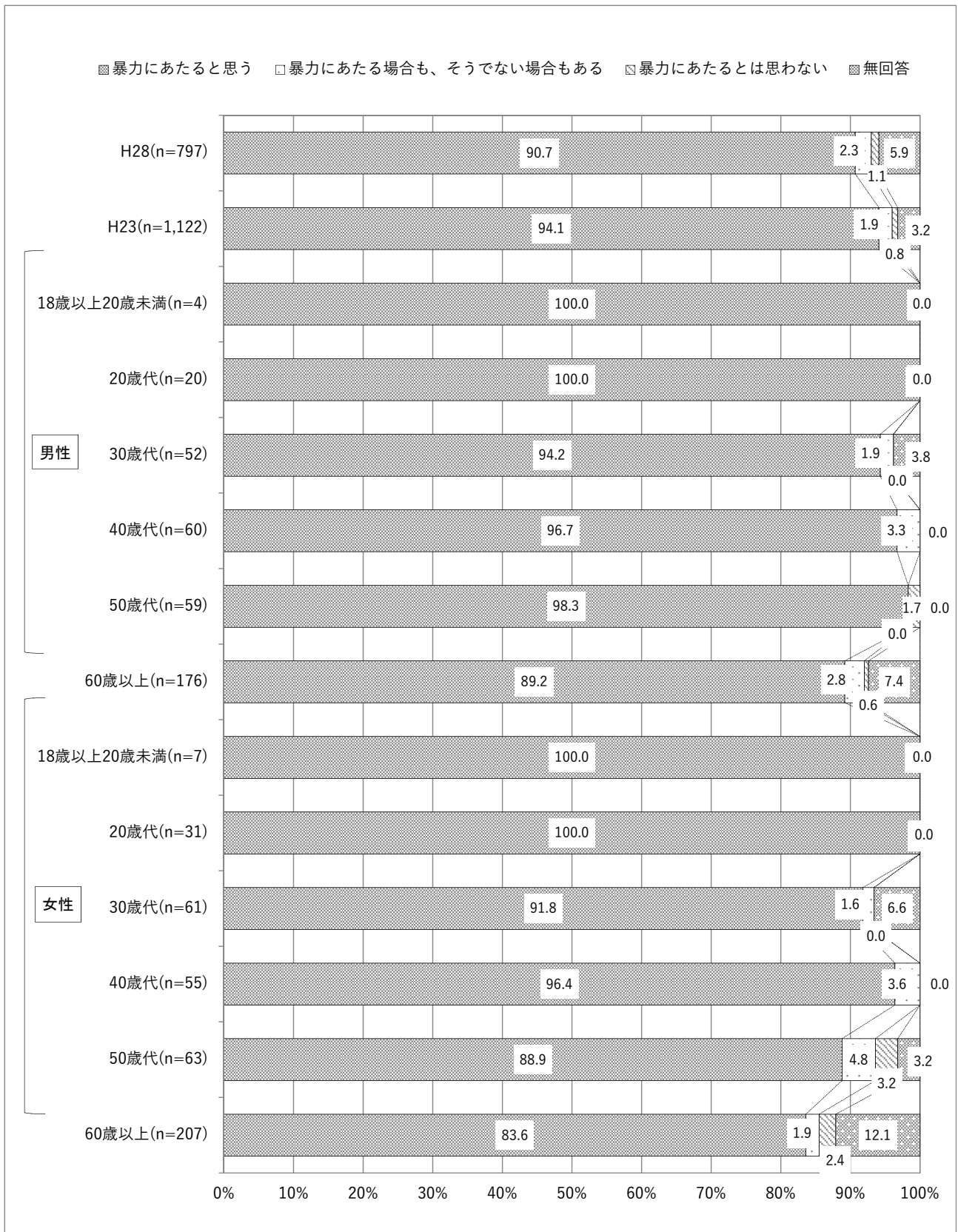
「足でける」において、男性では、どの年代においても「暴力にあたる」と答えている割合が概ね9割以上と高い。女性では、20歳代～50歳代で8割以上と高いが、18歳以上20歳未満で57.1%と低い。前回調査と比較してみると、大きな違いは見られない。



【経年・年代比較（問 23-3 身体を傷つける可能性のあるもので殴る）】

「身体を傷つける可能性のあるもので殴る」において、男性女性ともに 9 割以上が「暴力にあたる」と答えている。

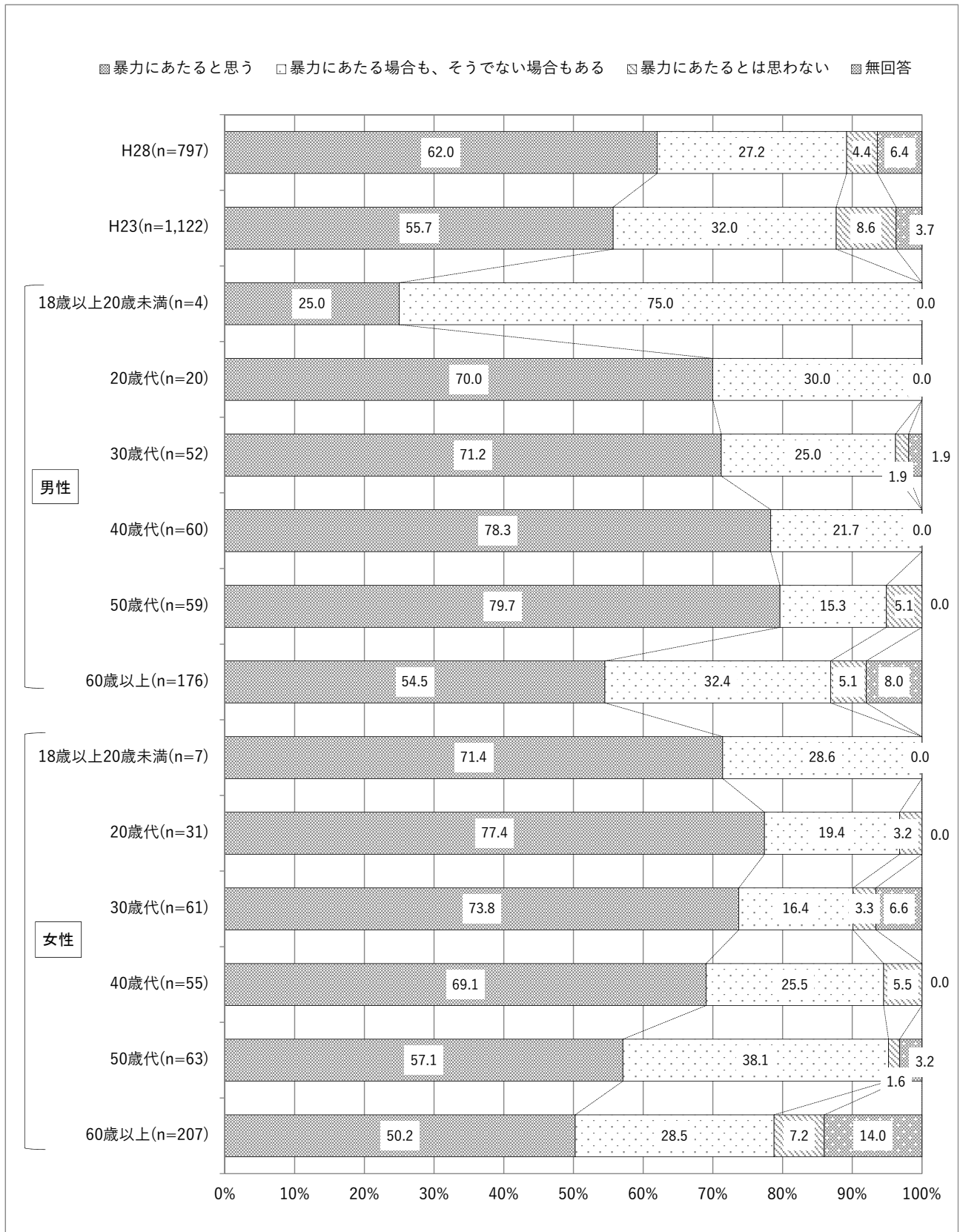
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合は少し減少している。



【経年・年代比較（問 23-4 殴るふりをして、おどす）】

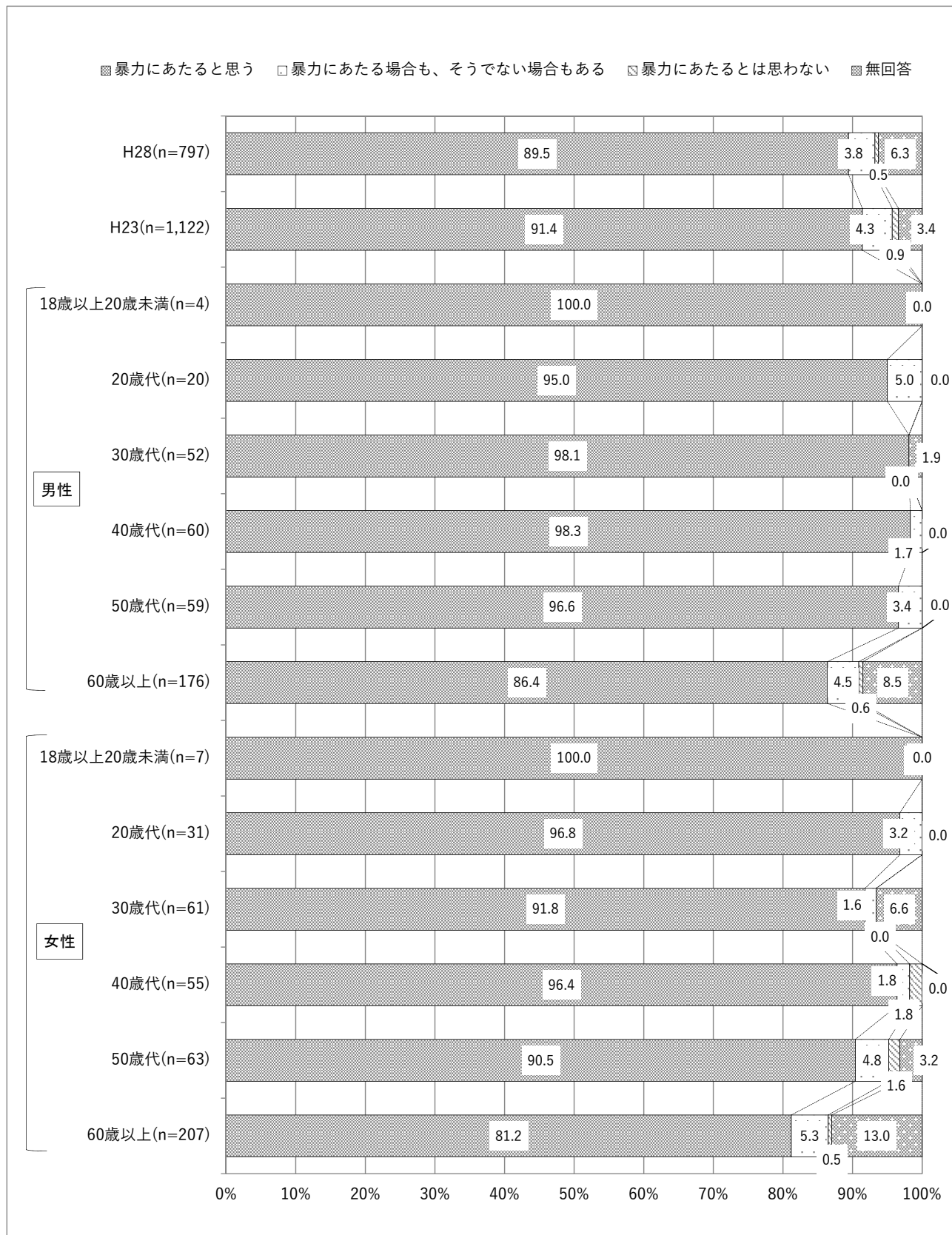
「殴るふりをして、おどす」において、男性では、「暴力にあたる」と答えている割合が 20 歳代～50 歳代で 7～8 割となっているが、60 歳以上で 54.5%と低い。女性では、年代が上がるにつれて割合が低下し、60 歳以上で 50.2%と低い。

前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 6.3 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-5 刃物などを突きつけて、おどす）】

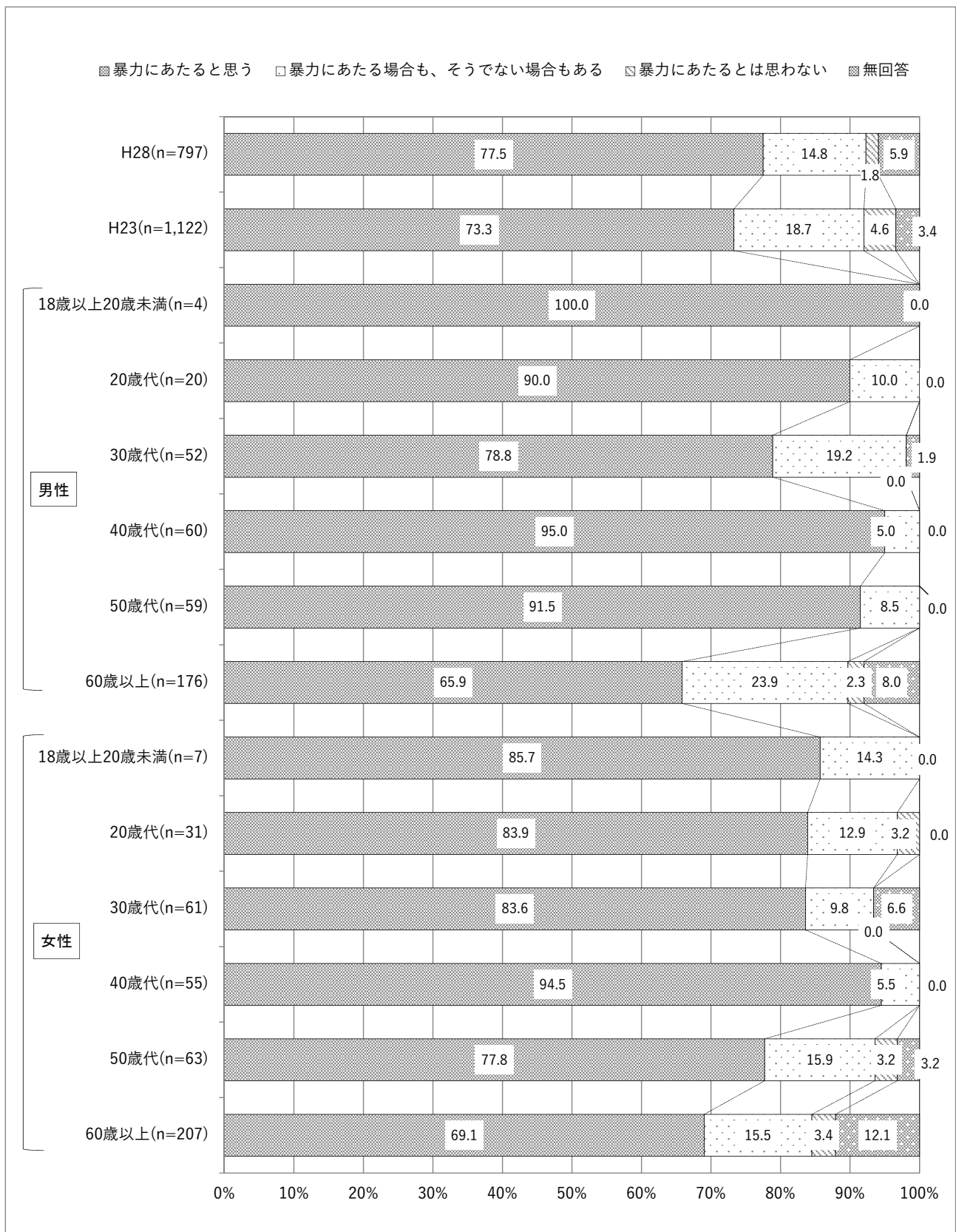
「刃物などを突きつけて、おどす」において、男女ともに9割以上が「暴力にあたる」と回答しているが、60歳以上では男性86.4%、女性81.2%と低い。



【経年・年代比較（問 23-6 いやがっているのに、性的な行為を強要する）】

「いやがっているのに、性的な行為を強要する」において、男女ともに、ほとんどの年代において「暴力にあたる」と答えている割合が高いが、60歳以上で男性65.9%、女性69.1%と低い。

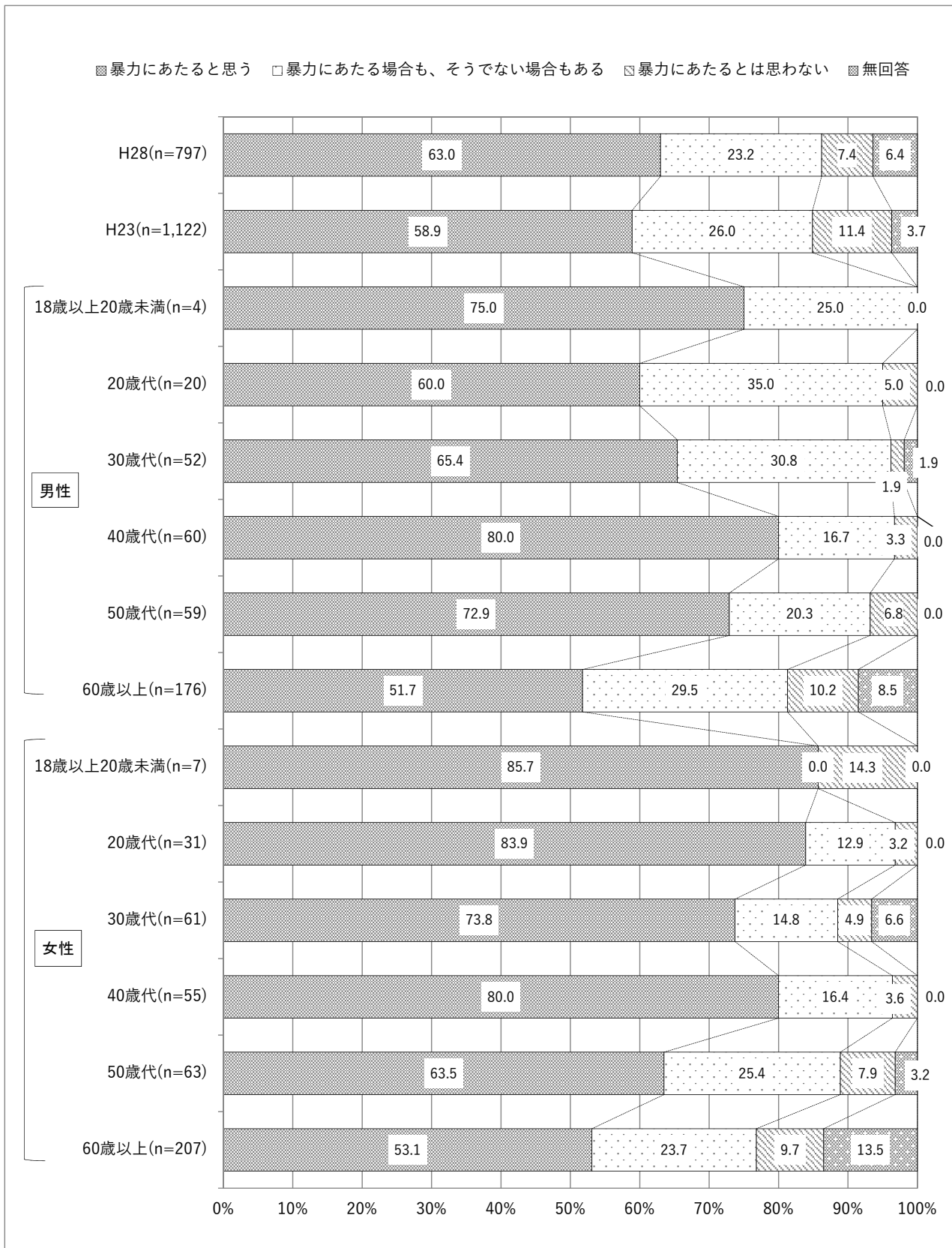
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が4.2ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-7 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる）】

「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」において、男女ともに 60 歳以上で「暴力にあたる」と答えた人の割合が低く、男性 51.7%、女性 53.1%である。

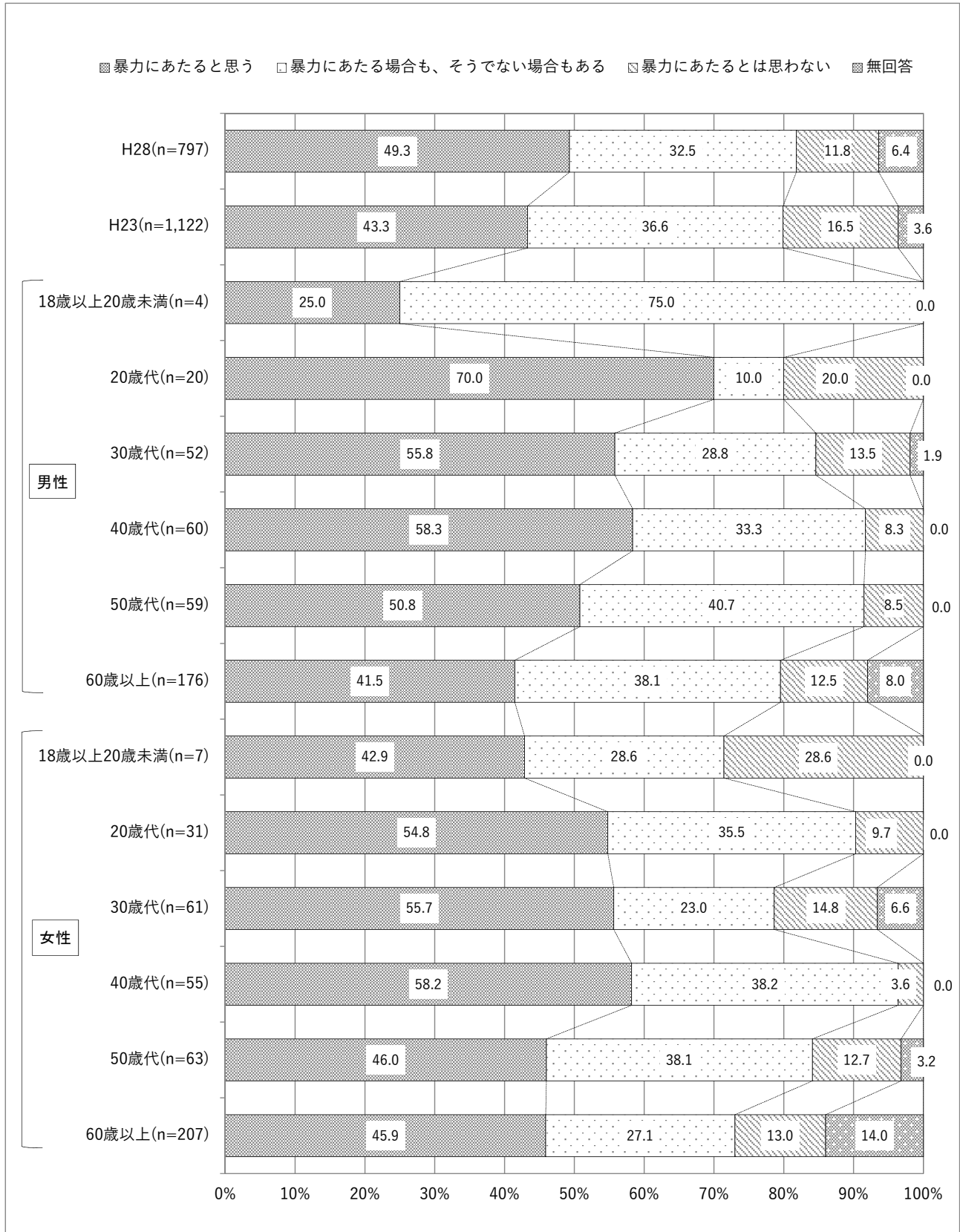
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 4.1 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-8 何を言っても長時間無視し続ける）】

「何を言っても長時間無視し続ける」において、男性では、「暴力にあたるとは思わない」と答えた人の割合が20歳代で20.0%と高い。女性では、「暴力にあたるとは思わない」と答えた人の割合が18歳以上20歳未満で28.6%と高い。

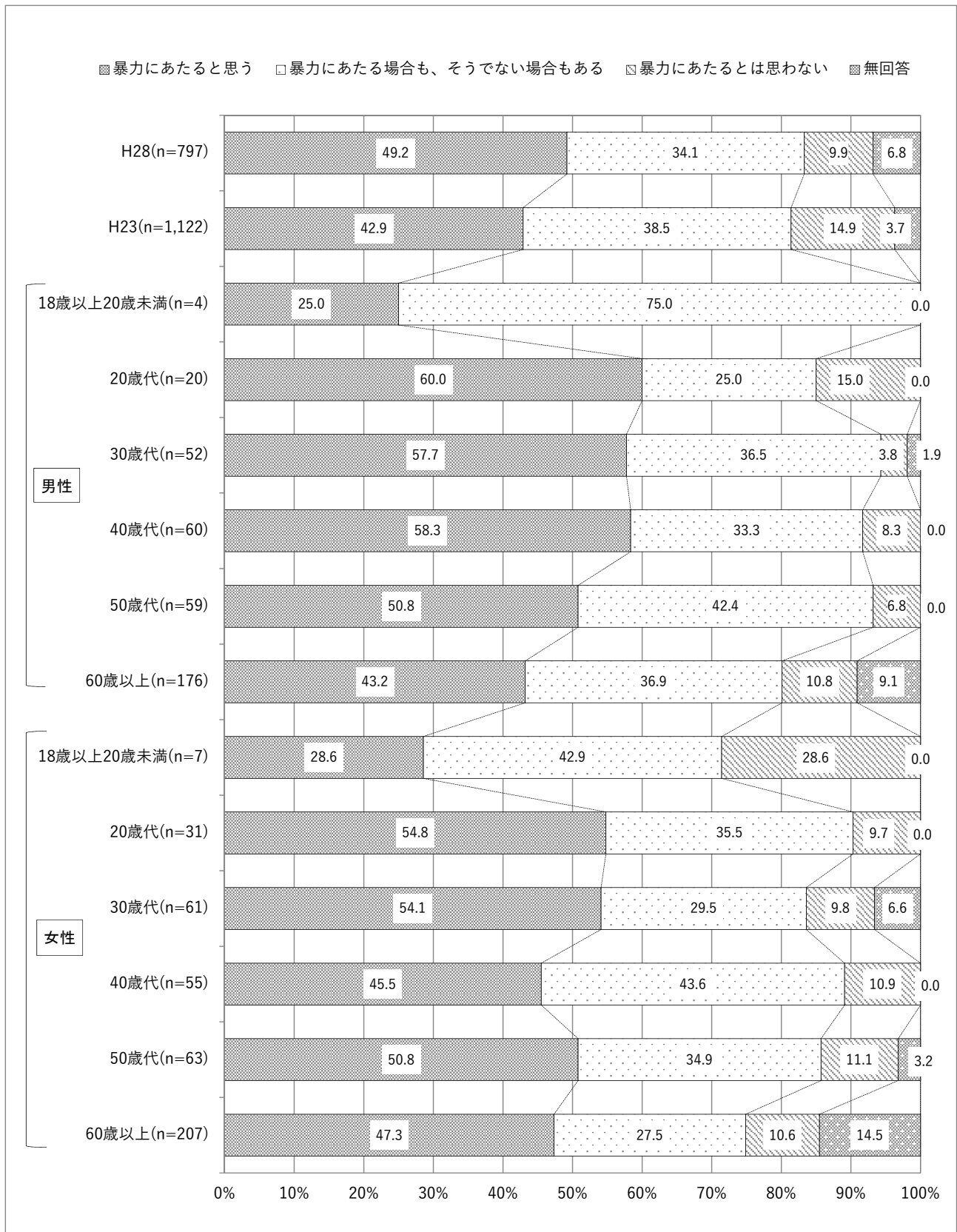
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が6.0ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-9 交友関係や電話を細かく監視する）】

「交友関係や電話を細かく監視する」において、「暴力にあたる」と答えている割合が、18歳以上20歳未満で、男性 25.0%、女性 28.6%と、他の年代に比べて低い。

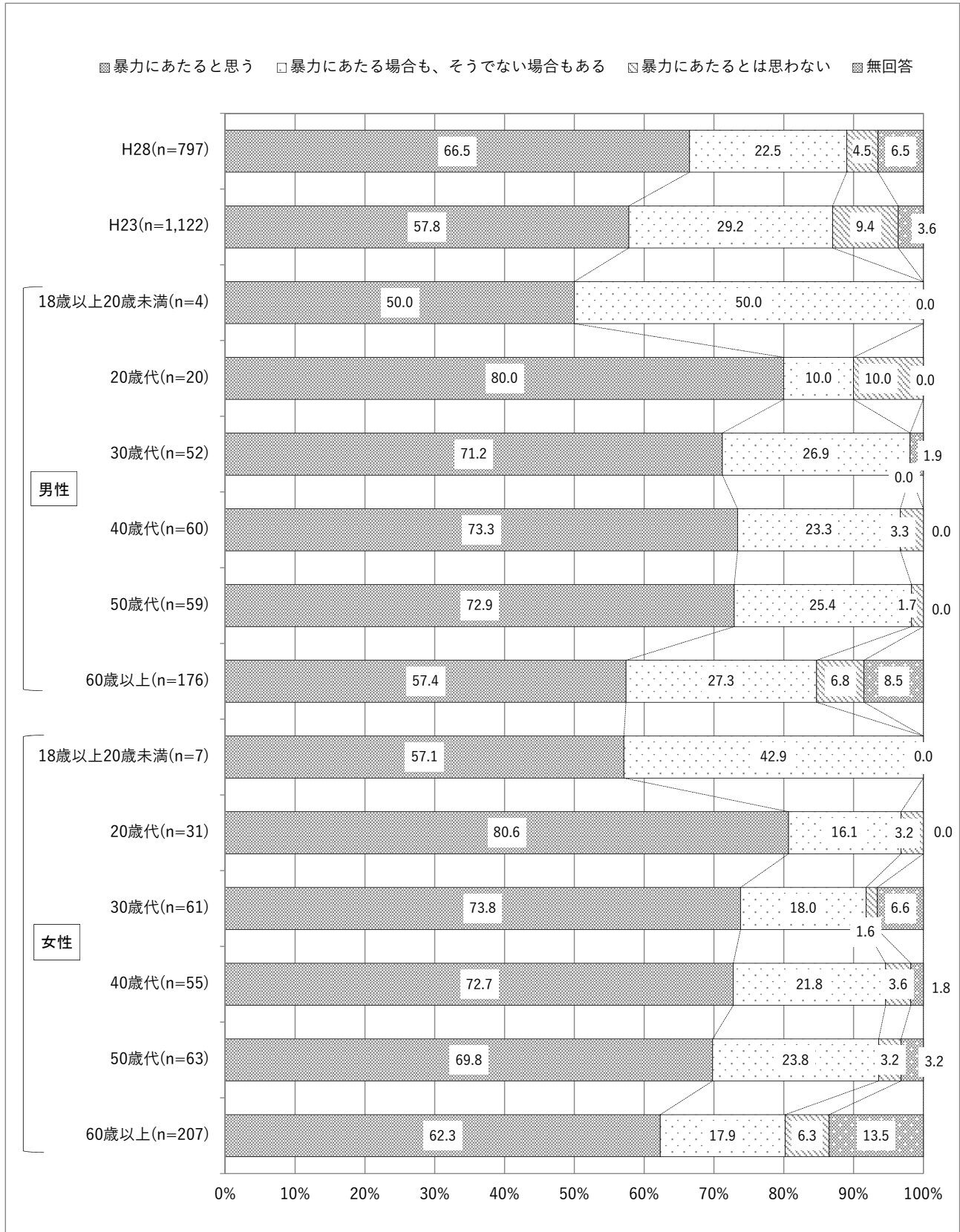
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が 6.3 ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-10 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う）】

「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う」において、男女とも、20歳代以上では年代が上がるにつれて、「暴力にあたる」と答えている割合が概ね低下し、60歳以上で、男性57.4%、女性62.3%となっている。

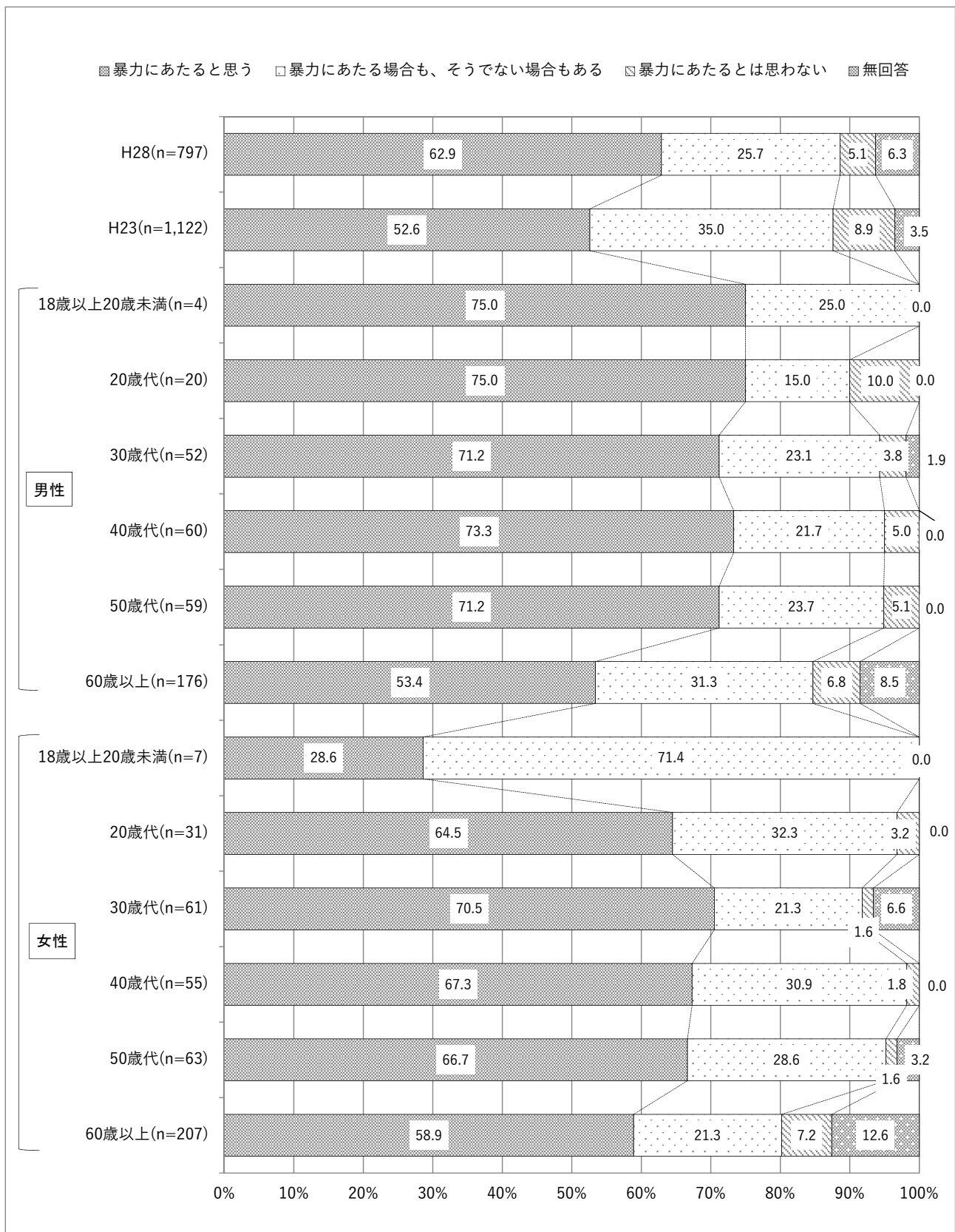
前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が8.7ポイント増加している。



【経年・年代比較（問 23-11 大声でどなる）】

「大声でどなる」において、男女ともに、ほとんどの年代において「暴力にあたる」と答えている割合が約7割となっているが、60歳以上で、男性53.4%、女性58.9%と低い。

前回調査と比較してみると、「暴力にあたる」と答えた割合が10.3ポイント増加している。



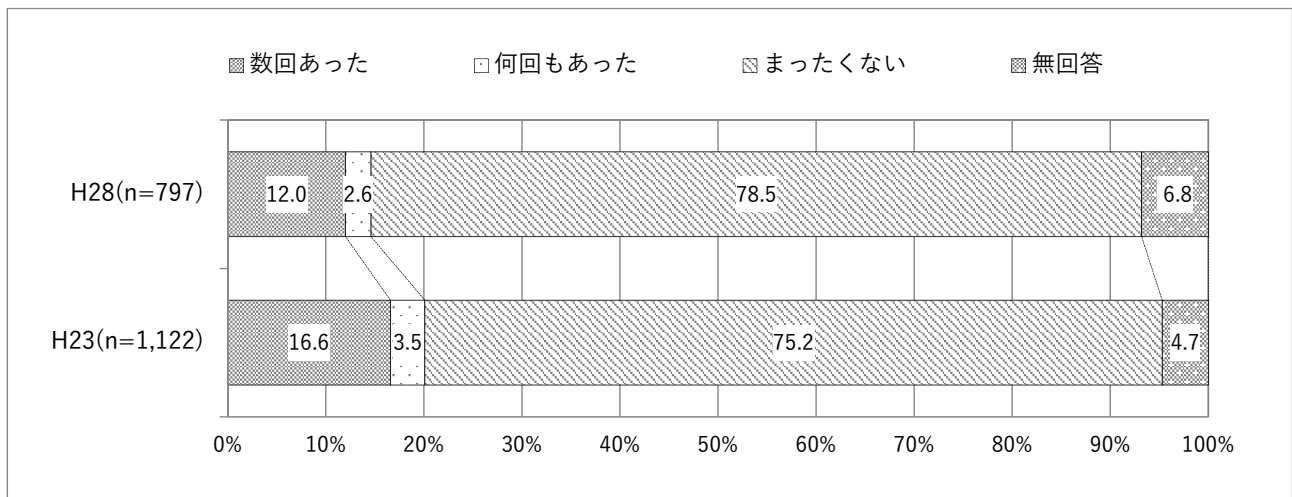
問24 あなたはこれまでに、あなたの配偶者等から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者等」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や恋人も含まれます。

- ① 殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- ② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- ③ いやがっているのに、性的な行為を強要された

【経年比較 ① 殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた】

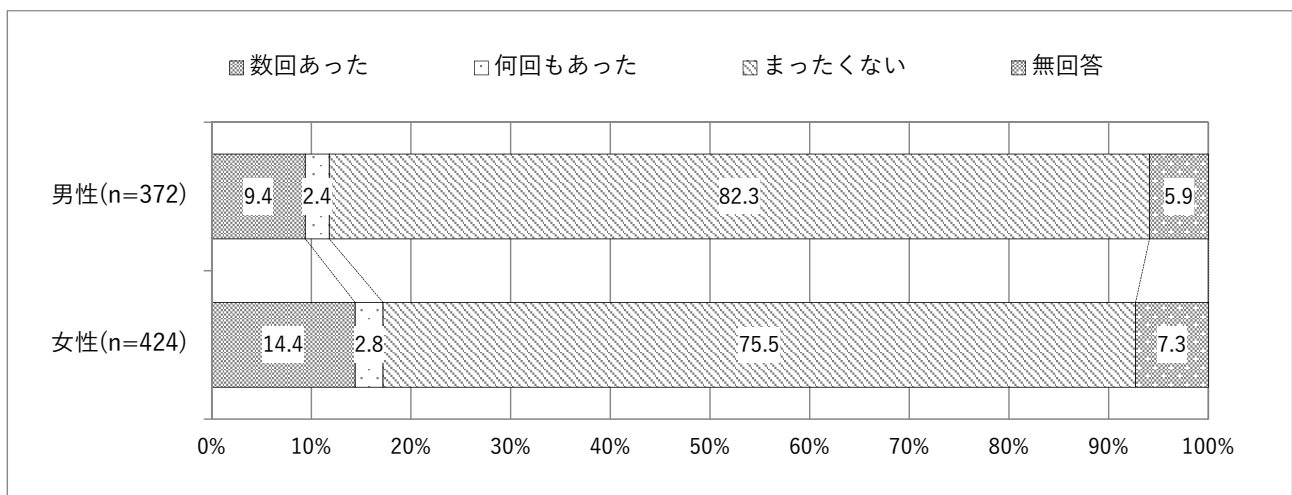
全体では「数回あった」12.0%、「何回もあった」2.6%である。

前回調査と比較してみると、「数回あった」「何回もあった」を合わせた割合は5.5ポイント減少している。



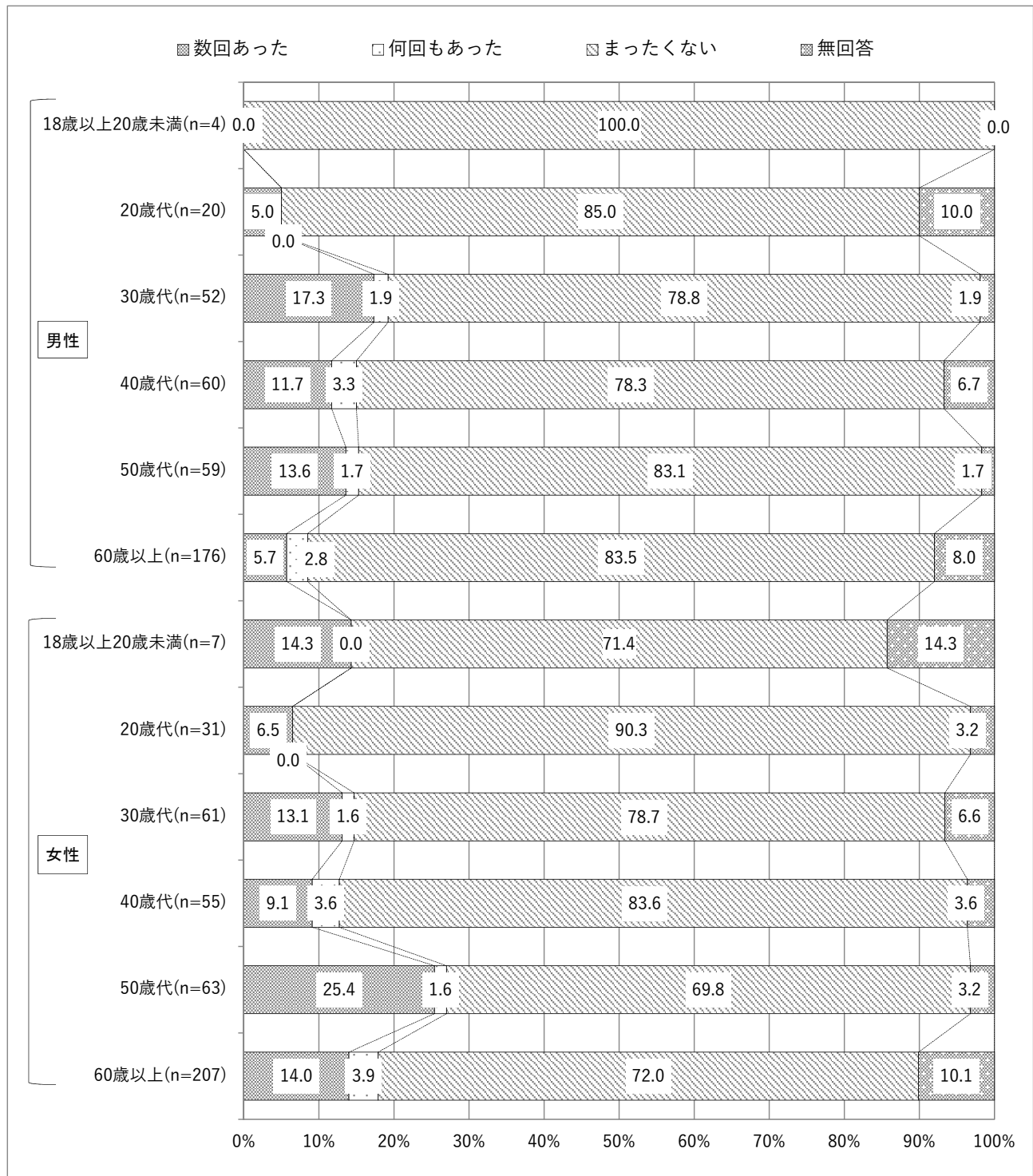
【男女比較 ① 殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた】

性別でみると、「数回あった」「何回もあった」を合わせた割合は男性11.8%、女性17.2%で女性の方が高い。



【年代比較 ① 殴ったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた】

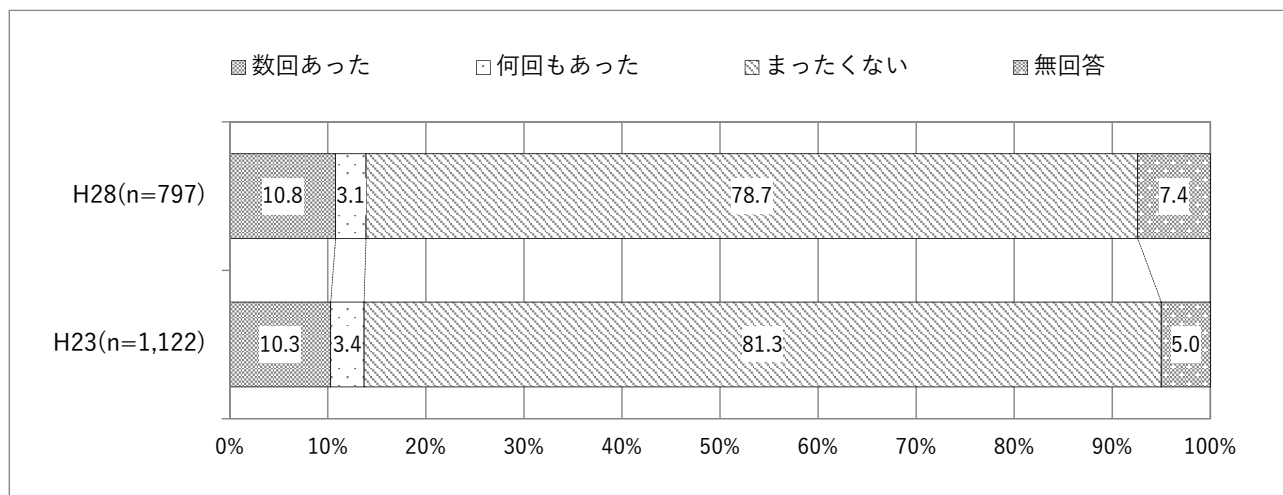
年代別では、男性では「数回あった」「何回もあった」と答えた人は30歳代で19.2%と高い。女性では、50歳代で27.0%、60歳以上で17.9%と高い。



【経年比較 ② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた】

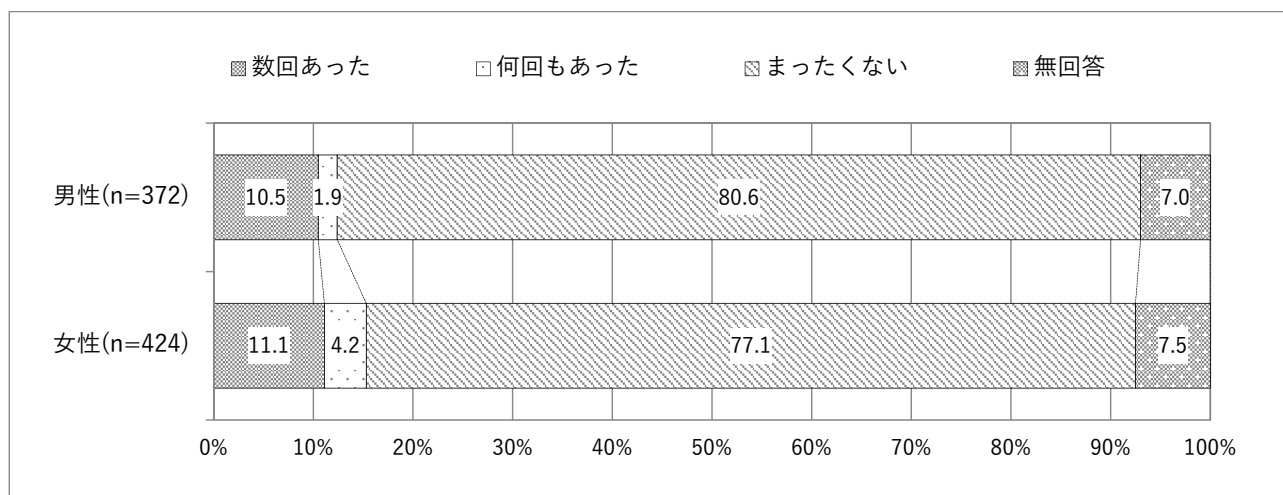
全体では、「数回あった」10.8%、「何回もあった」3.1%である。

前回調査と比較してみると、ほとんど変化はみられない。



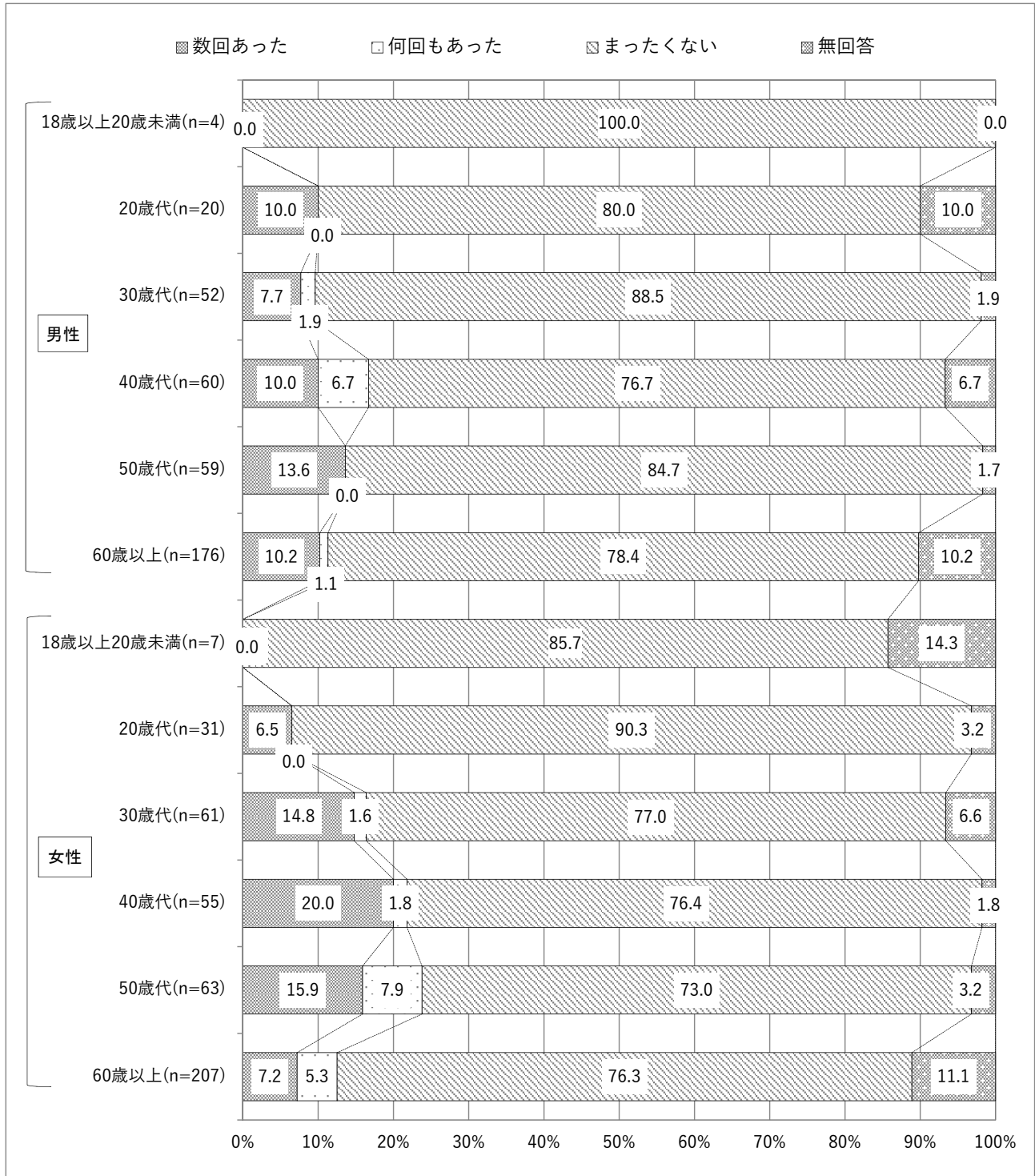
【男女比較 ② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた】

性別でみると、「数回あった」「何回もあった」と答えた人の割合が男性12.4%、女性15.3%と、女性の方が高い。



【年代比較 ② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた】

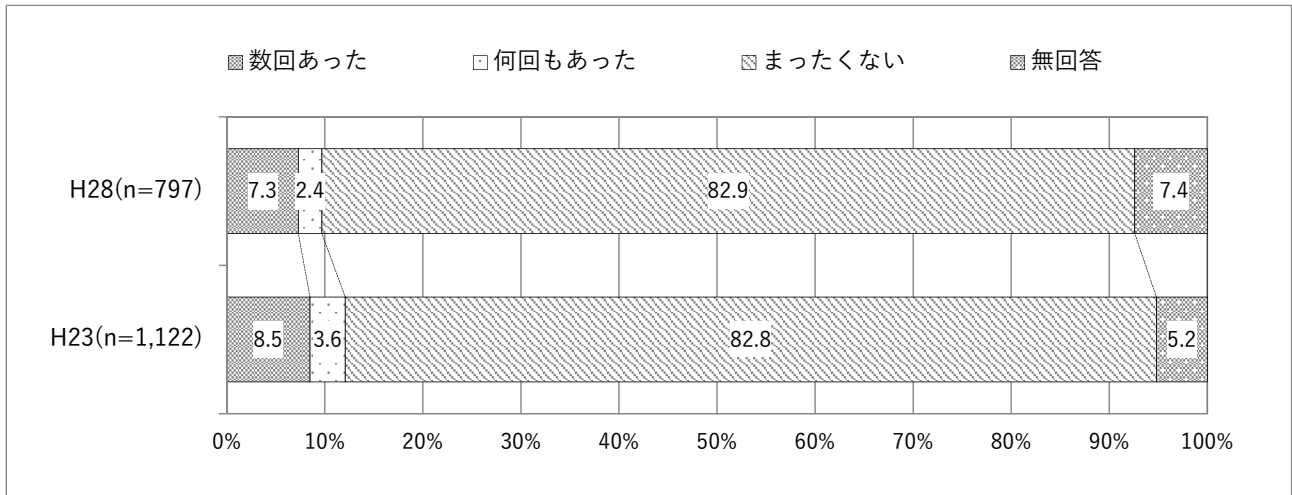
年代別では、男性では、40歳代で「数回あった」「何回もあった」と答えた人の割合が16.7%と高い。女性では、40歳代で21.8%、50歳代で23.8%と高い。



【経年比較 ③ いやがっているのに、性的な行為を強要された】

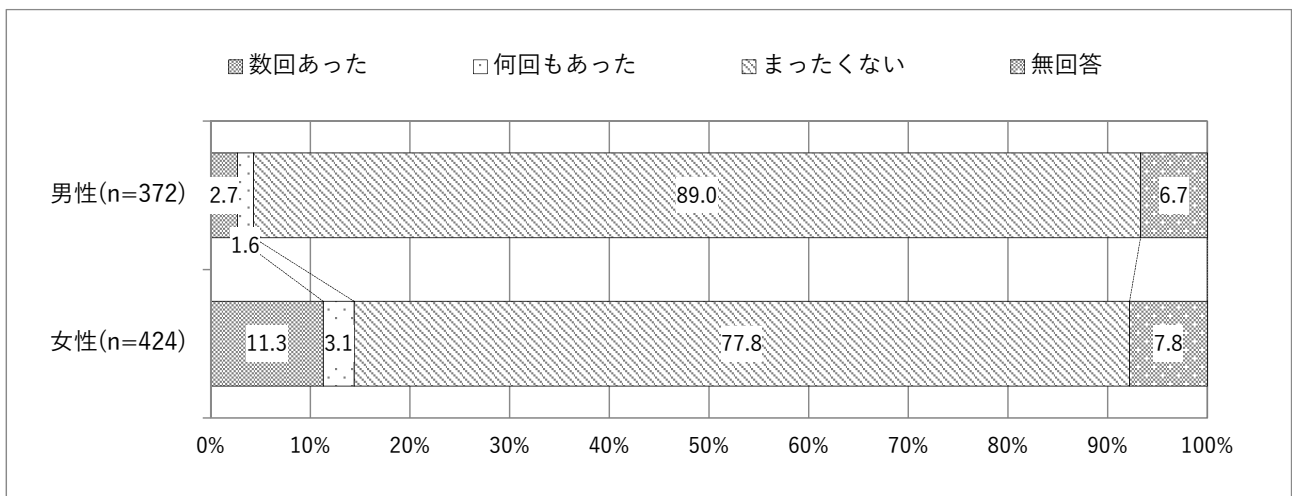
全体では、「数回あった」7.3%、「何回もあった」2.4%である。

前回調査と比較してみると、「数回あった」と答えた人の割合が1.2ポイント、「何回もあった」は1.2ポイント減少している。



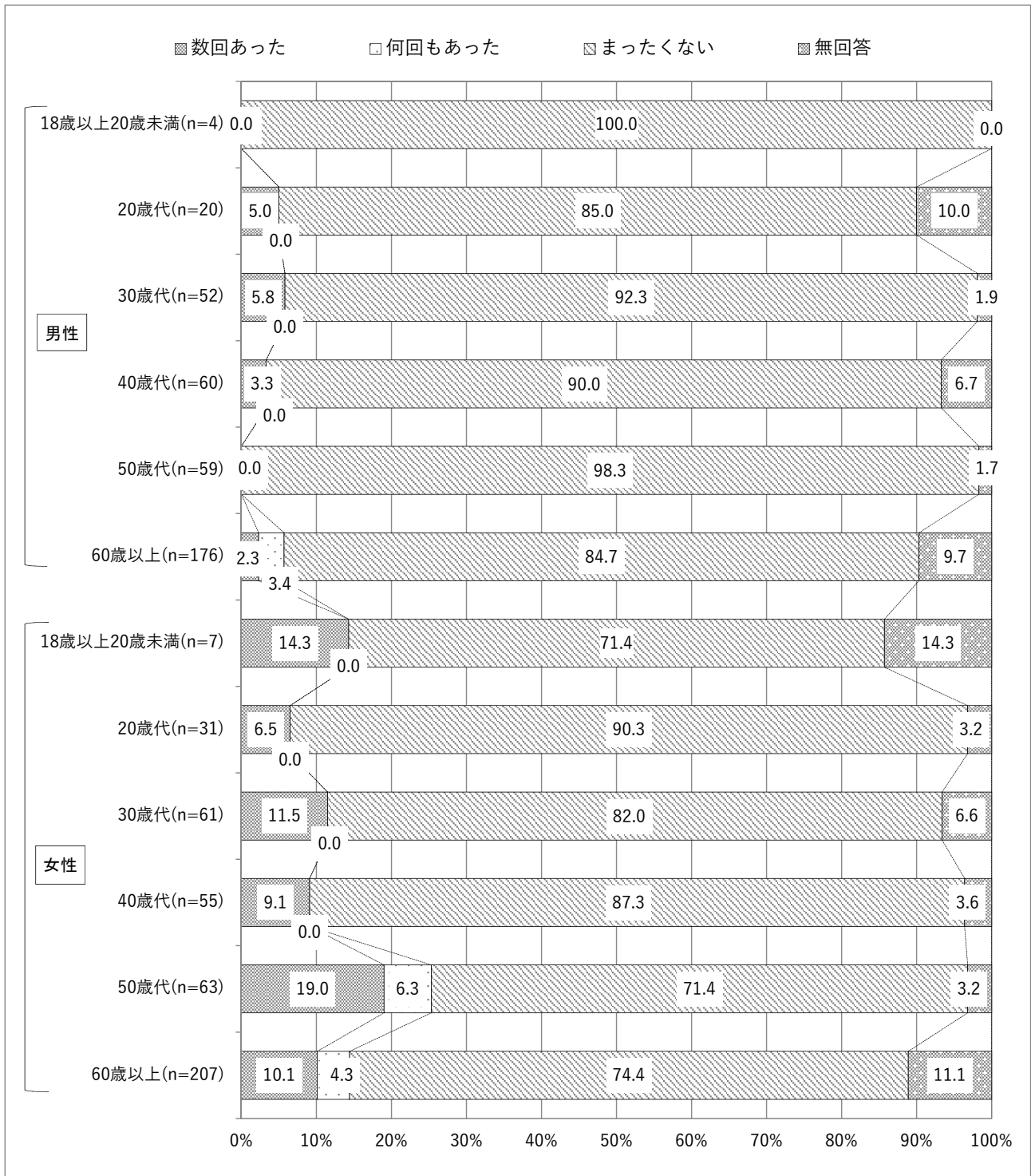
【男女比較 ③ いやがっているのに、性的な行為を強要された】

性別で見ると、女性では「数回あった」11.3%、「何回もあった」3.1%で、合わせた割合は14.4%となっており、男性の4.3%より10.1ポイント高くなっている。



【年代比較 ③ いやがっているのに、性的な行為を強要された】

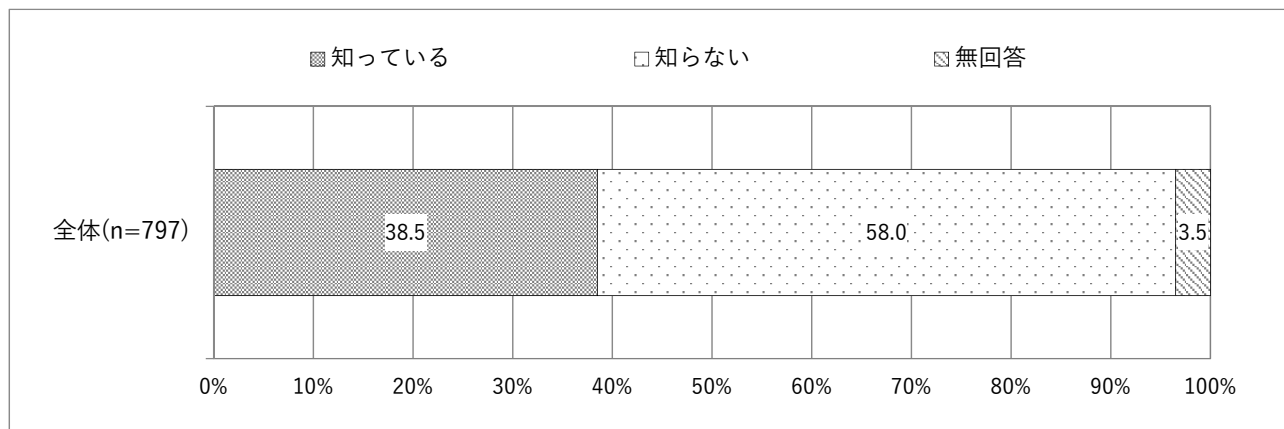
年代別では、男性では、どの年代も約9割が「まったくない」と回答している。女性では、50歳代で「数回あった」「何回もあった」を合わせた割合が25.3%と高い。



問25 あなたはDVに関する相談窓口を知っていますか。

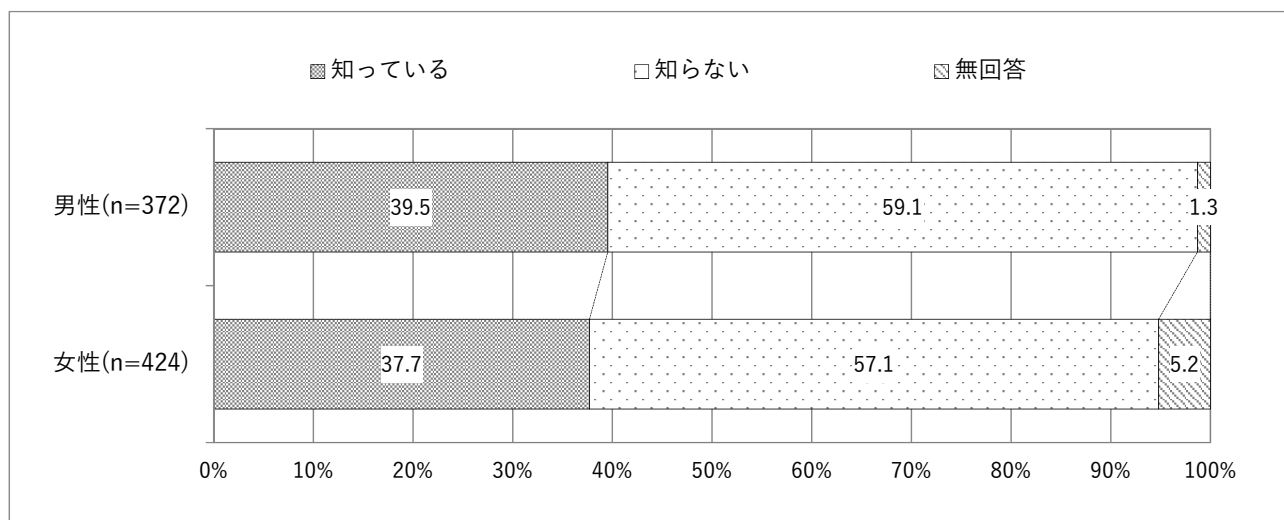
【全体】

全体では、「知っている」307人（38.5%）、「知らない」462人（58.0%）で、「知らない」と答えた人の割合が高い。



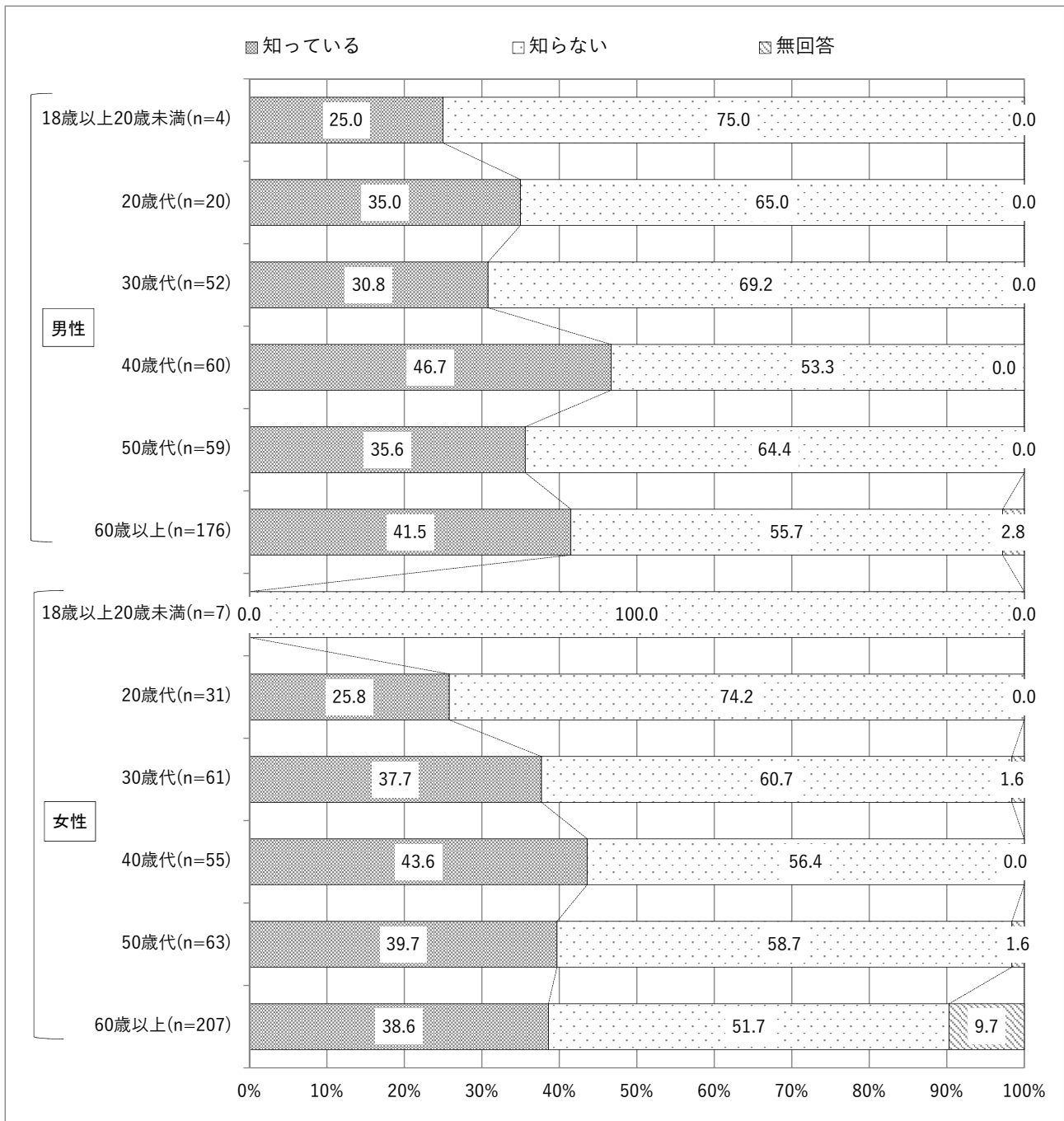
【男女比較】

性別でみると、「知っている」と答えた割合は、男性 39.5%、女性 37.7%で若干男性の方が高い。



【年代比較】

年代別では、男性において、「知っている」と答えた人の割合が高いのは40歳代46.7%である。女性も同様に、「知っている」と答えた人の割合が高いのは40歳代で43.6%である。

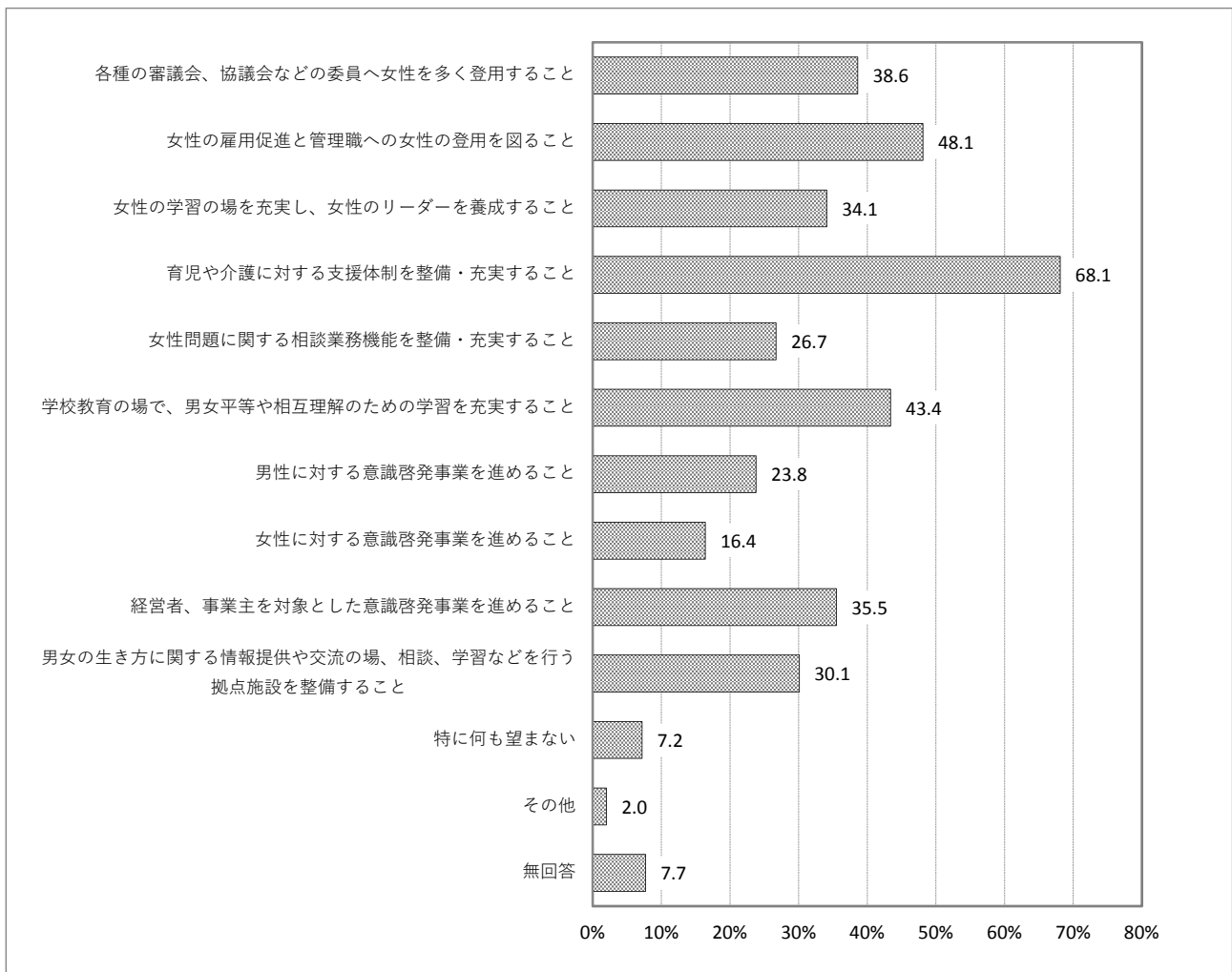


9 行政に望む施策等について

問26 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて、行政に対してどのような施策を望みますか。
優先度が高いものを5つ選んでください。

- 1 各種の審議会、協議会などの委員へ女性を多く登用すること
- 2 女性の雇用促進と管理職への女性の登用を図ること
- 3 女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること
- 4 育児や介護に対する支援体制を整備・充実すること
- 5 女性問題に関する相談業務機能を整備・充実すること
- 6 学校教育の場で、男女平等や相互理解のための学習を充実すること
- 7 男性に対する意識啓発事業を進めること
- 8 女性に対する意識啓発事業を進めること
- 9 経営者、事業主を対象とした意識啓発事業を進めること
- 10 男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、学習などを行う拠点施設を整備すること
- 11 特に何も望まない
- 12 その他

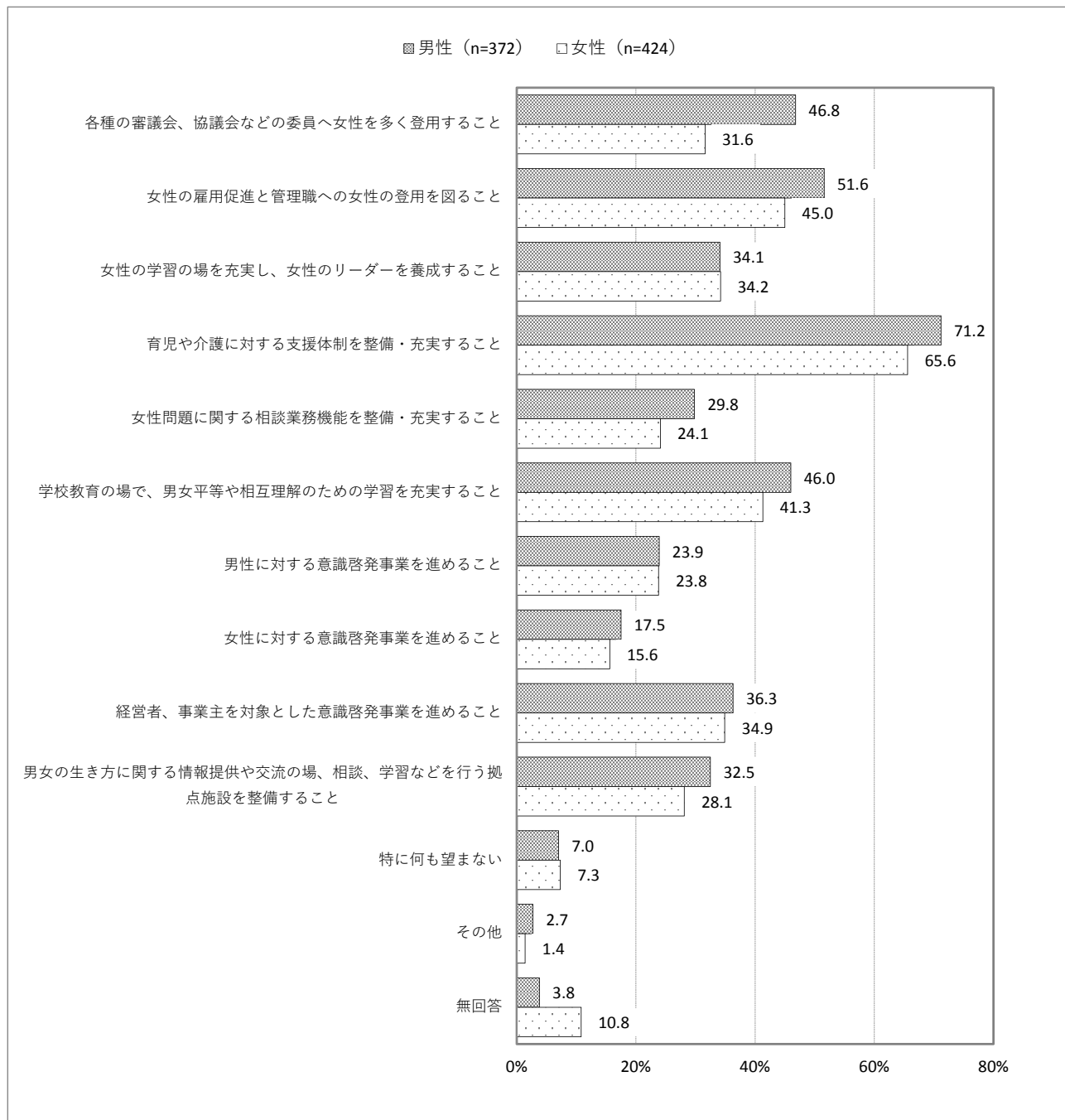
【全体 (n=797)】



【男女比較】

男女共同参画に向けて行政に望む施策としては、男女ともに「育児や介護に対する支援体制を整備・充実すること」が最も割合が高く、男性 71.2%、女性 65.6%である。次に「女性の雇用促進と管理職への女性の登用を図ること」で男性 51.6%、女性 45.0%である。

男女の違いでみると、「各種の審議会、協議会などの委員へ女性を多く登用すること」において、男性が 46.8%であるのに対して、女性では 31.6%と、男性の方が 15.2 ポイント高くなっている。

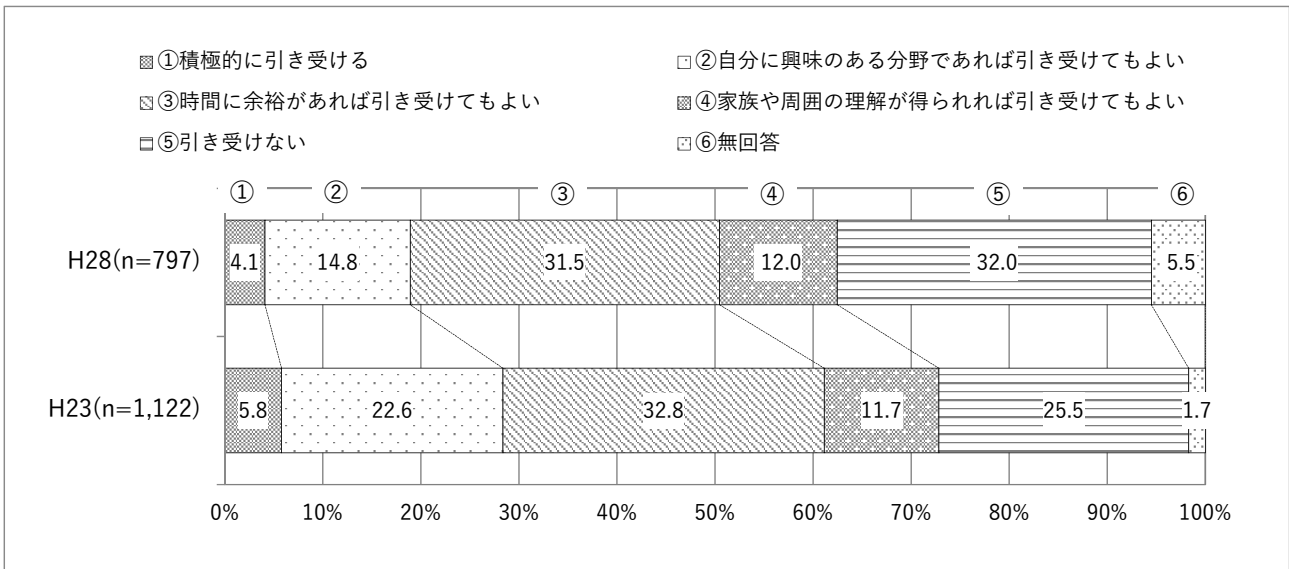


問27 現在山口市には、地域交流センター運営協議会などの協議会や審議会があり、委員を市民の方
 において意見を伺っています。あなたにこのような公的な委員等への依頼があった場合、
 あなたはどのようにされますか。1つ選んでください。

【経年比較】

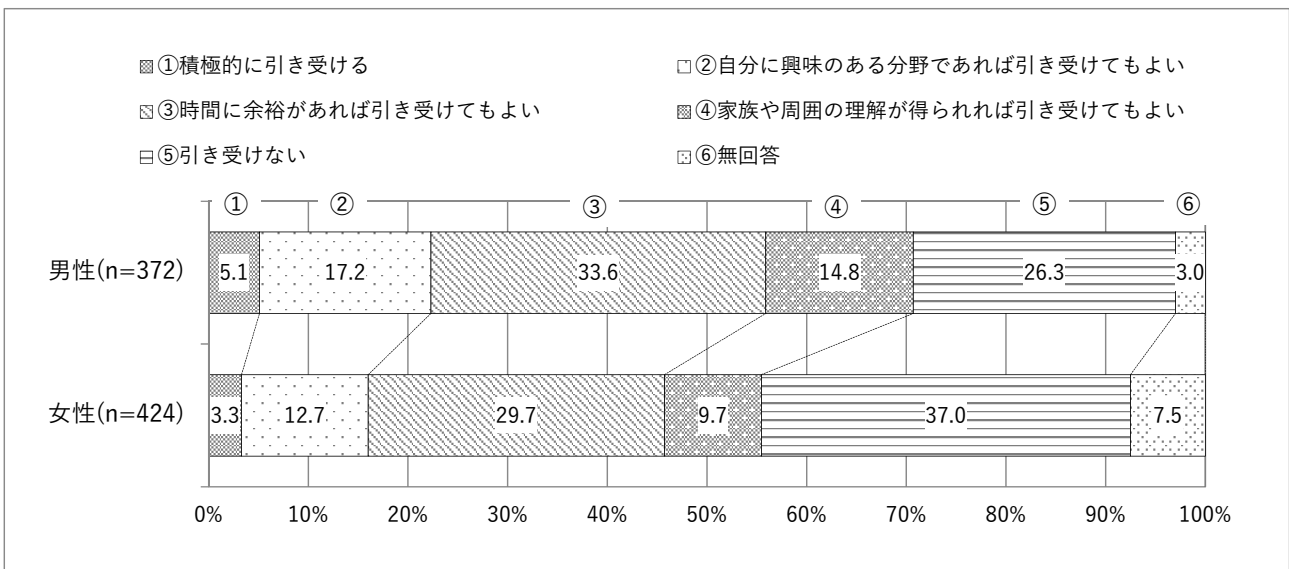
全体では「積極的に引き受ける」4.1%、「自分に興味のある分野であれば引き受けてもよい」
 14.8%、「時間に余裕があれば引き受けてもよい」31.5%、「家族や周囲の理解が得られれば引き受けて
 もよい」12.0%と、62.4%が引き受けることに肯定的である。

前回調査と比較してみると、引き受けることに肯定的な割合は10.5ポイント減少している。



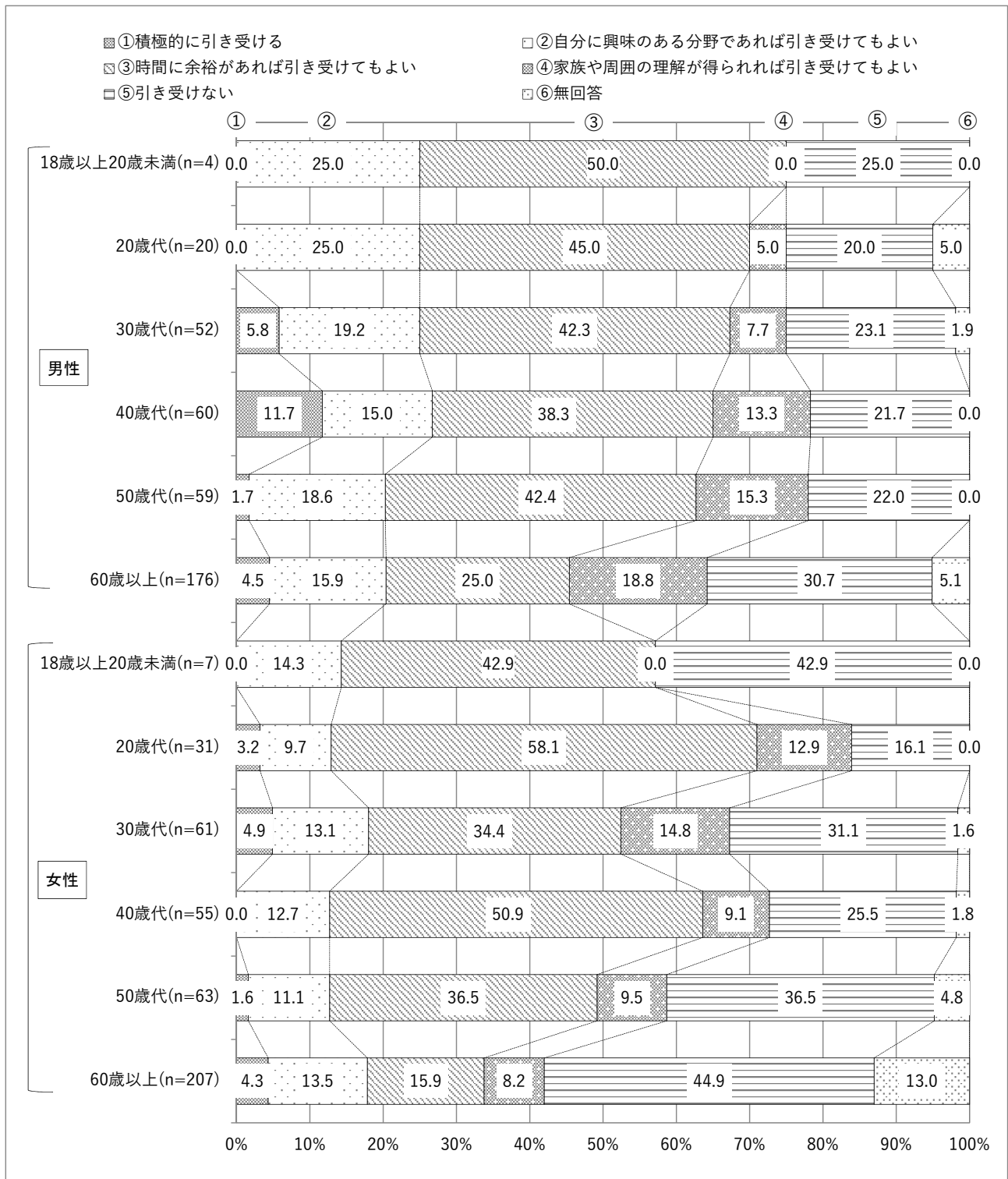
【男女比較】

性別でみると、引き受けることに肯定的な割合は男性が70.7%であるのに対し、女性では55.4%
 と、男性の方が15.3ポイント高くなっている。



【年代比較】

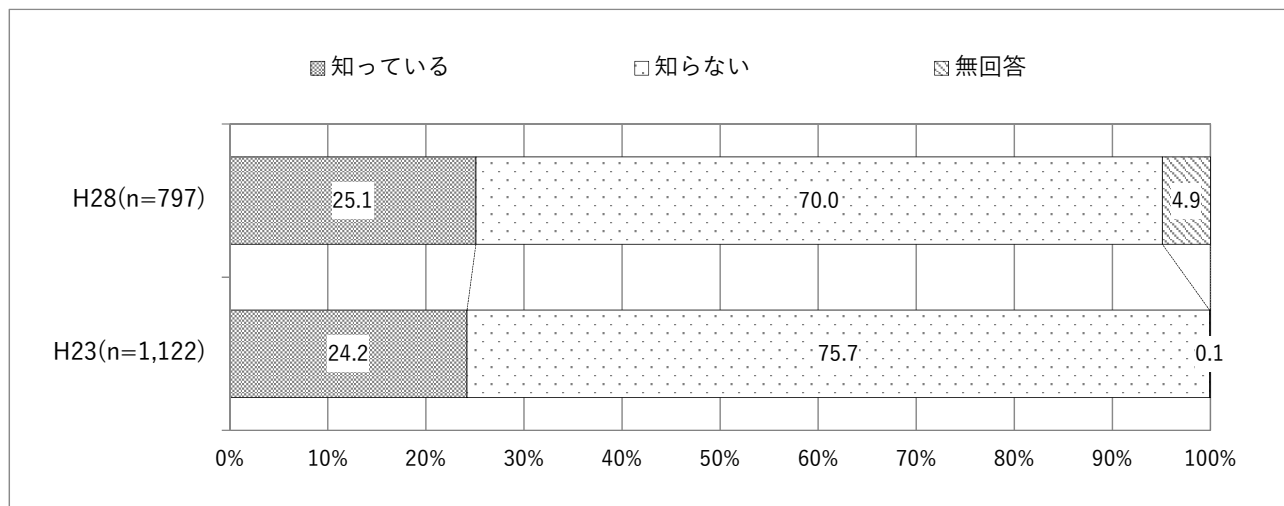
年代別では、引き受けることに肯定的な割合が高いのは、女性で、20歳代で83.9%、40歳代で72.7%、30歳代で67.2%となっている。



問28 あなたは、男女共同参画を推進する拠点施設として、山口市に平成21年4月1日に開設された「山口市男女共同参画センター」を知っていますか。

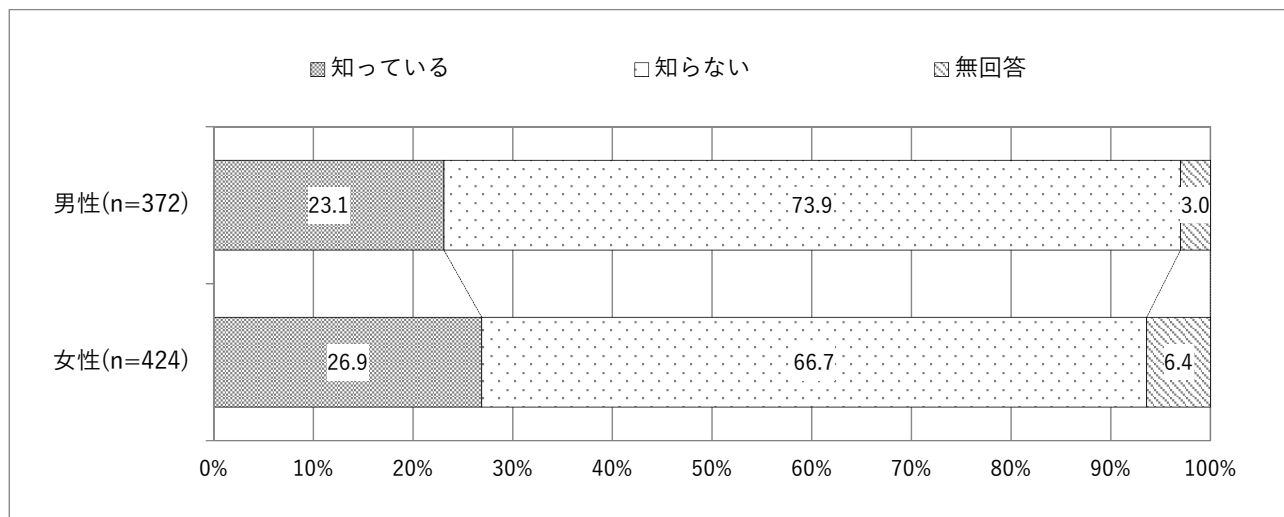
【経年比較】

全体では「知っている」200人(25.1%)、「知らない」558人(70.0%)となっている。前回調査と比較してみると、「知っている」と答えた割合が0.9ポイント増加している。



【男女比較】

性別で見ると、男性では「知っている」23.1%、「知らない」73.9%、女性では「知っている」26.9%、「知らない」66.7%であり、女性の方が認知度が高い。



【年代比較】

年代別では、男性では「知っている」と答えた割合が高いのは40歳代26.7%、60歳以上25.0%である。女性では、年代が高くなるにつれ、認知度が上がっている。

